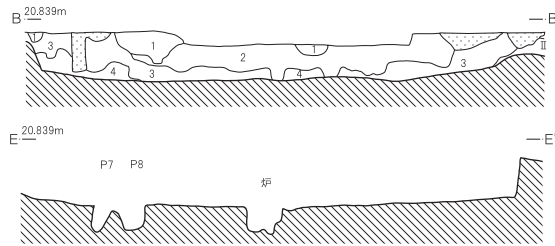
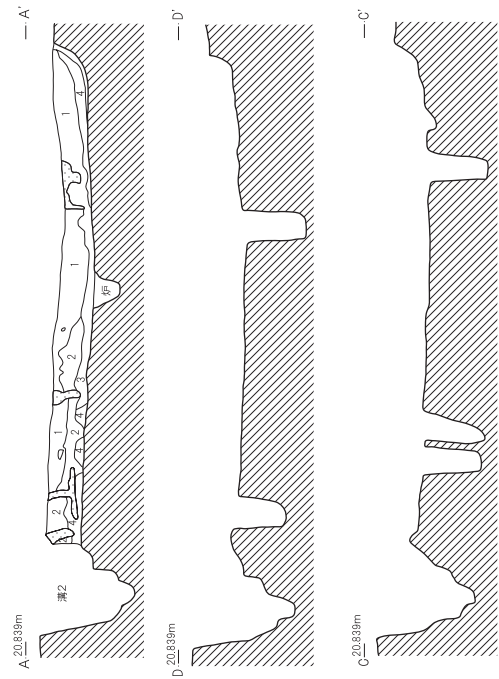
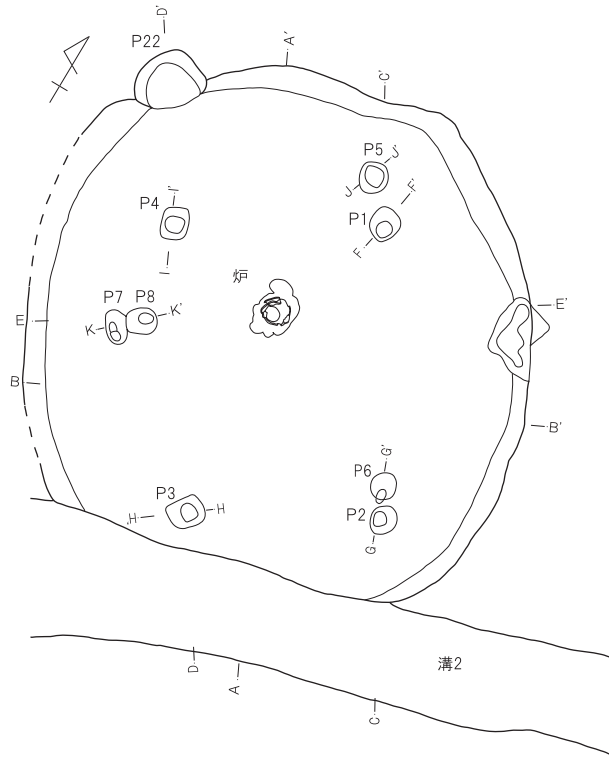
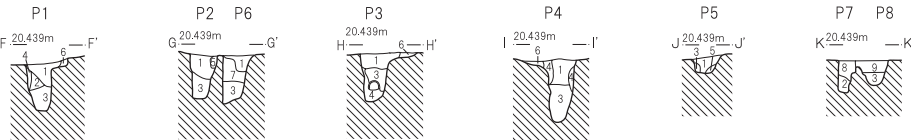


5号住居跡



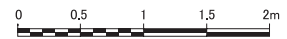
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、炭化物(5mm以下)少量、焼土(1mm以下)わずか
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多量、炭化物(1mm以下)少量、焼土(1mm以下)わずか
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)2層に比べやや多量、炭化物(3mm以下)・焼土(1mm以下)わずか、粒形が不明瞭なローム塊(3cm以下)多量、うっすら斑状を呈する。ハードローム塊(1cm以下)少量
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、炭化物(2mm以下)わずか、ベースの土と一体化したローム塊を含み若干斑状を呈する。1~3層に比べ締り強くローム粒は少ない

ピット

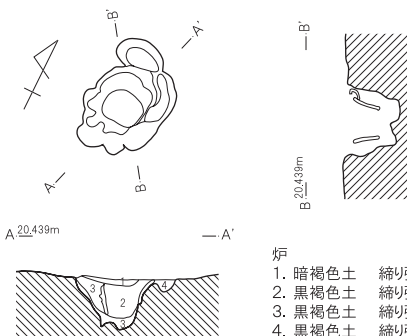


住居内ピット

1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)やや多量、ローム塊(0.5~1cm)少量
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、暗褐色土塊(1cm以下)やや多量、P2・3は炭化物(2mm以下)少量
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、崩落したようなローム塊(2cm以下)多量
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、床面、ロームの窪みに堆積する土、締り強く形のはっきりしないローム塊(1.5cm以下)多量
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土とローム土が締り強く一体化して堆積する P6にある
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土がやや斑状を呈してベースとなり、ローム粒(2mm以下) やや多量、ローム塊(1cm大)少量
9. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土がやや斑状を呈してベースとなり、ローム塊(2~3cm)・ローム粒(2mm以下)少量



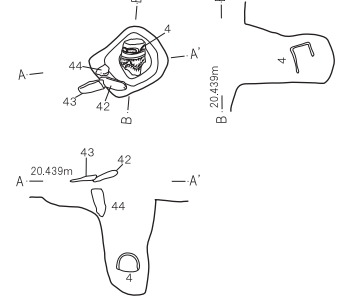
炉



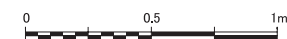
炉

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒・焼土(2mm以下)わずか、ピット1層に似る
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・ローム塊(1~1.5cm以下)少量
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム塊(0.5~2cm以下)多量、色調は3層より明るい

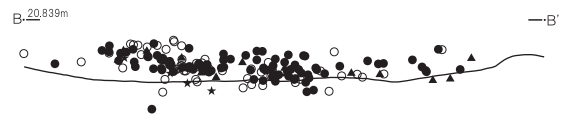
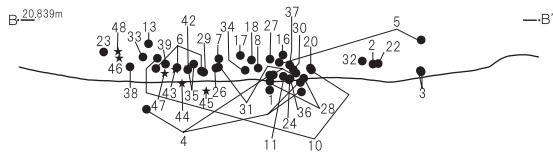
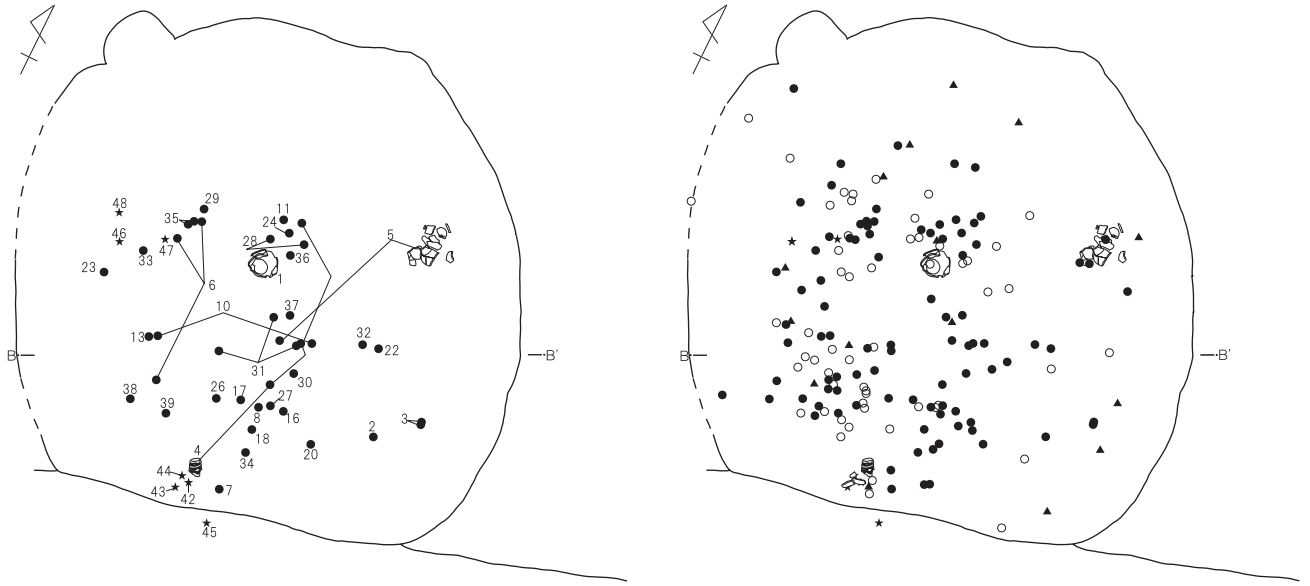
P3遺物出土状況



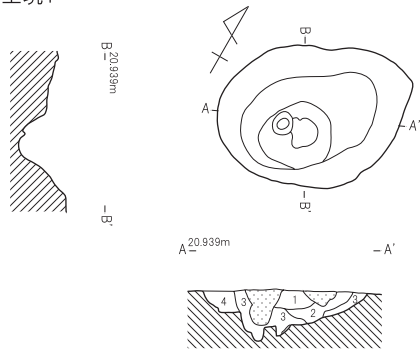
ピット3の土器内の土は締り強く粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)が主体、黒褐色土少量、3・4層とは異なる土質



第107図 江川南遺跡5号住居跡(1/60) 炉(1/30)



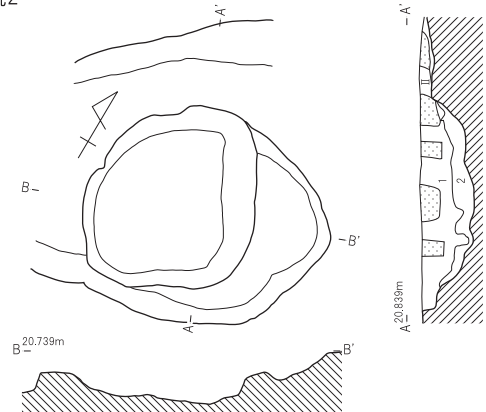
土坑1



土坑1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずか  
下半に暗褐色土の硬い塊多量
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、粒形大ローム粒(2~5mm)少量
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状のローム塊(2cm以下)多量、斑状を呈する
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2層に似た土質、ローム粒(3mm以下)少量

土坑2



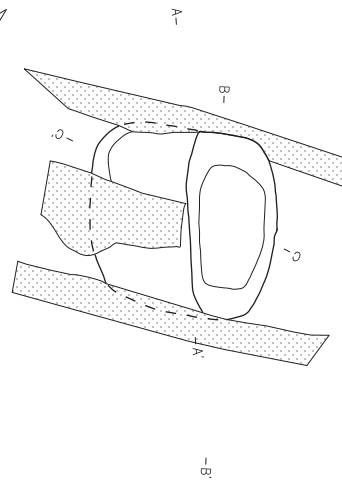
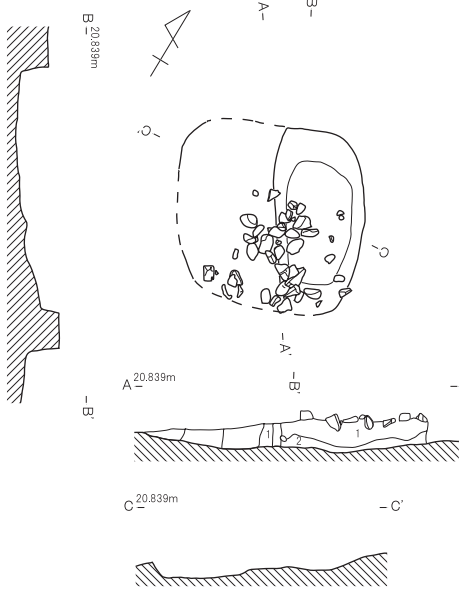
土坑2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ローム塊(5~15mm)少量、  
南端はローム分多く色調明るい
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ソフトローム塊(5cm以下)  
多量、ハードローム塊(1.5cm大)少量  
ベースの土は、灰色味強く含有物は少なめ
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1・2層に比し色調明るい、ローム粒(3mm以下)少量



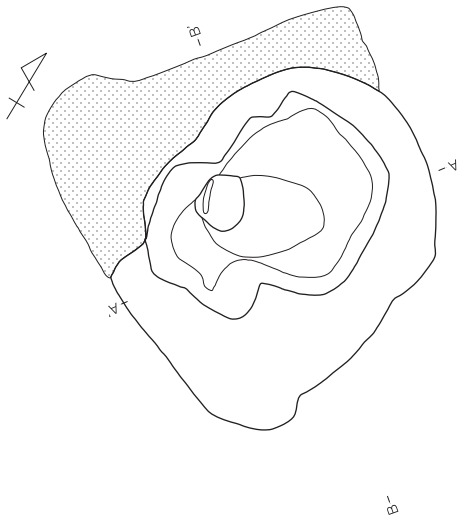
第108図 江川南遺跡5号住居跡遺物出土状況・江川南遺跡第23地点土坑(1/60)

集石1



- 集石1
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずか
  - 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム塊(1cm以下)少量、志紀町は明るいがローム粒・炭化物・焼土(2mm以下・粒径大)少量
  - 3. 包含層暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、炭化物・焼土(2mm以下)少量

集石2



- 集石2
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)わずか、ローム・焼土粒(微細)少量、炭化物(3mm以下)わずか、2層に比し灰色味強く礫は本層中に多量
  - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒・焼土(1mm以下)少量、炭化物(3mm以下)少量(中央に動植物痕と思われるローム粒の集中部分がある)
  - 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)を2層より多く含み色調明るめ、炭化物(2mm以下)少量
  - 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層に比べ締り強く色調明るくなる。ローム粒(2mm以下)・ソフトローム塊(1cm以下)少量
  - 5. 黒褐色土 締り有、ローム粒・炭化物・焼土(1mm以下)少量、1・2層に比べ灰色味が強く、締り強め
  - 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)やや多量、ローム塊(1cm以下)少量、炭化物(1mm以下)少量だが目立つ
  - 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ベースの土は6層に似る、ローム粒(3mm以下)やや多量、ローム塊(1.5cm以下)多量、炭化物(1mm以下)少量
  - 8. 黄褐色土 締り強、粘性有、主体、ソフトロームローム塊(3cm以下)少量、炭化物(1mm以下)わずか、上層からシミ状に黒褐色土のしみこみがみられる

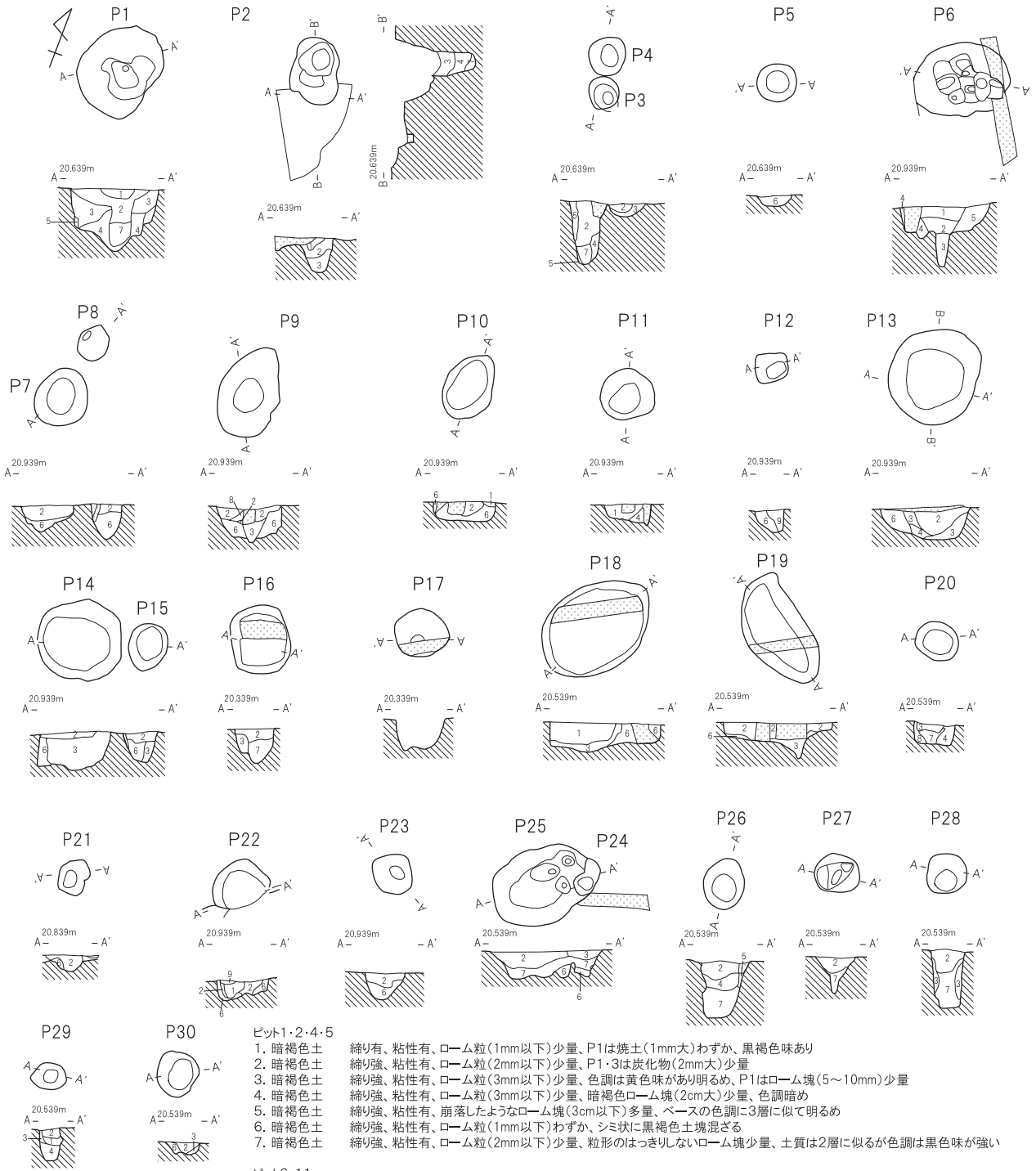


第109図 江川南遺跡第23地点集石 (1/60)

第58表 江川南遺跡第23地点集石一覧表

(単位cm・g)

No.	平面形態	土坑確認面	底面	深さ	礫範囲	赤化				完形礫 (%)				備考		
						礫数	重量	個数	重量	個数比	重量比	個数	重量		個数比	重量比
1	隅丸方形	78 × 74	50 × 26	10	65 × 50	49	3665	4	535	8.2%	14.6%	5	900	10.2%	24.6%	土器片 1点
2	楕円形	135 × 105	50 × 33	44	115 × 80	540	18500	60	1980	11.1%	10.7%	25	1450	4.6%	7.8%	土器片 1点



ピット7~10, 12~30

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色味があり、ローム粒(1mm以下)少量、P18・19はローム粒・炭化物(2mm以下)、P29は(1~2mm) 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ローム塊少量、炭化物・焼土(2mm以下)わずか
- 2. 暗褐色土 P13は炭化物(2mm以下)・焼土(1mm以下)やや多量、P14はややボロボロ、炭化物・焼土なし P26はローム粒(2mm以下)やや多量、焼土(1~3mm)少量、炭化物(1~2mm)少量 P28はローム塊(5mm大)少量、炭化物(2mm以下)少量目立つ、P30は炭化物(1mm以下)わずか
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、黄色味があり、色調明るめ、ローム粒(3mm以下)少量、締りはやや弱、ローム塊目立つ P13はローム塊(0.5~1cm)やや多量、P15はローム塊(1cm以下) P16はローム塊(1cm大)少量、P20は中央下にローム集中、P24は締り強く、炭化物(1mm以下)わずか P28は色調明るいローム塊(5mm大)少量、P29のローム塊はソフト質、P30は色調明るく、締り・粘性弱め
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調暗め、ローム粒(3mm以下)少量、暗褐色ローム塊(2cm大)少量
- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、崩落したようなローム塊(3cm以下)多量、ベースの色調は3層に似て明るめ
- 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、暗褐色土とローム塊が締り強く一体化して堆積する、ローム粒(1mm以下)少量、炭化物・焼土(1mm以下)わずか。P13は炭化物(2mm以下)わずか
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、土質は2層に似るが黒色味強い、ローム粒(2mm以下)・粒形がはっきりしないローム塊を少量 P24はP25に比べ締り強くローム粒(3mm以下)やや多量、炭化物・焼土(1mm大)少量だがめだつ P25は下部にローム塊(1.5cm以下)集中、P28はローム塊(5mm大)少量、炭化物(2mm以下)少量目立つ
- 8. 黄褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム質で暗褐色土にはさまれる堆積
- 9. 黄褐色土 締り強、粘性有、締り強いローム土主体、炭化物(1mm以下)わずか。P22はロームの締り強い堆積

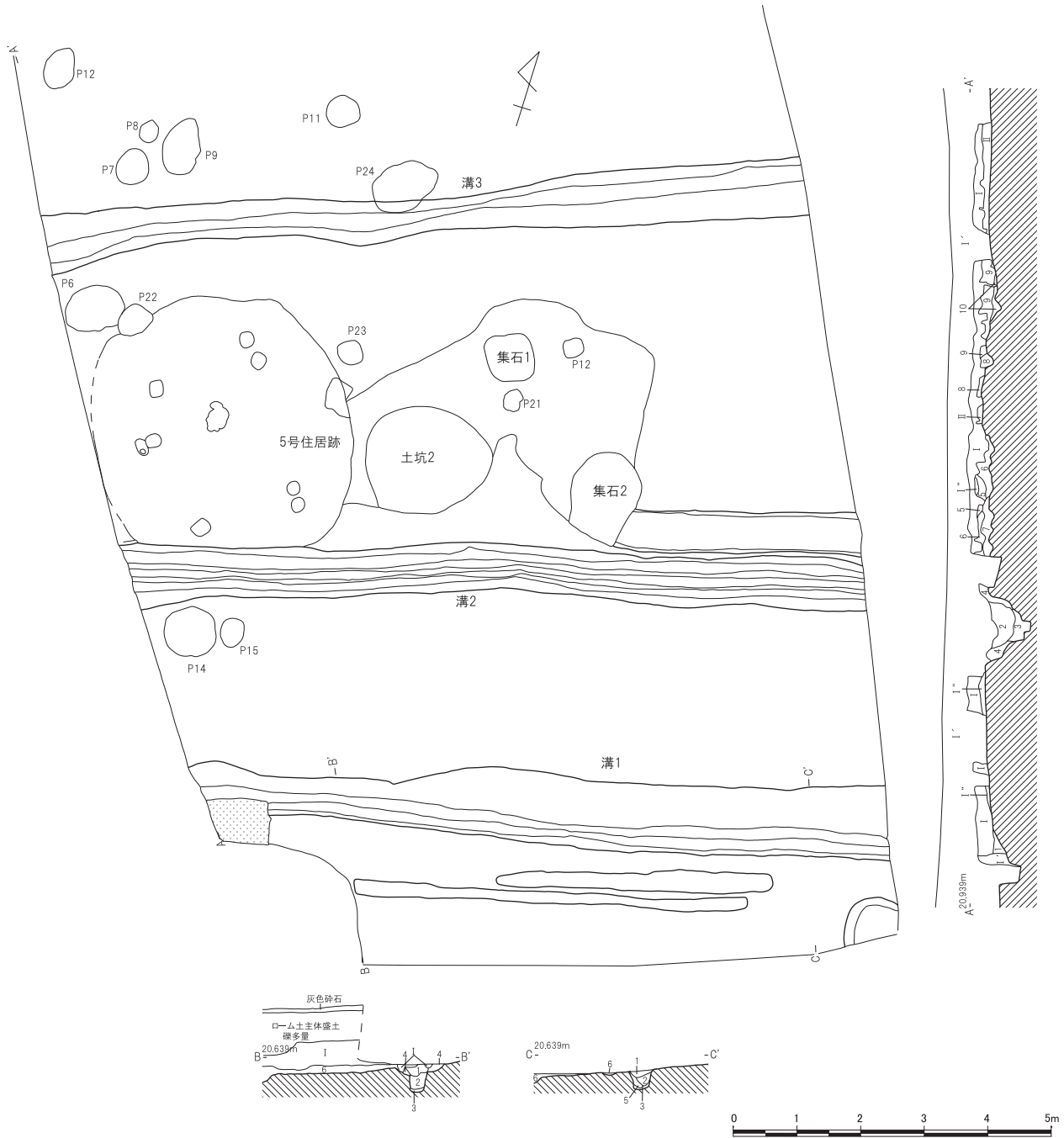
ピット1・2・4・5

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、P1は焼土(1mm大)わずか、黒褐色味あり
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、P1・3は炭化物(2mm大)少量
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、色調は黄色味があり明るめ、P1はローム塊(5~10mm)少量
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、暗褐色ローム塊(2cm大)少量、色調暗め
- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、崩落したようなローム塊(3cm以下)多量、ベースの色調は3層に似て明るめ
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)わずか、シミ状に黒褐色土塊混ざる

ピット6・11

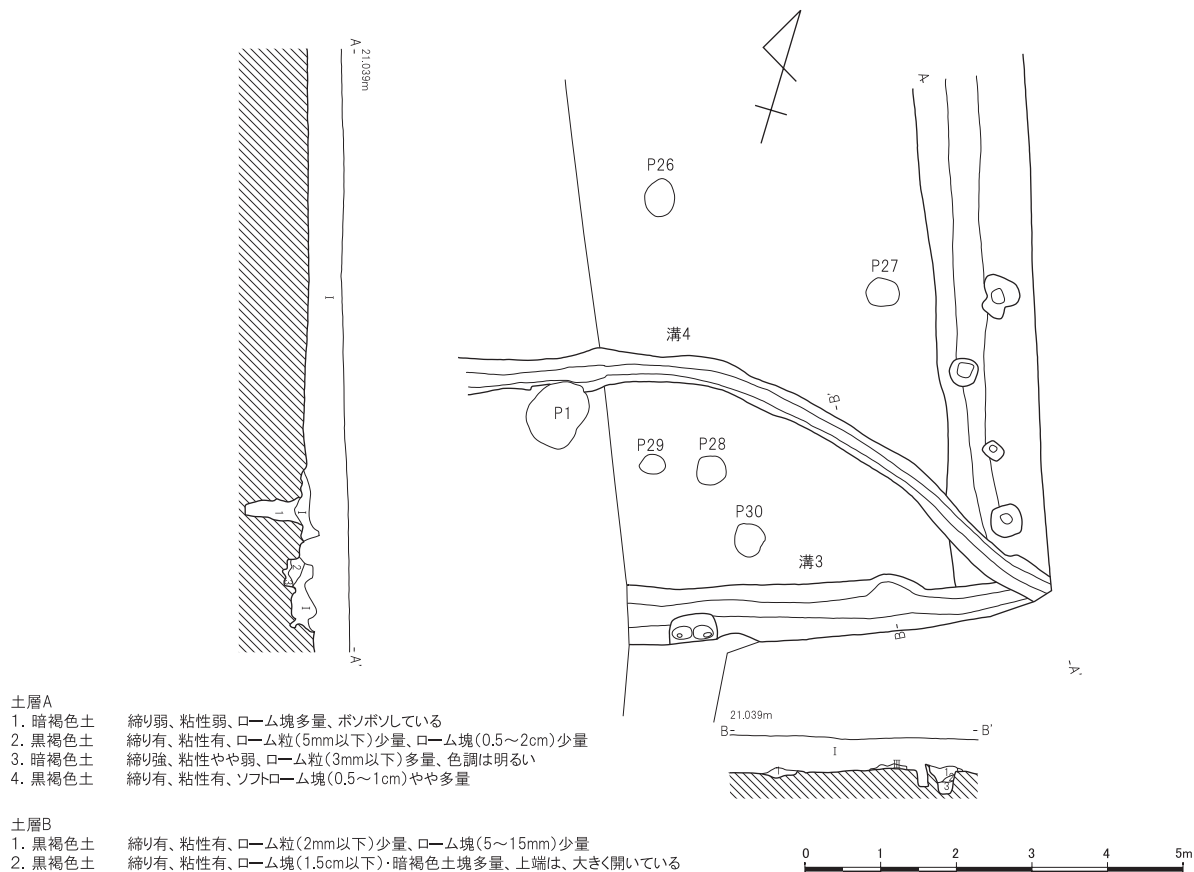
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒・焼土(1mm以下)少量、硬質な黒褐色土塊(3cm大)少量
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、焼土わずか、硬質な黒褐色土塊(1~3cm以下)やや多量
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒多量、粘性弱
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、1層に似る、ローム粒・焼土(1mm以下)少量、但し黒褐色土塊は含まない
- 5. 暗褐色土 締り有、粘性有、色調の明るい暗褐色土とローム塊が締り強く一体化して堆積する

第110図 江川南遺跡第23地点ピット (1/60)



- 溝 A
- I. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒、ローム塊(2cm以下)やや多量、炭化物(5mm大)わずか、下部は黒褐色土とローム塊多量 表土(耕作土)
  - I'. 暗褐色土 締り強、礫多量、ビニール含む 表土(カクラン、盛土)
  - I''. 暗褐色土 締り強、ローム塊(2cm以下)やや多量 表土
  - II. 暗褐色土 締り有、粘性有、地山の漸移層、ローム粒(2mm以下)少量
  - III. 黄褐色土 締り有、粘性有、地山のソフトローム、ハードローム塊が混ざる 立川ロームⅢ層
- 溝1の6層に同じ 暗褐色土、シミ状に黒褐色土を含み祖父とローム土、ローム粒(5mm以下)やや多量
- 溝2
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(0.5~2.5cm)少~やや多量
  - 2. 黒褐色土 締り有、粘性弱、ローム塊(4cm以下)多量
  - 3. ソフトローム+黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)多量、下半はソフトロームもしくはハードローム塊主体
- 5号住居
- 5. 5号住居1層と同じ
  - 6. 5号住居2層と同じ
  - 7. 5号住居3層と同じ
- ピット6
- 8. 暗褐色土 ローム粒(1mm以下)少量、焼土(1mm以下)わずか
  - 9. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、ローム塊(0.5~1.5cm)少量
  - 10. 黒褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム塊(15mm以下)・暗褐色土塊多量、上端は、大きく開いている
- 溝3は浅く、上は大きく開いている
- 溝 B・C
- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)多量、灰色粘土(5mm大)わずか、しみ状に黒褐色土やや多量
  - 2. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(1cm大)少量、ソフトローム多量
  - 3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ソフトローム土、ローム粒(5mm以下)・ローム塊(1cm大)やや多量、2層に比べ色調暗い点で区別
  - 4. 暗黄褐色土 締り有、粘性やや弱、ソフトローム主体、ローム粒(5mm以下)多量
  - 5. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)・ローム塊(0.5~3cm)やや多量
  - 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(3cm以下)多量、下面の起伏著しい。
- 根あともしくは耕作痕の重複と考えられる。 溝1下の堆積

第111図 江川南遺跡第23地点溝1~3 (1/100)



第112図 江川南遺跡第23地点溝3・4 (1/100)

(6) 5号住居跡出土遺物(第113、114図1~48)

1は炉内埋設土器であり、口縁から胴中部までを遺存し、口縁部は80%を欠失し推定口径28cm・遺存部高は19cmである。口縁部文様帯は、隆帯による下向半円形と三角区画文で、隆帯裾と区画内に押引文を入れるが三角押文に近いものもある。頸部素文帯下の胴上部文様帯は横帯区画で、平行四辺形と三角形の区画内に2列の三角押文を巡らす。胎土に白色軟質物質を含み、整形・施文は入念で焼成は良好であり、赤褐色を呈する。新道式新相である。

2は小深鉢の口縁から胴上部までの3分の1を遺存する。幅広い口縁部文様帯は半円形と長い山形区画文を基調とし、区画内は隆帯沿いに2列の押引文を入れる。区画接合部には、突出した抽象図形をつくる。胴上部文様帯は遺存部が少ないが押引文がある。胎土には角閃石、石英粉末、白色軟質物質を含み、暗褐色を呈する。新道式新相といえる。

3は口縁端部を欠失し胴部までの30%を遺存する小深鉢である。口縁部文様帯は三角区画文を基本とし、

素文帯と文様帯の区画は幅広押引文である。胴上部文様帯は横帯文で三角・逆三角の区画内側に三角押文を配する。新道式新相である。

4は口縁部を欠く小深鉢で、胴中部文様帯は、三角形・逆三角形区画を連続させるが、区画内には隆帯裾沿いに幅広押引文を加える。胴下部文様帯は6個の楕円形区画文を巡らす。区画隆帯内側に三角押文を入れる。文様帯間に細かいRL縄文を充填する。焼成良好、赤褐色を呈する。勝坂第II様式(藤内式古相)。

5は口縁から胴中部までの4割を残す大深鉢であるが山形無文口縁で、口縁部を器形的には区分しない。波状口縁下の口縁部文様帯にあたる部分は細かいRL縄文のみで口縁との境には波文を入れる。胴上部文様帯は横位の楕円形区画であり、区画内は幅広押引文と波状文である。勝坂第II様式である。

6は浅鉢の底部で、胎土に白色粗砂粒・白色軟質物質と若干の金雲母を含む。阿玉台II式。

7~14は胎土に金雲母を含み、7は高い三角隆帯を垂下させ、8と9は三角押文を基調とし、10~12は複

列の三角押文をもち、13は波状文、14は貼付垂下に特色がある。いずれも阿玉台Ⅱ式である。

15は扇形把手片でラフな押引文をもつ。16は口縁に押引文列をもつ浅鉢で、17は押引による波状文に特徴があり、18は胴下段の楕円形横帯区画で隆帯裾に連続三角押文を入れる。15～18は新道式新相

19～24は隆帯裾に幅広押引文を入れる類で、25は筒形深鉢片。26は胴中部の貼付垂下下部である。19～26は藤内式と言える。27は口縁に刻目文を入れる浅鉢口縁部片、28は粗製深鉢の口縁部。29～32の深鉢底部のうち、29には押引文があり、30は底近くの隆帯上に刻みを入れる。31の無文深鉢底には編物痕がある。33と34は幅広押引文と波状文のセットで34の隆帯上にはC字形の刻目をもつ。35～37は筒形深鉢の胴部文様帯で、縦長区画を基本とし刺突を加える。33～37は勝坂Ⅱ式藤内式段階といえる。38は隆帯部分を欠失する。39は深鉢底部で、胎土に金雲母を含み、2次被熱によるハジケ現象が内面に著しい。40と41は側面調整の著しい土製円板で、40は地文縄文、41は波状沈線をもつ。

#### (7) 集石・土坑・ピット出土土器 (第114図)

1は集石出土で隆帯裾に幅広押引文をもち、もろく灰褐色呈し蒸されたことを示す。2と3は土坑1出土で、2は三角押文列が3は複列の短い角押文をもち、勝坂第Ⅳ様式。藤内式。4はピット12出土の筒形深鉢片。5と6はピット13出土の無文底部である。

#### (8) 遺構外の土器

1は押引文のほかに三角押文を押し付いた波形をもつ。

2は口縁下に三角押引文と半月状沈線。3は幅広押引文と鋭い三角押文のセット。4と5は堅い焼成で、6～8は幅広押引文。9は小型の筒形深鉢である。10～12は隆帯上の刻目文をもつ。13は隆帯上にC字形爪形文、14は蓮華文をもつ。15・16は隆帯による区画内に沈線列をもつ。17は無文の浅鉢、18は爪形文の小浅鉢。20は三角押文による波状文がある。18～21は胎土に金雲母を含み、阿玉台Ⅱ式新相。

1や2のような新道式新相から藤内式新相がある。3～8は藤内Ⅰ式、10～16は藤内Ⅱ式である。22は脚状土製品で胎土に石英粉末と金雲母を含む。時期不明。遺構外の細片は割愛したが、勝坂末期や加曾利E式の破片はない。

#### (9) 江川南遺跡第1号住居跡 (参考)

1977年に町史(旧大井町)編さん事業の一環として発掘調査された住居跡である。

【位置】調査区の西、福岡江川の30m南に位置する。

【形状】全面を検出した。平面形態は円形を呈し、規模は主軸方位の南北方向で5.4m、東西5.3m。確認面から床面の深さは35cm、壁は若干緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

【炉】炉は深鉢を転用した埋甕炉。径50×40cm・深さ25cmのピットに口縁部と底部を打ち欠いた土器を埋設する。炉体土器は猪沢式。

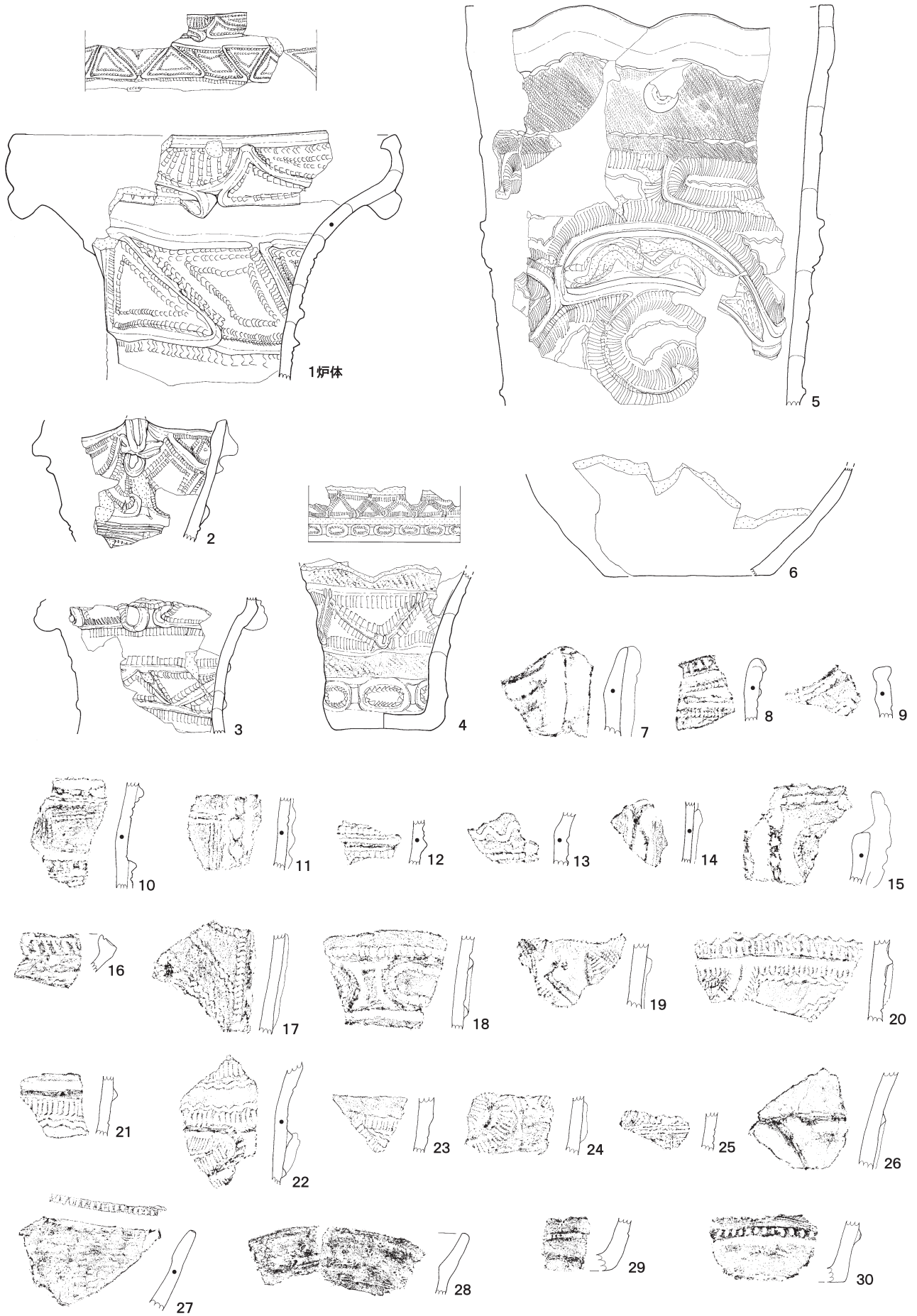
【ピット】14基検出し4基が主柱穴と思われる。

【時期】炉体土器から勝坂Ⅰ期。

第59表 江川南遺跡第23地点出土遺物観察表

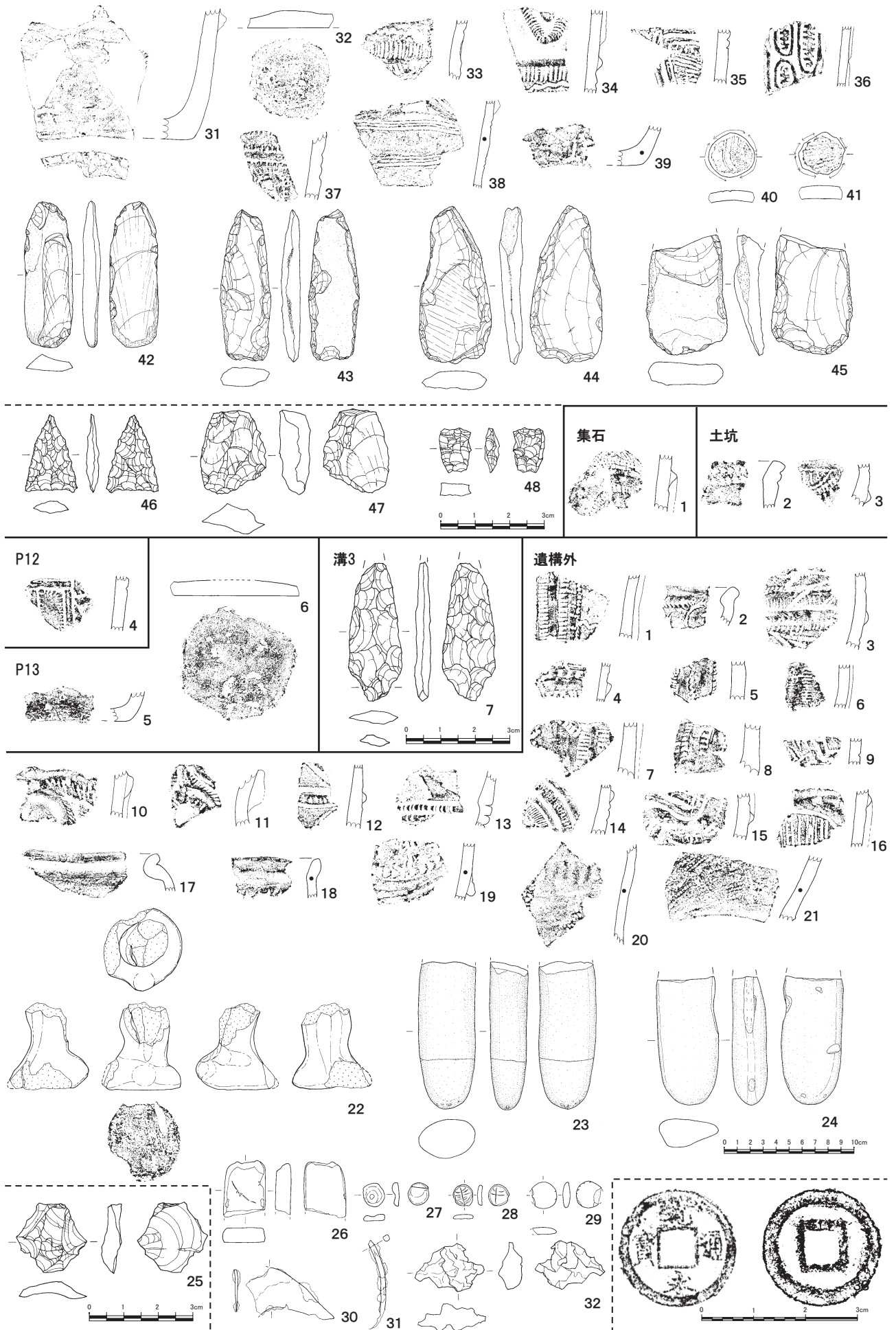
(単位cm・g)

遺構	No.	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	重量	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
5号住居跡	42	打斧	11.20	3.70	1.40	64.45		砂岩	縄文時代	P3 No.2
5号住居跡	43	打斧	11.55	3.95	1.50	89.18		砂岩	縄文時代	P3 No.1
5号住居跡	44	打斧	12.15	5.55	1.85	131.62		砂岩	縄文時代	P3 No.3
5号住居跡	45	打斧破片	9.30	6.20	2.30	133.67		砂岩	縄文時代	No.85、基部欠
5号住居跡	46	石鏃	2.2	1.5	0.3	1.02		チャート	縄文時代	No.34
5号住居跡	47	楔形石器	2.40	1.90	0.95	3.32		黒曜石	縄文時代	No.107
5号住居跡	48	楔形石器	1.30	0.90	0.45	0.49		黒曜石	縄文時代	No.33
溝3	7	石鏃	4.00	1.55	0.50	3.02		ホルンフェルス	縄文時代	
遺構外	23	たたき石	11.25	4.4	2.8	227.84		砂岩	縄文時代	No.6、No.2
遺構外	24	たたき石	10.0	4.6	2.65	187.81		砂岩	縄文時代	
遺構外	25	楔形石器	2.05	2.00	0.55	1.47		黒曜石	縄文時代	
遺構外	26	砥石	[3.79]	3.06	1.30	26.8	表裏側4面砥面。	凝灰岩	中世～	
遺構外	27	ガラス製品/おはじき	1.70	1.53	0.48	1.83	型押し成形/青色・透明/気泡あり。表面に皺。		近代	完形
遺構外	28	ガラス製品/おはじき	1.56	1.42	0.36	1.25	型押し成形/青色・半透明/表面に円形のくぼみ		近代	完形
遺構外	29	土製品/基石	1.96	[1.76]	0.59	1.89	手捏ね成形/白色顔料微量付着	在地?	近世	一部欠
遺構外	30	鉄製品/鎌	[7.09]	2.95	0.33	11.98				切先破片
遺構外	31	鉄製品/釘	[7.12]	0.57	0.48	4.48	角釘			頭部欠
遺構外	32	鉄滓	5.04	3.45	2.23	21.08				
遺構外	33	銭貨・銅銭・寛永通宝	2.285	0.651	0.107	2.21	寛永通宝「新寛永」		元禄十(1697)年初鑄	完形

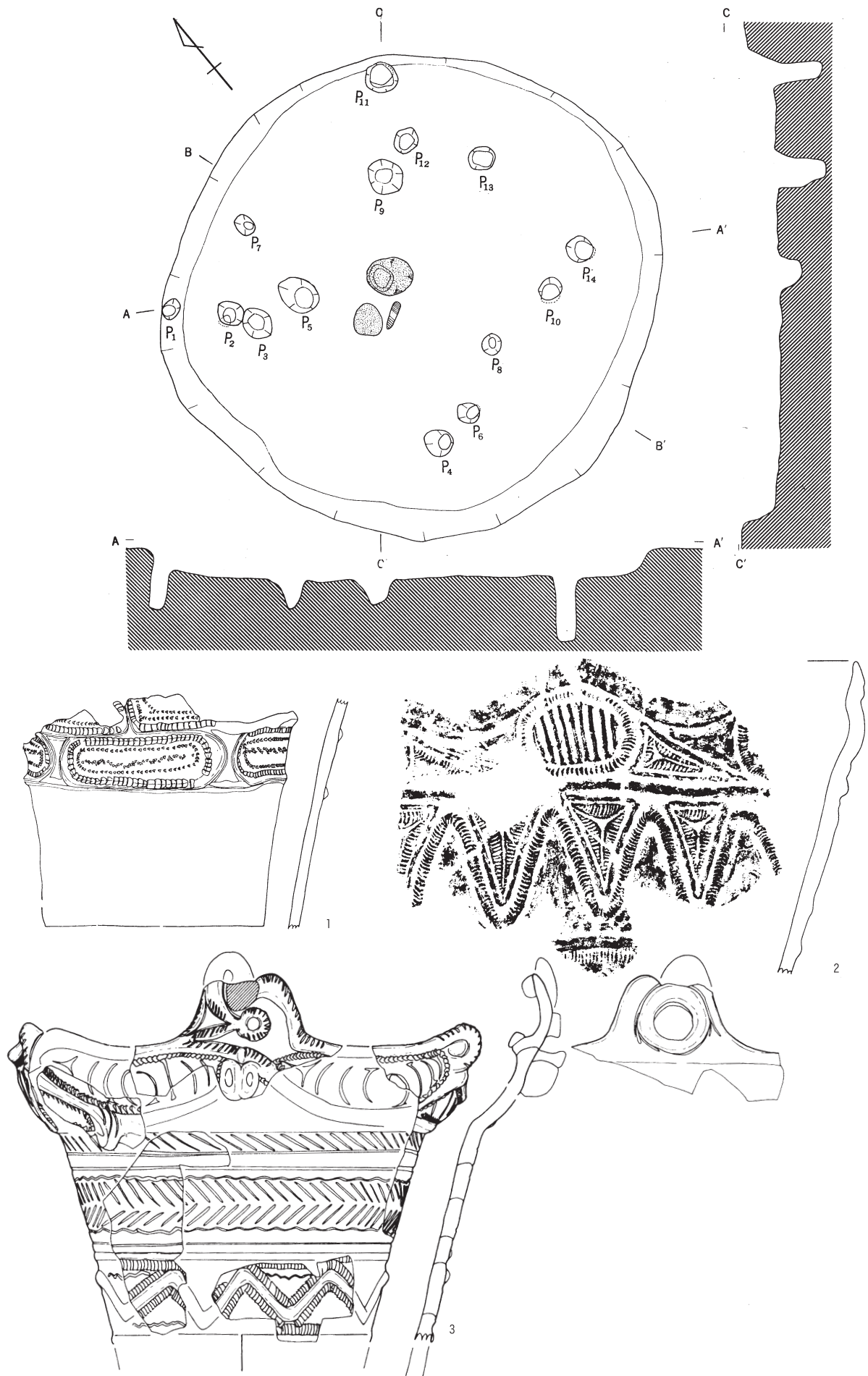


第113図 江川南遺跡5号住居跡出土遺物① (1/4)





第114図 江川南遺跡5号住居跡出土遺物②集石・土坑・ピット・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)



第115図 江川南遺跡1号住居跡(1/60)出土遺物(1/4)

## 第5章 東久保遺跡第64地点の本調査

### I 本調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、2006年10月12日から10月20日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年10月24日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を平板測量で実測、写真撮影を行い、同年10月26日調査を終了した。検出した遺構は時期不明の溝3条、柵列である。

### II 遺構と遺物

#### (1) 溝跡

調査区北東で南北方向の溝を15mに渡り4条検出した。溝1～3は本調査区の東側の14地点検出の溝1と北側の6地点で検出した溝6と連続しており、土地境の溝と思われる。溝4は6地点の溝7と連続するが14地点では溝の続きはなくなり、柵列を検出する。4条の溝は平行しており、土層観察では溝3→溝2→溝1→溝4の順に新しく、西側から東側へ構築されている。

#### (2) 柵列

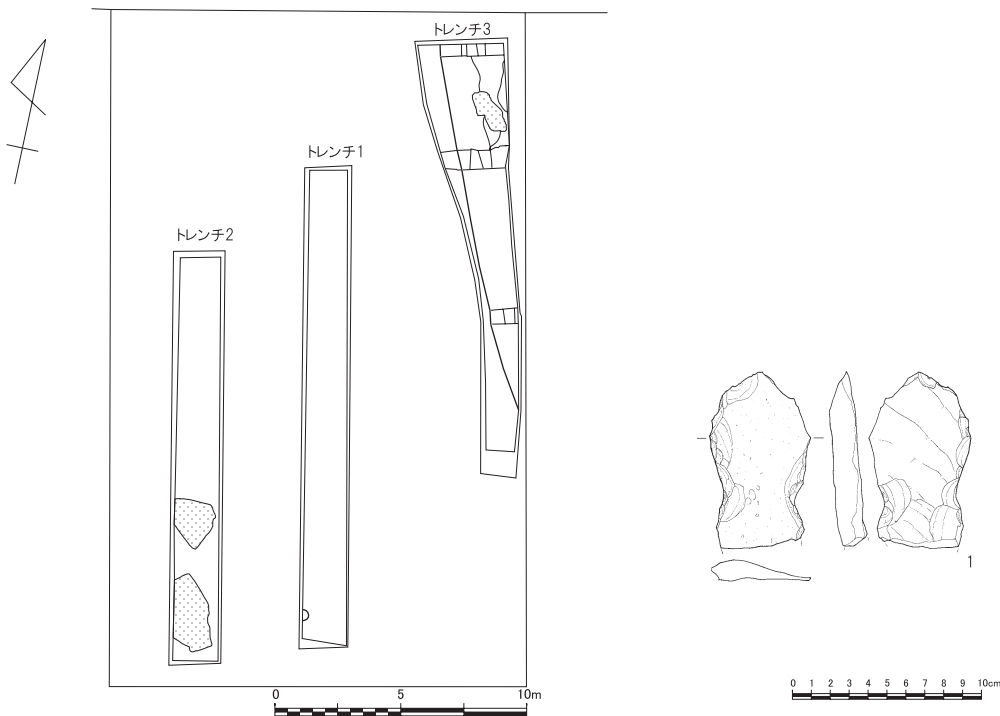
溝と直行する形で柵列を検出した。東側に隣接する14地点でも柵列の続きを検出するが、溝の東側で北へ曲がり溝と平行する。

#### (3) 出土遺物

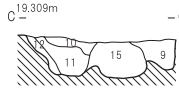
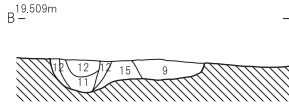
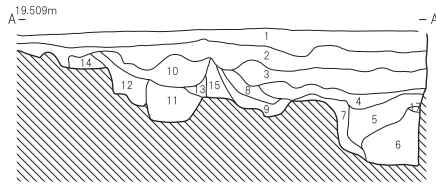
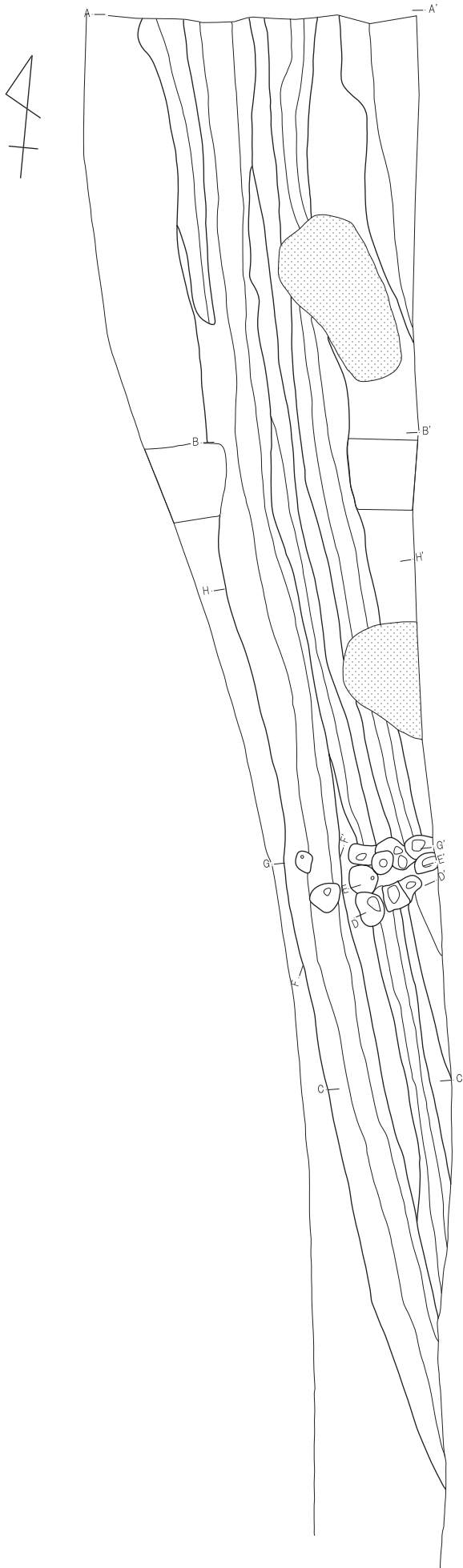
溝1から瀬戸・美濃産天目茶碗の口縁破片を1点検出した。他に打製石斧を溝2と溝4から1点ずつ検出した。1は溝4出土の打製石斧、ホルンフェルス製。77.3g。刃部を欠く。

第60表 東久保遺跡第64地点土坑・ピット一覧 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	断面逆台形	30~45	10~18	49~32	南から北へ向かって約2.5%の勾配。天目茶碗破片出土。
溝2	断面「U」字形	55~90	15~30	32~42	南から北へ向かって約1%の勾配。打製石斧出土。
溝3		25~(30)	10~18	32~42	
溝4	断面「U」字形	(75)~	(50)~	76	打製石斧出土。
P1	楕円形	22×20	2×2	36	
P2	不整形	28×22	11×6	19	
P3	円形	26×22	8×8	54	
P4	不整形	34×16	11×7	42	
P5	楕円形	(28)×24	13×11	22	
P6	円形	32×28	8×6	40	
P7	円形	30×27	3×3	42	
P8	楕円形	(22)×18	(14)×8	13	
P9	楕円形	36×25	16×12	45	
P10	不整形	26×22	16×12	44	
P11	方形	19×16	10×6	23	

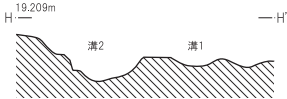
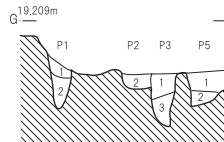
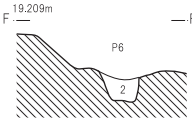
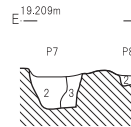
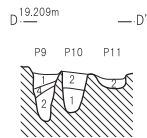


第116図 東久保遺跡第64地点遺構配置図 (1/300) 出土石器 (1/4)



溝

- 1. 暗褐色土 ローム土含む、最下部に白色砂礫、表土
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1~5mm)やや多量
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)・ローム塊(0.5~1.5cm)少量
- 4. 暗黄褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、暗褐色土ベースにソフト質のローム土多量、ローム塊(0.5~3cm)やや多量
- 5. 黄褐色土 締り強、粘性やや弱、ローム塊(1.5~8cm)主体、すきまをソフト質ローム土多く含む暗褐色土が埋める
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性弱、ローム塊(1~5cm)多量、ベースの暗褐色土は灰色味がある
- 7. 黄褐色土 締り強、粘性有、地山のローム土だが、灰色の土が入り込み崩落気味
- 8. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒(3mm以下)少量、ローム塊(5~20mm)多量
- 9. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム塊(0.5~3cm)やや多量、ローム粒は少ない
- 10. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)均一に多量、ローム塊(5~20mm)少量、下部に黒色粘土(3mm厚)が葉理状に2枚はさまれる
- 11. 黒褐色土 締り有、粘性弱、ローム塊(最大12cm、0.5~3cm)多量
- 12. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)少量、ローム塊(1~2cm)少量
- 13. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
- 14. 黒褐色土ベース 締り強、粘性有、ローム塊(0.5~4cm)多量、すきまを黒褐色土が埋める
- 15. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒少量、ローム塊(最大11cm、0.5~4cm)やや多量。おそらく一番古い溝の土
- 16. 黒褐色土と暗褐色の互層 締り強、粘性有、混入物の少ないシルト。締り強、粘性弱、ローム粒(5mm以下)多量に含む暗褐色土。が交互に堆積する 水成堆積
- 17. 暗褐色土 締り弱、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)やや多量、16層の暗褐色土に似るが黒色味つよい。水成堆積と考えられる



溝内ピット

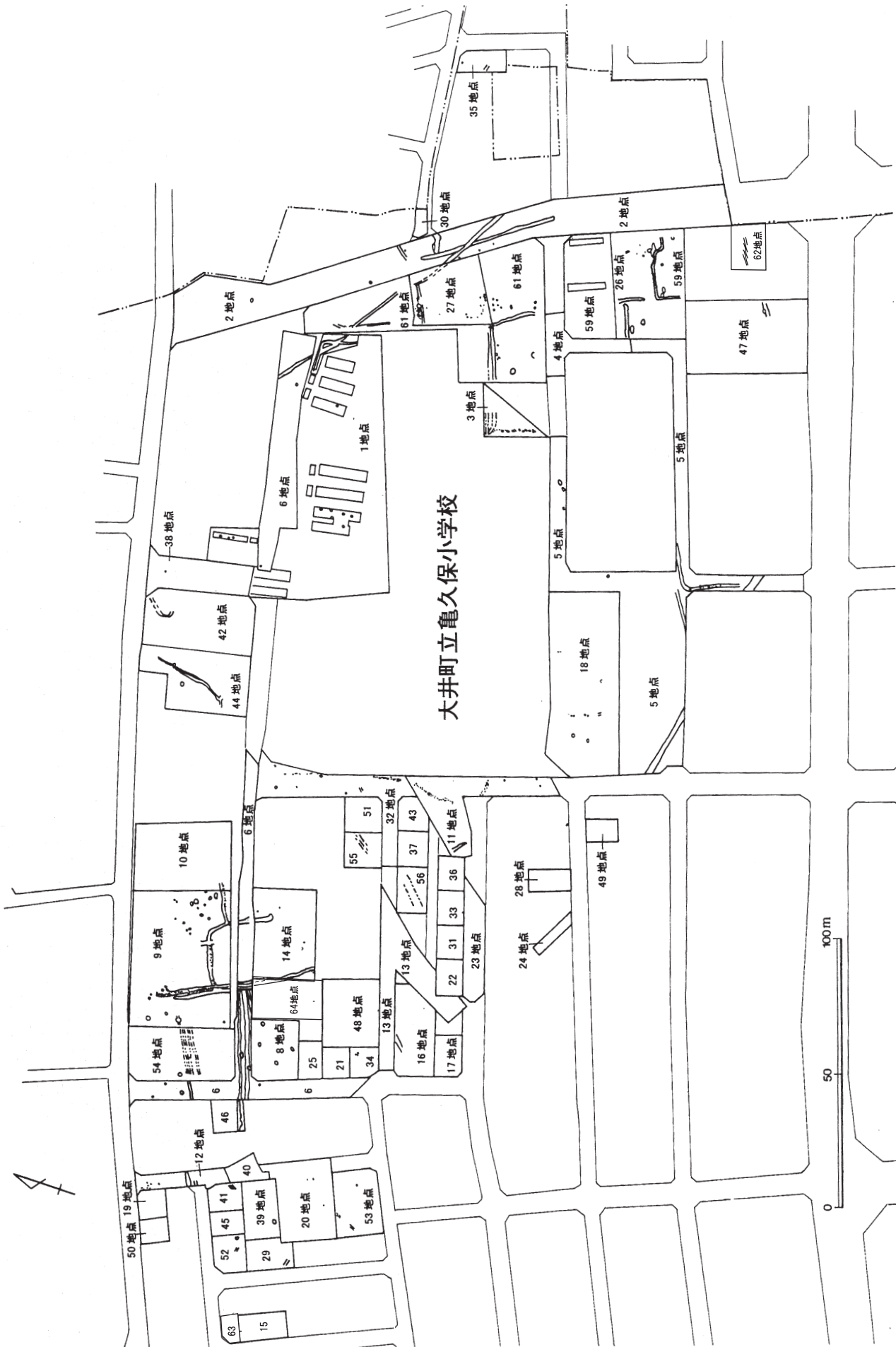
- 1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム粒わずか
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム塊(5~10mm)やや多量
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒多量、色調は明るい
- 4. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ローム塊(3cm以下)主体



第117図 東久保遺跡第64地点溝 (1/60)

表61表 東久保遺跡調査一覧表

遺跡	地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
東久保	1	亀久保字東久保285-1他	(S51.6.29~51.7.27)	10,000	小学校建設	縄文:集石土坑6基、土坑3基、井戸2基、溝2本、縄文土器・石器	大井町文化財報告第7集 東久保遺跡
東久保	2	亀久保293-1他	H6.12.19~7.3.23 (H7.5.18~7.5.22)	2,472	区画整理道路	中・近世:溝4本、ピット4、土坑2基	調査会報告第14集
			(H8.11.15)	25	水道管理設	溝1本	
東久保	3	亀久保284-1	(H8.5.20~8.5.29)	270	学童保育所移設	溝2本、欄列1本、遺物無し	町内遺跡群VI
東久保	4	亀久保364-1	(H8.6.7~8.6.10) H8.9.2~8.9.4	320	区画整理道路	旧石器礫群1基	町内遺跡群VI・ 調査会報告第14集
東久保	5	亀久保366	H8.11.22~9.3.5	3,314	区画整理道路	土坑3基、中世:堀跡1、溝2本、ピット1	調査会報告第14集
東久保	6	亀久保271-1	<A区>H9.1.20~9.2.13 <B区>H9.2.24~9.3.19 <C区>H9.7.24~9.7.25 <D区>H9.8.6	2,309 168	区画整理道路	縄文:落し穴2基、集石土坑1基、土坑1基、ピット5、溝8本	調査会報告第14集
東久保	7	(亀久保堀跡遺跡第1地点に変更)					調査会報告第14集
東久保	8	東久保18街区12画地	(H9.7.29~9.8.2)	305	個人住宅	縄文:土坑2基、ピット2	町内遺跡群VII
東久保	9	亀久保279、280	(H9.8.18~9.8.28) H10.3.1~10.5.18	2,117	共同住宅	縄文:集石土坑5基、土坑13基、ピット7、近世以降:溝3本	町内遺跡群VII・ 調査会報告第14集
東久保	10	東久保19街区	(H9.9.2~9.10.1)	1,067	分譲住宅	縄文:集石土坑1基、近世以降:溝1本	町内遺跡群VII
東久保	11	東久保	H10.7.13~10.8.6 H11.3.11~11.3.12	588	区画整理道路	中世以降:欄列1本、ピット3、溝1本	調査会報告第14集
東久保	12	東久保	H11.1.19~11.1.21	282	区画整理道路	縄文:集石土坑1基、ピット10、近世以降:溝2本	調査会報告第14集
東久保	13	東久保381-5他	H11.5.19~11.5.20 H11.11.2	360 162	区画整理道路 個人住宅	遺構・遺物無し	調査会報告第14集 町内遺跡群IX
東久保	14	東久保18街区3画地	(H11.6.29~11.7.16) H11.7.19~11.7.29	823	共同住宅	溝2本、欄列1本縄文土器片、瓦質陶器片	町内遺跡群IX・ 調査会報告第14集
東久保	15	東久保5街区14~16画地	(H11.8.2)	178	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	16	東久保15街区1~5・32画地	(H11.10.1~11.10.6)	334	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	17	東久保381-5	(H11.6.14~11.6.15)	168	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	18	東久保27街区2画地	(H11.11.30~11.12.15)	14,989	小学校グラウンド	欄列	町内遺跡群IX
東久保	19	東久保3街区9・10画地	(H11.12.20~11.12.21)	108	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	20	東久保4街区9画地	(H12.2.28~12.3.3)	478	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	21	東久保18街区14画地	(H12.3.23~12.3.28)	114	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	22	東久保15街区28画地	(H12.3.22~12.3.23)	150	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	23	東久保	H12.3.13~12.3.16 H12.3.27~12.4.6	280	区画整理道路	縄文:土坑1基、焼土跡1基	調査会報告第14集
東久保	24	東久保14街区	H12.1.19	390	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14集
東久保	25	東久保18街区13画地	(H12.4.13~12.4.14)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	26	東久保31街区9画地	(H12.4.14)	1,107	砂利敷駐車場	溝、ピット	町内遺跡群IX
東久保	27	東久保26街区	H12.5.17~12.6.8	560	区画整理調整地	縄文:ピット15、近世:土坑1基、欄列1本、溝2本	調査会報告第14集
東久保	28	東久保14街区8画地	(H12.6.29~12.7.4)	130	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	29	東久保4街区18・20画地	(H12.6.30~12.7.4)	218	個人住宅	溝2本	町内遺跡群IX
東久保	30	東久保294番2	H12.7.4	48	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14集
東久保	31	東久保15街区26画地	(H12.6.7)	126	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	32	東久保277・381番地他	H12.7.12~12.8.4 H13.7.16~13.11.30	265 590	区画整理道路	旧石器:石器製作跡2基、縄文:土坑2基、ピット12、溝・欄列各1本、	調査会報告第14集
東久保	33	東久保15街区24画地	(H12.8.2~12.8.3)	128	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	34	東久保18街区15画地	(H12.8.29~12.8.30)	110	個人住宅	ピット4	町内遺跡群IX
東久保	35	東久保23街区3・4画地	(H12.12.7~12.12.9)	139	個人住宅	溝1本、ピット1	町内遺跡群IX
東久保	36	東久保15街区21・22画地	(H13.1.19~13.1.25)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	37	東久保15街区13・33画地	(H12.12.11)	149	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
東久保	38	東久保284-1、285-1	H12.12.13~12.12.15	501	区画整理道路	縄文:ピット1遺物無し	調査会報告第14集
東久保	39	東久保4街区8・9画地	(H13.3.22~13.3.27)	317	個人住宅	縄文:落し穴	町内遺跡群IX
東久保	40	東久保270-3、270-4	H13.3.23、13.6.1	128	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14集
東久保	41	東久保4街区6・7画地	(H13.5.28~13.5.29)	112	個人住宅	近世以降:溝1本、遺物無し	町内遺跡群IX I
東久保	42	東久保19街区10画地	(H13.4.18~13.4.21)	864	駐車場	近世以降:溝1本、遺物無し	町内遺跡群IX I
東久保	43	東久保15街区14・15画地	(H13.5.22~13.5.25)	142	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX I
東久保	44	東久保19街区9・11・12画地	(H13.5.10~13.6.29)	757	倉庫	縄文:落し穴1基、風倒木跡、ピット5、溝2本	町内遺跡群IX I
東久保	45	亀久保258-21	(H13.6.1)	100	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX I
東久保	46	東久保17街区3・4画地	(H13.6.4~13.6.6)	135	個人住宅	溝1本、縄文土器片2点、磁器片1点	町内遺跡群IX I
東久保	47	東久保31街区6・13画地	(H13.10.11~13.10.26)	1,203	店舗	縄文:落し穴1基、溝1本	町内遺跡群IX I
東久保	48	東久保18街区9・10画地	(H13.12.12~13.12.25)	518	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX I
東久保	49	東久保13街区7画地	(H14.2.12~14.2.13)	100	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX I
東久保	50	東久保3街区22画地	(H14.9.24)	102	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	51	東久保18街区11画地	(H14.12.3)	155	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	52	東久保4街区3画地	(H15.2.6~15.2.7)	64	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	53	東久保4街区10画地	(H15.5.7~15.5.22)	408	共同住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	54	亀久保字東久保272 (19街区1画地)	(H15.5.9~15.5.22)	798	共同住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	55	亀久保字東久保488 (18街区7画地)	(H15.6.9~15.6.12)	165	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	56	亀久保字東久保15街区12画地	(H15.7.31~15.8.1)	165	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	57	亀久保258-26(4街区14画地)	(H15.9.29~15.10.1)	133	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	58	ふじみ野2丁目27番2号	(H16.4.13~16.4.14)	557	分譲住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	59	ふじみ野2丁目25番7~9号	(H16.6.29) H16.7.12~16.7.23	1,804	店舗	土坑4基、ピット9、溝2本	町内遺跡群IX・ 調査会報告第14集
東久保	60	ふじみ野2丁目26番16号	(H16.7.22~16.7.24)	336	個人住宅	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	61	東久保26街区	H16.9.29~16.11.26	2,376	区画整理公園緑地	縄文:土坑7基、ピット9、溝6本、(調査区内の一部は第27地点で調査済)	調査会報告第14集
東久保	62	ふじみ野2丁目25番16号	(H16.10.12~16.10.15)	220	宅地造成	試掘調査	町内遺跡群IX II
東久保	63	ふじみ野2丁目5番10・12号	(H18.2.1)	105	個人住宅	試掘調査	市町内遺跡群2
東久保	64	ふじみ野2丁目18-6の一部	(2006/10/12~10/20) 2006/10/24~26	437	共同住宅	近世:欄列1本、溝4本	市町内遺跡群3



第118図 東久保遺跡遺構分布図 (1/2,000)

## 第6章 西ノ原遺跡第135地点の本調査

### I 本調査の概要

調査は店舗併用共同住宅建設に伴うもので、2006年3月14日から4月28日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年5月29日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を平板測量で実測、写真撮影を行い、同年6月19日調査を終了した。検出した遺構は縄文時代中期の住居跡1軒、炉穴1基、ピット1基である。

### II 遺構と遺物

#### (1) 183号住居跡

【位置】調査区の北側に位置する。西ノ原遺跡縄文集落内では、双環状に分布する中央南側の密集部分の52、69、128地点に近接するが、本調査区南側は一切遺構を検出しておらず、集落の外縁部分に当たると考えられる。

【形状】平面形態は隅丸の長方形を呈し、南北に長く、北側は若干幅広くなる。規模は主軸方位の南北方向で5.3m、東西4.35m。確認面から床面の深さは44cmであるが、耕作により本来の遺構覆土が削平されており、残りのよい箇所では床面まで65cmの深さがある。

【炉】炉は2基検出した。

炉1は住居中央北寄り、南壁から2.5m、北壁から1.1mに位置する。径105×80cm・深さ8cmの楕円形を呈し、西側から南側にかけてローム面が被熱し赤化している。赤化部分は二重の帯状になっており、平坦で赤化していない帯状部分が10cmほどある。また、中央部分に径42×30cm・深さ20cmの楕円形ピットがある。

炉から5～10cm上の覆土中からは10cm前後の礫13点が土器片とともに集中して検出した。おそらく本来は、赤化していない帯状のテラスに石を埋設し、ピットに土器を埋設した石囲い埋甕炉であったと思われる。

炉2は住居北側、主軸線より東寄りに位置し、炉1とP1、P5、北壁から等距離にある。炉1とは30cm離れる。径50×50cm・深さ5cmの円形を呈し、径45×32cmの範囲のローム面が被熱し赤化している。

【ピット】床面上に11基、周溝内に10基検出した。P1～P4が主柱穴の4本柱と思われる。柱の間隔はP1-P2間とP3-P4間が2.35m、P2-P3とP1-P4が2.65mである。また、P5はP1とP4の間、主軸線上にある。

P4から土器破片が出土したが、土器を復元すると胴部を打ち欠いた深鉢口縁部であった。炉1の炉体土器であった可能性もある。

南側にはP7・P9～P11のピット群が30～40cm間隔で並ぶ。

【周溝】住居の壁際を全周する。周溝幅20～25cm、深さ5～12cm前後である。南側だけ幅は10cmと狭くなる。周溝内には径15～25cmの円形ピット9基と23cm四方の方形ピット1基が検出された。深さは床面から17～32cmある。

【床・壁】壁は垂直に近い状態で立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

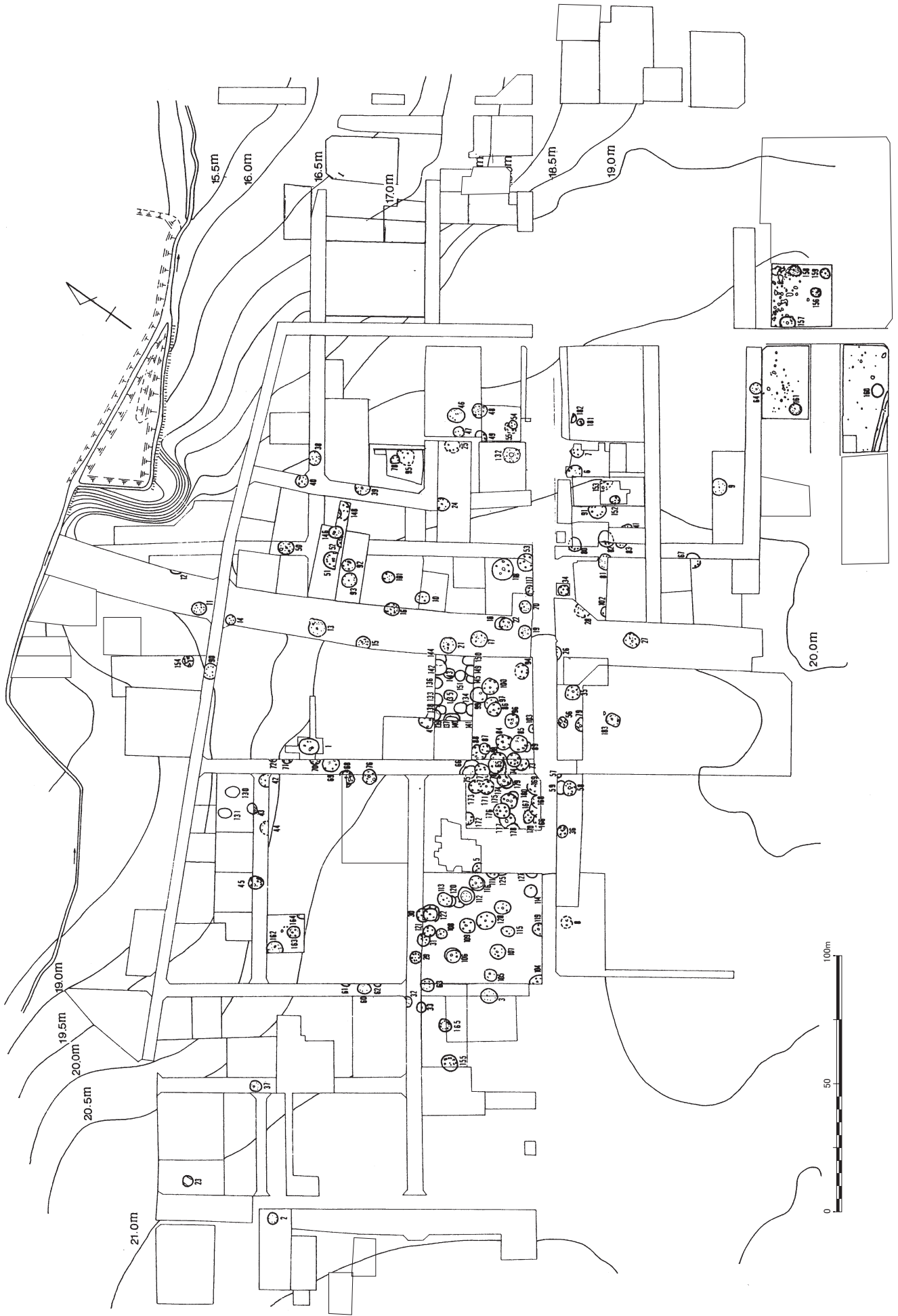
【時期】出土土器から加曾利E I新式期

第62表 西ノ原遺跡183号住居跡ピット一覧表(単位 cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	43×43	26×24	95	主柱穴
P2	不整形	68×50	23×21	76	主柱穴、土器出土
P3	楕円形	62×56	50×28	60	主柱穴
P4	不整形	56×54	30×28	74	主柱穴、土器出土
P5	楕円形	44×24	5×4	34	
P6	楕円形	69×31	56×14	8	土器出土
P7	円形	26×21	6×6	22	
P8	楕円形	22×13	8×5	18	
P9	円形	24×23	8×8	19	
P10	楕円形	41×38	12×10	30	
P11	楕円形	54×33	6×4	27	

#### (2) 炉穴

調査区北側、135号住居跡の1.3m北に炉穴を1基検出した。楕円形を呈すると思われるが、西側は植栽があり未調査である。長軸方向に130cm、短軸90cm、深さは確認面から35cmを測る。炉部分は土坑東側にあり、壁から底面にかけて67×58cmの範囲のローム面



第119図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)



第63表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1		1971			住居跡1、土坑3、集石土坑1	資 I
2	西ノ原83	1978.12.6~12.26	270	宅地造成	住居跡1、溝2、旧石器、縄文時代土器	西ノ原遺跡
3		1979.3		宅地造成	土器片のみ出土	
4	西ノ原125-1	1979.7.2~7.9	668	宅地造成	遺構なし、縄文中期土器	東 I
5		1979.8.1~8.14		町史編纂事業	住居1、土坑1、早期炉穴2、縄文中期土器	史7集
6	西ノ原170-2	1980.6.19~6.27	450	宅地造成	土坑2、柱穴2、堀之内Ⅱ式土器他	東Ⅱ
7	西ノ原96-1	1980.10.1~10.29	563	宅地造成	旧石器群、縄文土坑1	東Ⅱ
8	西ノ原95-2-3	1980.10.30~11.14	661	宅地造成	縄文集石土坑2、土坑1、溝2、縄文中期土器	東Ⅱ
9	西ノ原93-1,98-1	1981.6.1~6.23	600		柱穴6、溝2、石器、土器	東Ⅲ
10	西ノ原180-2	1981.11.4~11.13	400	個人住宅	柱穴11	東Ⅲ
11	西ノ原143-4	1983.5.23~5.27	198	宅地造成	縄文土坑1、縄文中期土器	東Ⅴ
12	西ノ原123-3	1983.7.6~8.11	330		縄文中期住居2、縄文土坑39	東Ⅴ
13	西ノ原114-6	1983.9.13~10.18	350		縄文中期住居1、縄文土坑56、集石1、溝1	東Ⅴ
14	西ノ原143	1983.10.24~11.7	240		縄文中期住居2、縄文土坑3、集石1、溝1	東Ⅴ
15				共同住宅	縄文土坑2、ビット6	
16					遺構なし	
17	西ノ原135-3	1985.5.13~5.22	165	宅地造成	縄文土坑2、溝1	東Ⅵ
18	西ノ原141-2	1985.7.26~8.5	569	宅地造成	縄文中期住居1、縄文土坑1、ビット群	東Ⅵ
19	西ノ原135-1	1986.7.8~7.21	230	住宅建設	縄文中期住居1、縄文土坑1、屋外埋薬2	東Ⅵ
20	西ノ原135-1	1986.11~1987.4	3,553	区画道路	縄文早期炉穴4、中期住居12、整穴状遺構、屋外埋薬2、落し穴5、土坑40	調6集
21	西ノ原95-1	1986.12.11~1987.1.9	447	住宅建設	整穴状遺構1	東Ⅵ
22		1987	480	資材置場	縄文中期住居2、縄文土坑11、ビット2	東Ⅶ
23		1987.7~8	1,024	区画道路	土坑2	調6集
24		1987			縄文中期住居2軒確認、未検出	
25		1988.1~2	781	区画道路	遺構なし	調6集
26		1988.3~4	1,649	区画道路	旧石器群、縄文中期住居3、土坑9、ビット、屋外埋薬1	調6集
27		1988.10	942	区画道路	縄文中期住居5、縄文土坑2、炉穴1、集石土坑1	調6集
28		1988.11		区画道路	遺構なし	調6集
29		1988.12		区画道路		調6集
30		1989.2~3		区画道路	土坑1	調6集
31	西ノ原115-1	1989.11.4~11.11	21	下水管理設	遺構なし	東Ⅸ
32	西ノ原122	1989.1.10~1.19	21	区画道路	縄文中期住居1、屋外埋薬3	東Ⅸ
33	西ノ原153-2	1989.1.10~1.19	21	区画道路	縄文中期住居1	東Ⅸ
34	西ノ原171	1989.1.24~1.31	21	区画道路	縄文中期住居1	東Ⅸ
35		1989.2~3	4,000	区画道路	縄文中期住居1、土坑1	調6集
36		1989.3~4		区画道路	縄文中期住居4、縄文土坑5、落し穴2、井戸1	調6集
37		1989.5~8	200	区画道路		
38	西ノ原142-2	1989.8.29~9.12	74	個人住宅	中期住居1、土坑3	東Ⅹ
39	西ノ原142-2	1989.8.29~9.12	94	個人住宅	土坑2、溝2	東Ⅹ
40		1989.9.18~10.16 1989.10.19~11.4	980	消防訓練場	中期住居4、土坑4、集石土坑1、ビット28	東Ⅹ
41		1989.9~10	476	区画道路	縄文中期住居4、土坑1	調6集
42		1991.12~1992.7		区画道路	屋外埋薬2、土坑19	調6集
43	苗間153-3	1990.6.26~7.9	272	個人住宅	縄文中期住居4、土坑3	東Ⅹ I
44		1990.6~8	3,224	区画道路	屋外埋薬、炉穴3、落し穴2、土坑16、集石土坑1	調6集
45		1991.2		区画道路		
46	苗間83-2	1991.4.9~4.10	199	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町 I
47	苗間136-2	1991.7.15~7.26	141	個人住宅	遺構無し、石鏃、土器片のみ	町 I
48		1991.9~10	2,610	区画道路	縄文中期住居、土坑3	調6集
49		1991.12~1992.1		区画道路	縄文中期住居12、集石土坑1、土坑8	調6集
50		1991.11~12		区画道路	縄文中期住居15、屋外埋薬1、土坑3	調6集
51	苗間153-2	1991.2.4~2.12	1,190	モデルルーム	中期住居2、掘立柱跡、土坑2、ビット5	町 I
52	苗間122	1991.2.10~2.20	984	ガソリンスタンド	縄文中期住居14、集石土坑7、土坑5、野外炉穴1、ビット19	調5集
53	西ノ原133-2	1992.6	261	分譲住宅		
54		1992.5~7		区画道路	集石土坑1、土坑1	調6集
55	西ノ原135-5 他	1992.5.21~6.23	241	駐車場造成	縄文中期住居2、炉穴5、土坑1	調5集
56	西ノ原133-2	1992.6.23~6.26	261	分譲住宅	集石土坑1、土坑3、ビット6、溝1	町Ⅱ
57	西ノ原143-3-4	1992.7.6~9.1	174	個人住宅	中期住居2、土坑1	町Ⅱ
58	西ノ原137-2	1992.9.8	146	個人住宅	遺構無し、縄文土器若干	町Ⅱ
59	西ノ原135-1	1992.10.6~11.12	494	個人住宅	中期住居3、炉穴11、屋外埋薬1、土坑1、ビット12	町Ⅱ
60	西ノ原136-2	1992.12.10~12.25	253	個人住宅	中期住居2、炉穴4、土坑1、ビット34、落し穴1	町Ⅱ
61	西ノ原	1993.2	2,240	区画整理	早期整穴状1、落し穴3、土坑2、炉穴	調6集
62						
63	西ノ原162-3,169	1994.4.13~4.22	147	共同住宅	中(近世)ビット群、遺物無し	町Ⅲ
64	西ノ原94-1	1994.4.27~4.28	327	共同住宅	近世・近代溝、前期土器	町Ⅲ
65	西ノ原145-1	1994.6.7~6.11	615	共同住宅	縄文中期土坑3、平安時代住居1、土器群、須恵器	町Ⅲ
66	西ノ原133-2	1994.6.30~7.19	474	共同住宅	近代溝、縄文土器	町Ⅲ
67	西ノ原159-2	1995.1.20~1.21	308	倉庫建設	縄文中期土坑、ビット、近代溝	町Ⅲ
68	西ノ原91-2-6	1995.3.22~3.25	285	店舗住宅	遺構、遺物無し	町Ⅲ
69	苗間106	(1994.4.8~4.27) 1994.5.16~10.24	1,821	店舗建設	縄文中期住居28、土坑6、ビット11、溝1	調13集
70	苗間136	1994.5	551	店舗建設	屋外埋薬4、土坑14	調6集
71	苗間112	1994.6~7	309	個人住宅	落し穴1	

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
72	苗間112-109	1994.11.2~11.28	321	個人住宅	縄文中期住居3、土坑2、溝2	町Ⅳ
73	苗間92-1	1994.3.27~3.29	274	個人住宅	遺構、遺物無し	町Ⅳ
74	苗間163	(1994.4.21~5.13)	169	事務所建設	ビット6	町Ⅳ
75	苗間122	(1995.5.16~5.23) 1995.6.2~9.23	379	事務所建設	縄文中期住居17、集石土坑1、土坑4、集石2、ビット9、溝1	調13集
76	苗間151-2 他	(1995.4.20~4.27)	468	倉庫建設	ビット1、溝1	町Ⅳ
77	苗間143-2	(1995.5.24~5.25) 1995.6.1~7.28	347	店舗建設	縄文中期住居1、土坑18、溝4、ビット58	調13集
78	苗間22-3-2	(1995.6.28~8.8)	45	貯水槽建設	縄文中期住居3	町Ⅳ
79	苗間162-2 他	(1995.6.29~7.24)	135	個人住宅	遺構、遺物無し	町Ⅳ
80	苗間83-2	(1995.7.19~7.25)	319	駐車場造成	遺構、遺物無し	町Ⅳ
81	苗間169	(1995.8.2~8.7)	223	店舗付住宅建設	溝1、遺物無し	町Ⅳ
82	苗間168	(1995.8.1~8.5)	249	事務所建設	遺構、遺物無し	町Ⅳ
83	苗間136-2	1995.8.23~10.21	190	個人住宅	縄文中期住居2、集石土坑2、土坑2、ビット22	町Ⅳ
84	苗間108,109	(1995.11.30~12.9)	135	個人住宅	土坑1、ビット5	町Ⅳ
85	苗間181-3	(1996.1.9~1.26)	654	パチンコ店建設	遺構、遺物無し	町Ⅴ
86	苗間113-2,93-1	(1996.4.19) 1996.4.22~5.15	698	個人住宅	土坑6、ビット26、溝2	町Ⅴ
87	苗間182-1	(1996.6.14~6.17)	344	学習塾	遺構、遺物無し	町Ⅴ
88	苗間西ノ原182-3, 182-2,202-1	(1996.7.16~7.22) 1996.8.1~8.8	745	共同住宅	土坑3、ビット29、欄外1、落し穴1、鏡	調13集
89	苗間西ノ原112	(1996.7.17~7.18)	143	個人住宅	溝、土器片のみ	町Ⅴ
90	苗間西ノ原142-2	(1996.7.3) 1996.8.7~8.30	177	個人住宅	縄文中期住居2、炉穴2、土坑1、ビット9	町Ⅴ
91	苗間169	(1996.8.1~8.5)	477	店舗	遺構、遺物無し	町Ⅴ
92	苗間192-2	(1996.10.23~10.28)	684	店共用住宅	遺構、遺物無し	町Ⅴ
93	苗間315	(1996.10.22~10.23)	141	分譲住宅	遺構無し、土器片のみ	町Ⅴ
94	苗間145-2	(1996.11~11.12)	165	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町Ⅴ
95	苗間154	(1996.11.14~11.19)	283	商業ビル	炉1	町Ⅴ
96	苗間441	(1996.12.17~12.20) 1997.1.9~1.14	333	個人住宅	縄文中期住居2、炉穴2、土坑1、ビット3	町Ⅴ
97	苗間97-2	(1996.12.19~12.20)	141	分譲住宅	遺構、遺物無し	町Ⅴ
98	苗間171-2	(1997.1.6)	206	個人住宅	盛土保存	町Ⅴ
99	苗間97-1	(1997.1.20~1.24)	396	個人住宅	土坑1、落し穴1、ビット12、溝1	町Ⅴ
100	苗間150-2	(1997.4.5~4.12)	447	共同住宅	土坑2、ビット3	町Ⅴ
101	苗間183-1-3	(1997.7.22~7.25)	187	モデルハウス	遺構、遺物無し	町Ⅴ
102	大井苗間22街区5画地	(1997.10.9~10.20)	179	個人住宅	ビット2、溝2	町Ⅵ
103						
104	苗間22街区2画地	(1997.10.6~10.8)	223	個人住宅	焼土、溝2	町Ⅵ
105	苗間125-2,126-2	(1998.1.13~2.12)	565	共同住宅	縄文中期住居1、炉穴1、溝9	町Ⅵ
106	苗間112	(1998.1.28~2.4)	135	個人住宅	ビット1	町Ⅵ
107	苗間112	(1998.2.9~2.13)	135	個人住宅	ビット4、溝1	町Ⅵ
108	苗間91-1,92-1,99-1	(1998.3.3) 1998.3.4~3.17	413	個人住宅	縄文住居1、土坑1、近世溝3	町Ⅵ
109	苗間83-4,429	(1998.3.11~3.18)	429	店舗付共同住宅	遺構、遺物無し	町Ⅵ
110	苗間146-2	(1998.4.20~5.28)	385	郵便局	落し穴1、集石1、群1	町Ⅵ
111	大井苗間23街区9画地	(1998.10.23~10.27)	354	個人住宅	ビット1、近世の溝1、道1	町Ⅵ
112	大井苗間23街区9画地	(1999.2.9)	144	個人住宅	近世の溝のみ	町Ⅵ
113	大井苗間57-8街区	(1998.11.4~1999.12.14) 200.1.8~3.13	2,817	店舗	旧石器時代のユニット、中期住居6、炉穴2、土坑、ビット、近世溝	町Ⅵ
114	西ノ原194-1	(1999.8.4~8.12)	676	駐車場	落し穴1、ビット2	町Ⅵ
115	大井苗間52街区3画地	(1999.9.27~9.29)	135	事務所	遺構、遺物無し	町Ⅵ
116	大井苗間59街区1画地	(1999.12.2~12.3)	119	個人住宅	遺構、遺物無し	町Ⅵ
117	大井苗間199-2	(1999.12.2~12.4)	131	店舗併用住宅	遺構、遺物無し	町Ⅵ
118	大井苗間59街区45画地	(2000.4.3~4.12)	548	店舗住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町Ⅶ
119	大井苗間18街区4画地	2000.11.15~12.6	221	倉庫建設	縄文中期住居3、土坑1、近世溝1	町Ⅶ
120	大井苗間24街区4画地	(2001.5.7~5.15)	1,120	共同住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町Ⅶ I
121	旭1-15	2002.7.3~8.8	803	個人住宅	縄文中期住居2、土坑2、ビット35、近世溝4	町Ⅶ I
122	大井苗間14街区8画地	(2002.3.9~3.19) 2002.6.21~7.22	593	共同住宅	縄文中期住居4、溝3	町Ⅶ I
123	大井苗間19街区10画地	(2002.9.3~9.9)	252	共同住宅	根切溝のみ	町ⅦⅡ
124	苗間137-2	(2002.10.2~10.6) 2002.10.8~10.11	524	個人住宅	縄文中期住居1、土坑2、溝2	町ⅦⅡ
125	旭1-8-2	(2003.2.14~2.19)	182	個人住宅	ビット5	町ⅦⅡ
126	旭1-13-6-7	(2004.2.23~2.25)	153	個人住宅	遺構、遺物無し	町ⅦⅡ
127	旭1-13-4-19	(2004.5.24~5.25)	327	個人住宅	土坑1	町ⅦⅡ
128	旭1-16-9-10	(2004.6.14~7.15) 2004.7.16~9.29	614	店舗	縄文中期住居17、集石5、土坑10、ビット17	町ⅦⅡ
129	旭1-11-5	(2004.9.30~10.7)	235	共同住宅	縄文中期住居1	町ⅦⅡ
130	旭1-5-8	(2004.10.14~10.15)	116	個人住宅	遺構、遺物無し	町ⅦⅡ
131	旭1-5-13	(2004.10.22)	97	店付個人住宅	遺構、遺物無し	町ⅦⅡ
132	苗間1-15-17	(2005.7.28~8.2) 2005.8.3~8.11	272	店舗併用共同住宅	縄文中期住居3、炉穴7、土坑1	調18集
133	旭1-8-8	(2005.10.11~10.12)	176	個人住宅	遺構無し、土器片	市2
134	旭1-13-8	(2005.10.6~10.11)	348	店舗	遺跡1	市2
135	うれし野1-226-1	(2006.3.14~4.28) 2006.3.29~6.19	3,341	店舗併用共同住宅	縄文中期住居1、炉穴1	市3
136	苗間1-13-22,23	(2006.6.23)	630	学生寮	遺構、遺物無し	市3
137	うれし野2丁目17番 5,6,7	(2006.8.3~7)	861	共同住宅建設	遺構、遺物無し	市3
138	旭1丁目4-7,4-8	(2006.11.21~22)	247	個人住宅建設	遺構、遺物無し	市3
139	うれし野1-4-4,5,6	(2007.2.1)	474	共同住宅建設	遺構、遺物無し	市3

東=東部遺跡群、資=町史資料編、史=大井町史料、  
調=遺跡調査会報告、町=町内遺跡群、市=市内遺跡群

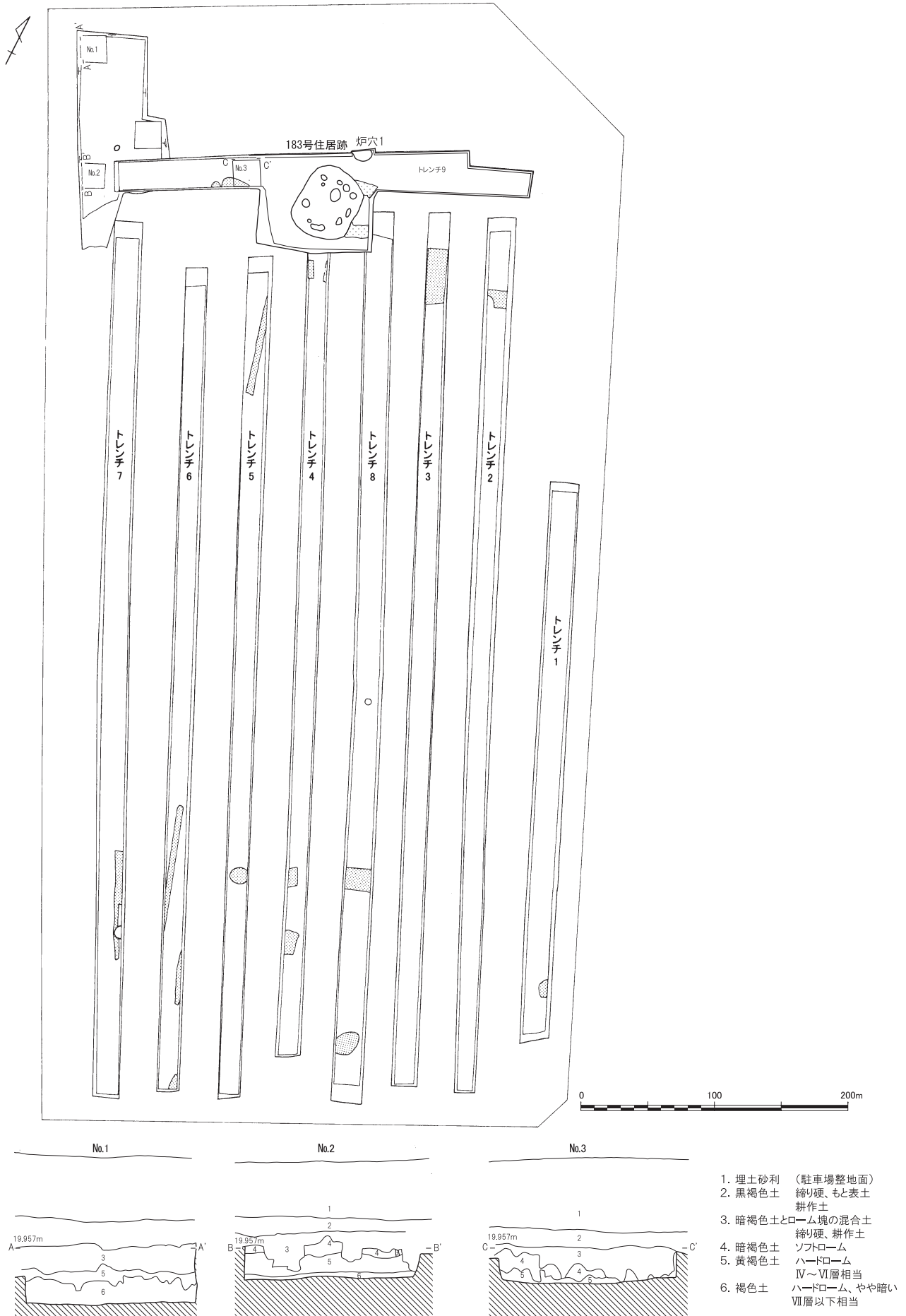
第64表 西ノ原遺跡住居跡一覽表

(単位cm)

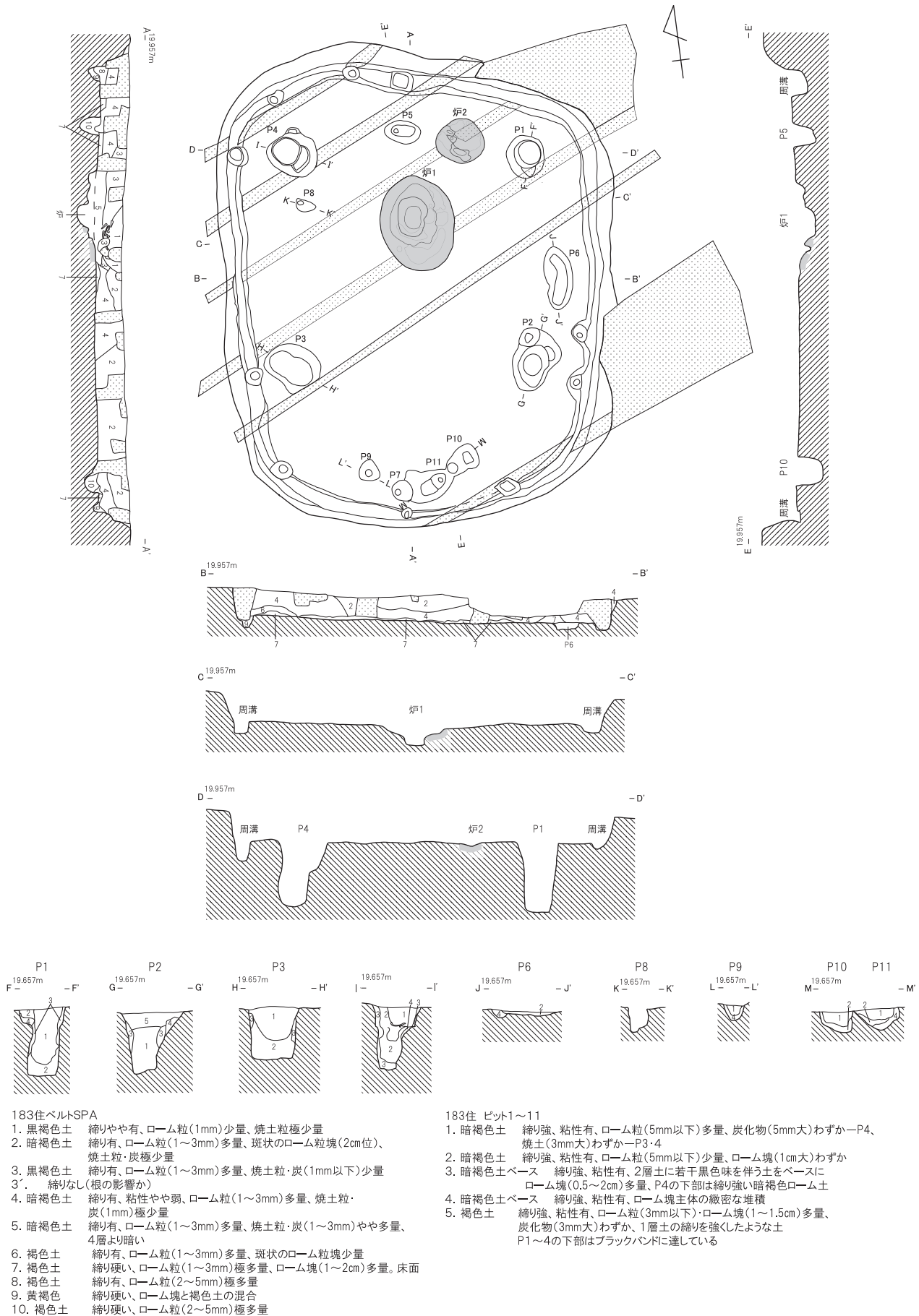
Table with columns: 住居番号, 調査率, 平面形, 規模, 炉, 埋, 壁, 備考, 時期, 文献. Rows 1-90.

Table with columns: 住居番号, 調査率, 平面形, 規模, 炉, 埋, 壁, 備考, 時期, 文献. Rows 91-183.

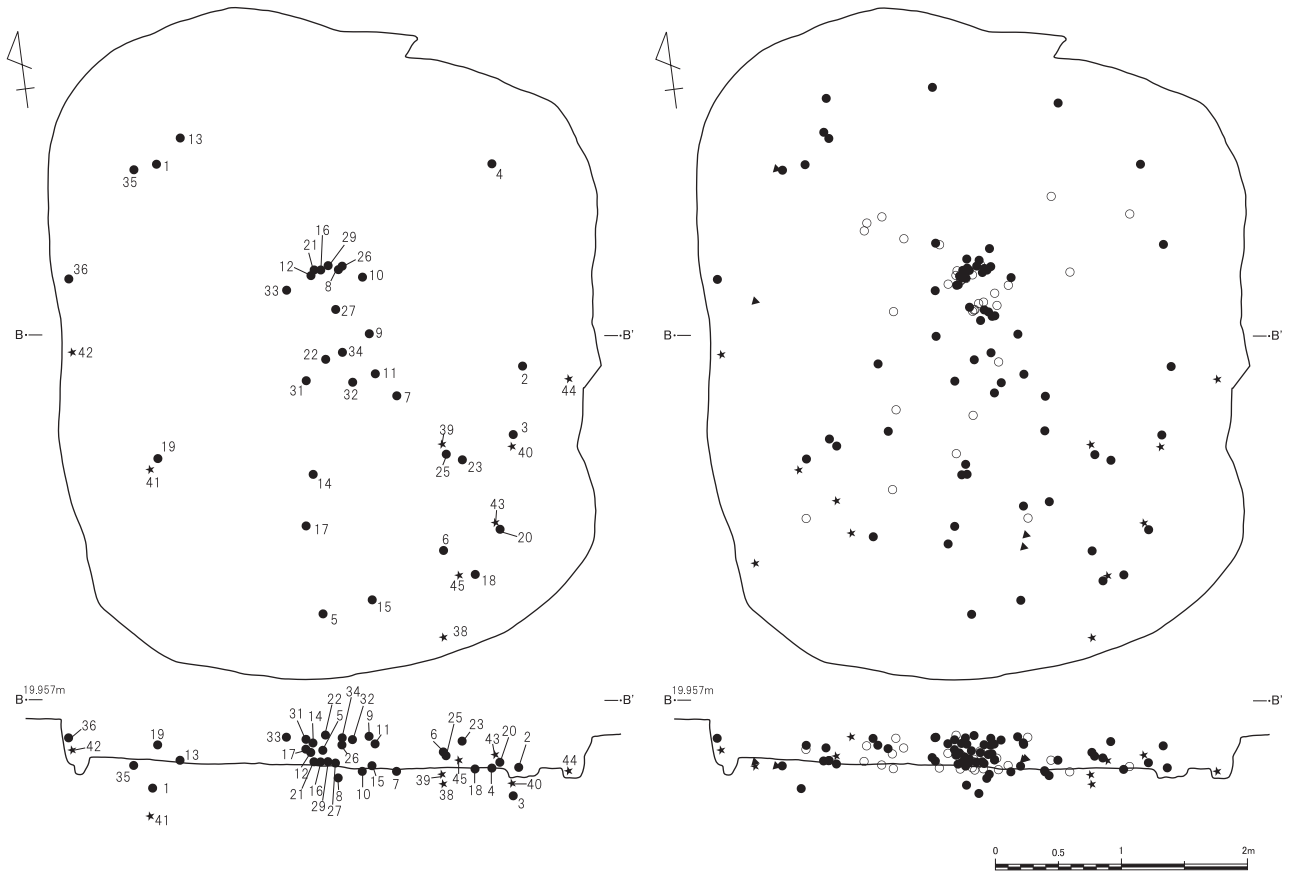
東=東部遺跡群、資=町史資料編、史=大井町史料、調=遺跡調査会報告、町=町内遺跡群、市=市内遺跡群



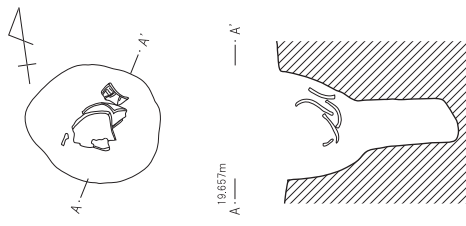
第120図 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図 (1/400) 土層図 (1/60)



第121図 西ノ原遺跡183号住居跡 (1/60)



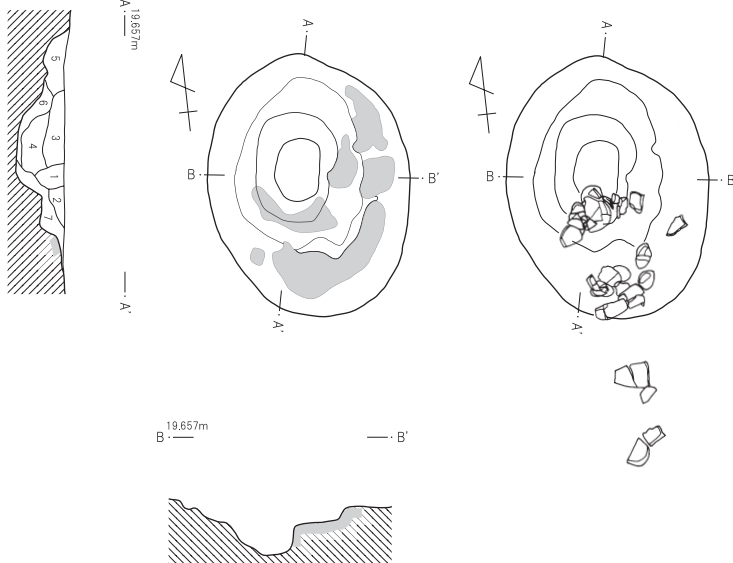
P4



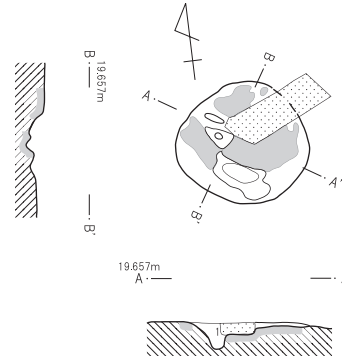
P6



炉1



炉2



183住 炉1

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、焼土やや多量、色調やや黒味がある
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、焼土(3mm以下)多量
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、焼土(3mm以下)少量、ローム塊(1cm大)・焼土塊(5mm大)・炭化物(2mm大)少量

183住 炉2

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多量、焼土(2~3mm大)多量、焼土・ローム塊(1cm大)少量

第122図 西ノ原遺跡183号住居跡遺物出土状況 (1/60) 炉1・2 (1/30)

が被熱し赤化している。出土遺物はない。西側が足場部分になると思われる。

(3) 183号住居跡出土遺物 (第124図)

1は、P4出土の深鉢で胴上部以下を欠失し、口径24cm・遺存高14cmである。口縁部文様帯・頸部無文帯・胴部文様帯からなり、地文は口縁部・胴部共に縦位施文の捺糸文である。口縁部文様帯は隆帯貼付けによる区画文と渦巻文であり、渦巻部は前面に突出する。区画隆帯の上部は長い半円形4と短い円形1をつくり、隆帯の下方は山形と上・下連結の短い隆帯である。頸部無文帯の下方は、地文の上に貼付隆帯による直下と蛇行懸垂文を交互に配する。

胎土には白色細砂粒と石英の粉末を含み、焼成良好で暗い黄褐色を呈する。外面下部と内面上部に2次被熱によるハジケが著しい。加曾利E I式新式(加曾利第2様式)の中相である。

2~4は住居内ピット出土で、2はP6出土の口縁部文様帯から頸部無文帯にかかる地文縄文の土器片。

3は地文捺糸文に直下と蛇行の貼付懸垂文を加えた胴部片でP2出土。4は地文縄文に沈線の垂下文を加えた胴最下部。2と3は加曾利E1新式

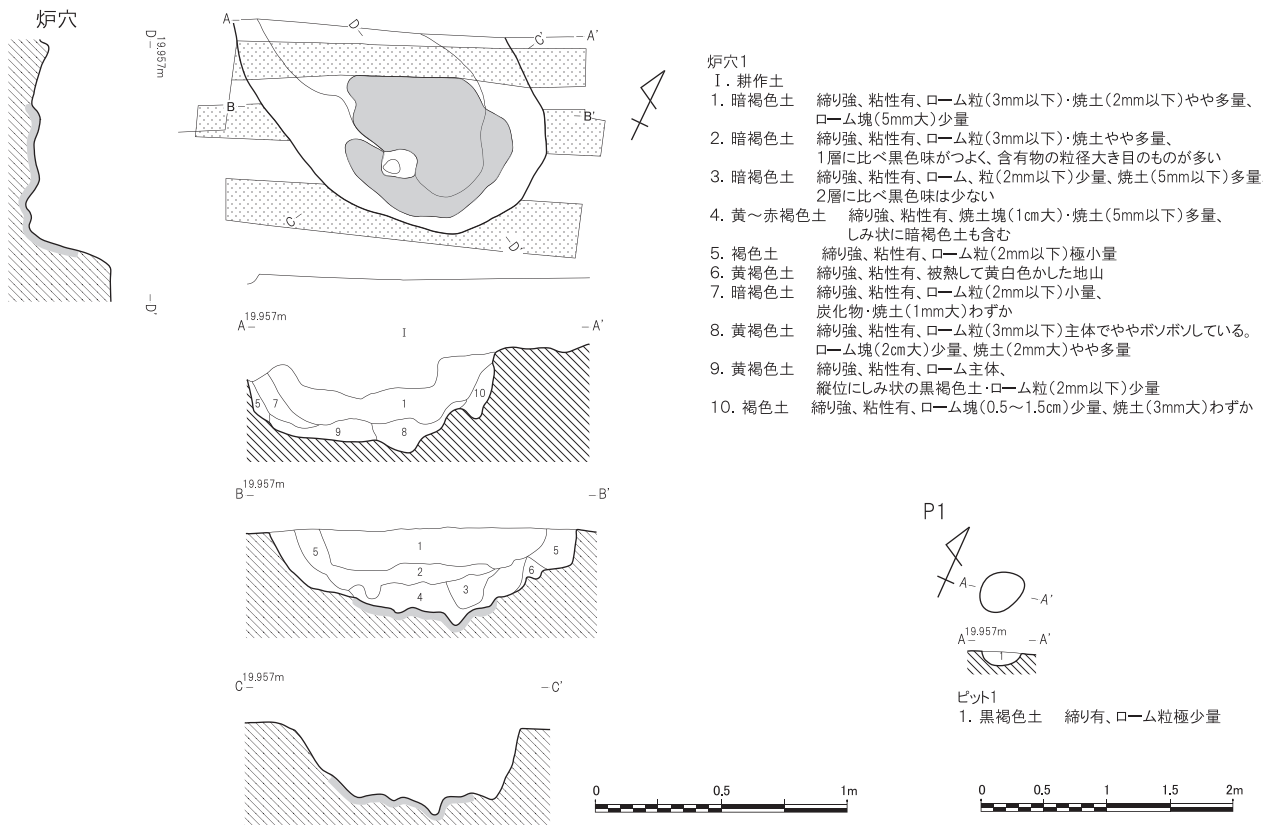
5~45は183住覆土出土である。

5と6は地文捺糸文の口縁部。7~10は口縁部文様帯の破片。11~14、16は頸部無文帯から胴部にかかる破片で、12は曾利系のもの。13は地文沈線で隆帯をもつ。17~24は胴部破片で、地文縄文のものも地文捺糸のものも共に隆帯貼付の懸垂文をもつ。7~26は加曾利E1新式である。27~34は無文の浅鉢であるが、口縁の特徴から3種類あり、いずれも1や、7~26と共伴する類である。36は連華文をもち、35は区画文と三叉文をもつ筒形深鉢の口縁部。

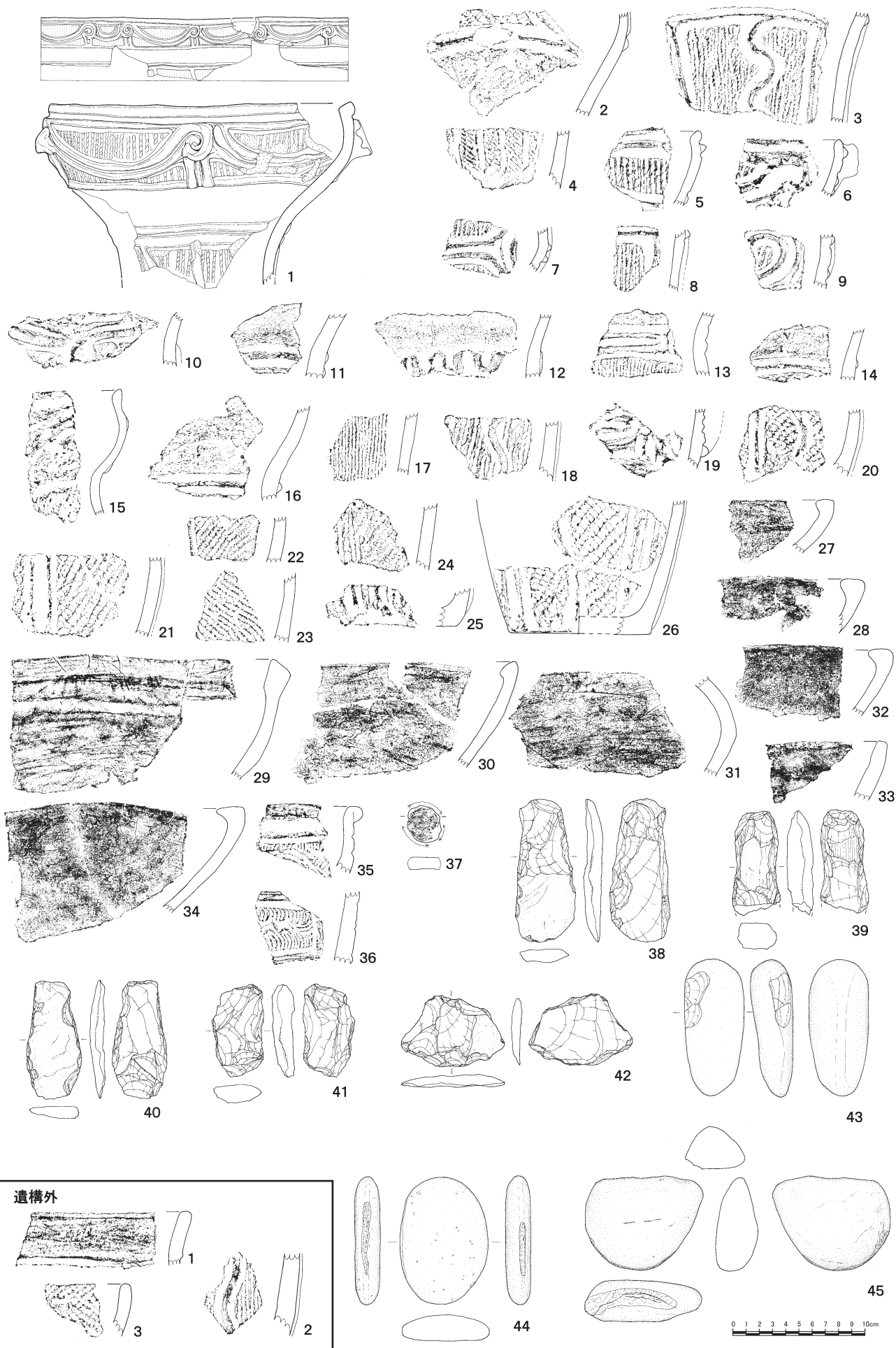
第65表 西ノ原遺跡183号住居跡出土石器計測表

(単位cm・g)

遺構	No	種別・器種	長	幅	厚	重量	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
183号住居	38	打製石斧	10.8	4.6	1.5	85.8		ホルンフェルス	縄文時代	No109
183号住居	39	打製石斧	7.9	3.6	2.0	84.9		緑泥石片岩	縄文時代	No55
183号住居	40	打製石斧	8.9	4.7	1.2	49.3		ホルンフェルス	縄文時代	P2-No1
183号住居	41	打製石斧	7.0	3.9	1.7	60.4		緑色凝灰岩	縄文時代	P3-No1
183号住居	42	スクレイパー	5.4	7.8	1.0	38.1		黒色頁岩	縄文時代	No25
183号住居	43	たたき石	10.3	4.5	3.2	188.9		砂岩	縄文時代	No45
183号住居	44	たたき石	9.7	6.7	1.9	195.7		砂岩	縄文時代	No61
183号住居	45	たたき石	7.2	8.6	3.1	273.5		砂岩	縄文時代	No43



第123図 西ノ原遺跡135地点炉穴 (1/30) ピット (1/60)



遺構外

第124図 西ノ原遺跡183号住居跡・遺構外出土遺物 (1/4)

## 第7章 神明後遺跡第28地点の本調査

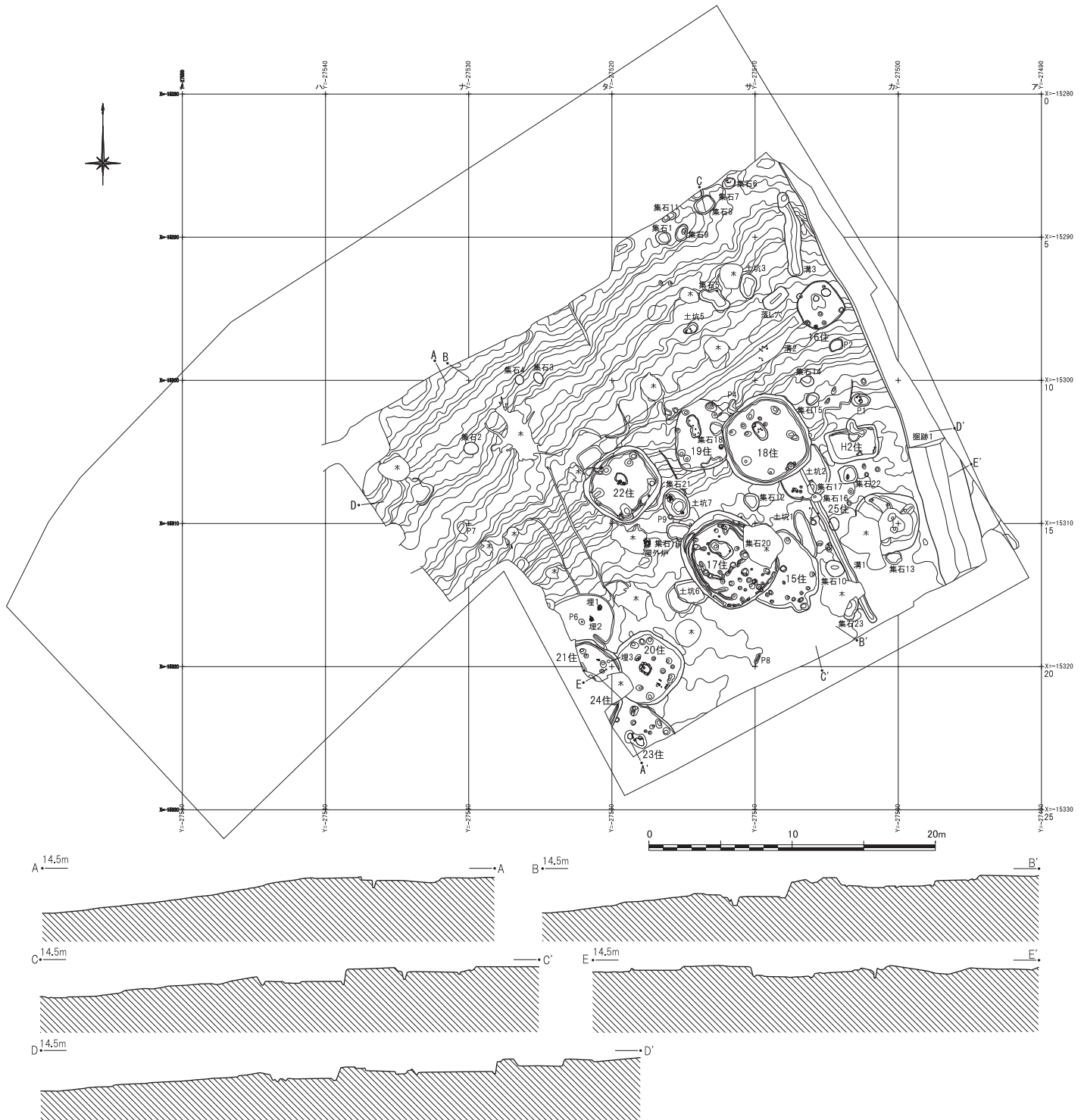
### I 本調査の概要

調査は宅地造成工事に伴うもので、2006年5月8日から6月2日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

調査区は元々屋敷林で、幹径が2mを超える樹木が

数多くあったため、事業者によって根を残したまま伐採した後、2006年6月29日から本調査を開始した。遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。

調査区内には国家座標を元に、2m方眼のグリッドを設定し、業者に委託して10m間隔で杭打ちを行った。



第125図 神明後遺跡第28地点遺構配置図・断面図 (1/400)



グリッド設定は、北東隅を基準とし、南北方向に北から南へ0～25、東西方向に東から西へア～ハとした。グリッド名称は北東隅のグリッド交点を「カー10」、「ター16」等と呼称した。なお、試掘調査で設定したグリッド、トレンチとは連動していない。

遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等を作り方測量及び業者委託による航空測量で実測、写真撮影を行い、同年10月5日調査を終了した。

検出した遺構は縄文時代中期の住居跡11軒、集石23基、炉穴3基、屋外炉1基、屋外埋設土器3基、奈良時代の住居跡1軒、土坑、ピット、時期不明の落し穴1基、溝4条、堀1条である。

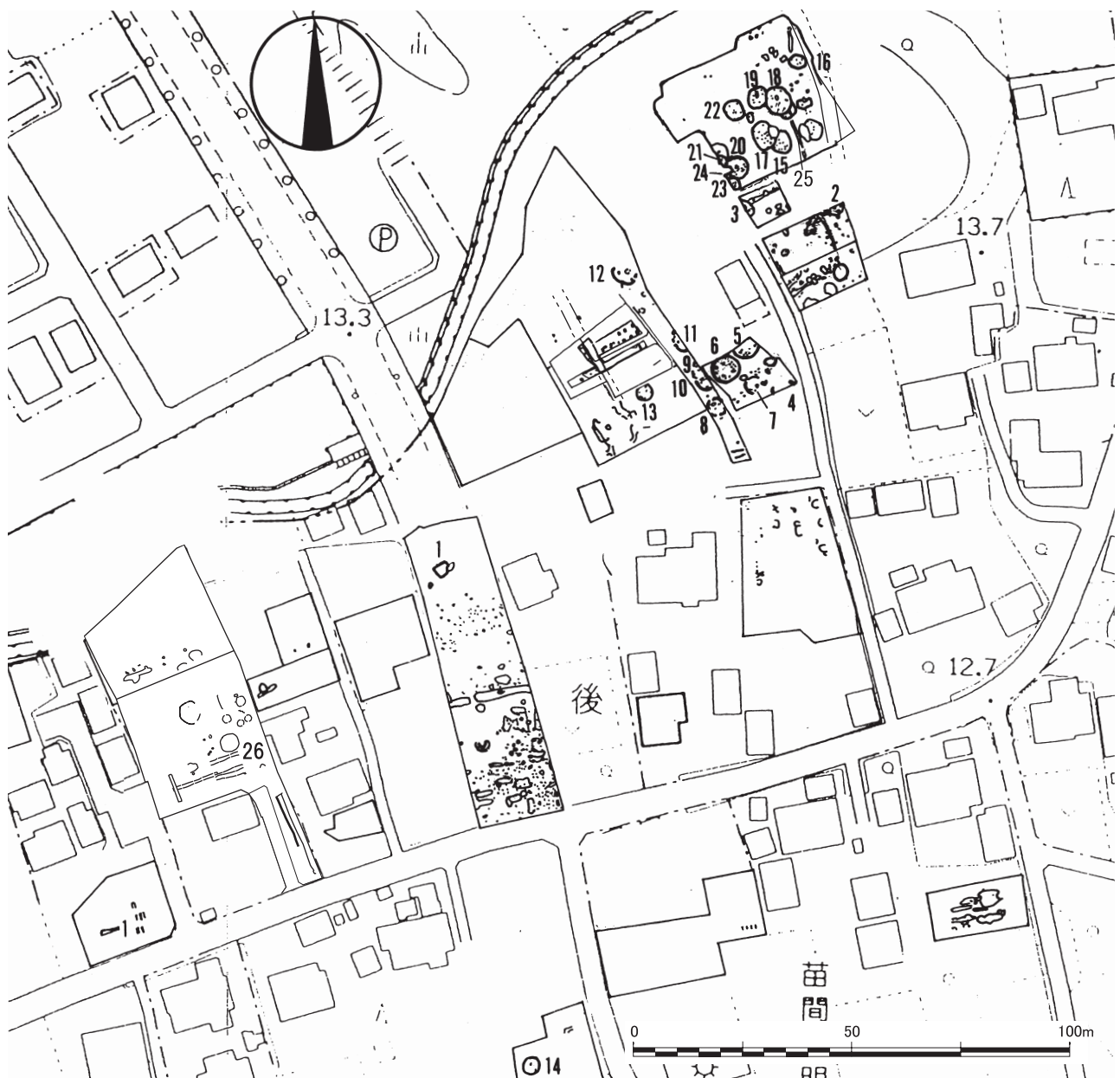
また、2006年9月23日には事業者の御理解のもと、遺跡見学会を実施し、500名近くの見学者が訪れた。

## II 立地と環境

神明後遺跡は第II部第18章で述べたようにさかい川の右岸に立地するが、縄文時代の遺構は遺跡の北東部に集中する。特に、本調査区周辺の径100mの範囲に住居跡が分布し、2008年2月現在で縄文時代中期から後期の住居跡25軒を検出した。最も古い住居跡は27地点の14号住居跡で阿玉台Ⅱ式期である。本調査区はさかい川に向かう傾斜角5～10°の斜面地であるが、平坦な台地部分から斜面地にかけて住居跡が分布する。集石はさらに低い区域にまで分布し、さかい川からわずか10mの距離である。

古代の遺構は奈良時代の住居跡が本調査区で1軒、100m西側の第2地点で1軒検出した。

中世以降の遺構は本調査区と18地点でさかい川に直交する溝跡のほか地下式坑、土坑を検出する。



第126図 神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500)

第66表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は 掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査 原因	確認された遺構と遺物	所収 報告書	地点	所在地	調査期間 ( )は 掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査 原因	確認された遺構と遺物	所収 報告書
1	苗間281-1	1993.5.6 ~5.11	615	共同住宅	遺構なし、平安時代須恵 器片、陶器片	町Ⅲ	16	苗間309-14	(2001.7.23 ~7.24) 2001.7.25~9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋甕4、土坑13、 溝2、地下式竈1、地下室1、 竪穴状遺構1、ビット38	町X I
2	苗間295-2、 299-3	1993.5.12 ~5.20	1,688	道路築造	落し穴1、平安住居1軒(H1号)、 縄文土坑1、中・近世掘建柱建 物跡、地下式竈1、井戸、堀	町Ⅲ	17	苗間369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町X I
3	苗間309-12	(1995.3.24 ~3.29) 1995.4.3~5.19	200	分譲住宅	縄文住居1軒(2号)、伏甕2、 埋甕1、土坑2、ビット34他	町Ⅵ	18	苗間304-1、 303-6	(2002.5.15 ~5.25) 2002.5.27~6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居5軒(8~12 号)、土坑、古代・中世堀跡	町X II
4	苗間302	(1996.6.17 ~6.19)	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町Ⅵ	19	苗間264-4	(2002.9.18 ~9.20)	216	個人住宅	根切溝、溝4	町X II
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15 ~4.2	80	個人住宅	縄文住居1軒(3号)、土坑5、 溝、他 縄文中期後半~後期初頭	町Ⅵ	20	苗間293-11	(2003.1.14 ~1.15)	143	個人住宅	中・近世溝2、ビット2	町X II
6	苗間255、227-2	(1997.9.29 ~9.30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町Ⅶ	21	苗間283-1	(2003.1.10 ~1.30)	674	土地造成	ビット7、井戸1、近世地下 室2、土坑1	町X II
7	苗間260	(1998.6.1~ 6.2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町Ⅷ	22	苗間235-2・3	(2003.7.8 ~7.29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ビット38、 江戸後期陶磁器	町X II
8	苗間235-1	(1998.7.13 ~7.24)	458	共同住宅	集石土坑1、土坑2、ビット 40、欄列1、溝	町Ⅷ	23	苗間253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、銭貨	町X II
9	苗間310-1	(1998.9.1~9.11) 1998.9.14~10.15	219	共同住宅	縄文住居4、集石土坑1、落し 穴1、縄文土坑2、近世土坑1、 井戸2、地下室1、ビット33	町Ⅷ	24	苗間神明後 293-4・10	(2004.9.30 ~10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物なし	町X II
10	苗間298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町Ⅸ	25	苗間295-1	(2004.9.30 ~10.7)	660	店舗併用 住宅	遺構・遺物なし	町X II
11	苗間366	(1999.10.21) 1999.10.22~ 10.26	239	個人住宅	土坑17、ビット7	町Ⅸ	26	苗間神明後301、 303-3・4・5、304 -1、303-7	(2005.6.1~6.8) 2005.6.15~6.30	689	分譲住宅	縄文中期住居1軒(13号) 中世地下式竈、近世土坑5、 溝	調18集
12	苗間282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構・遺物なし	町Ⅸ	27	苗間248-2、 249-1	2005.7.20~25 2005.7.27 ~7.29	385	共同住宅	縄文中期住居1軒(14号)	調18集
13	苗間302-1	(2000.4.17 ~4.19)	694	個人住宅	土坑12、ビット	町X	28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8~31) 2006.6.29 ~10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居11軒(15~25号)、 集石23、土坑5、落し穴1、 竪穴3、ビット、溝4、古代・中世堀跡1	市3
14	苗間252-2	(2000.8.18 ~8.23)	357	共同住宅	土坑1、近世掘建柱建物跡 1、溝2、井戸1、欄列、ビッ ト38	町X	29	苗間神明後 303-21、24	(2006.5.8 ~11) 2006.5.12~19	136	個人住宅 建設	ビット1、古代・中世堀跡1	市3
15	苗間293-15	(2001.4.11) 2001.4.12~ 4.13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台期)	町X I	30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8~19) 2006.12.14 ~12.19	101	個人住宅 建設	ビット12	市3

東=東部遺跡群、資=町史資料編、史=大井町史料、調=遺跡調査会、町=町内遺跡群、市=市内遺跡群

第67表 神明後遺跡住居跡一覧表

住居 番号	調査率	平面形 ( )は推定	規 模	炉			埋 堊	拡張	壁溝	備 考	時 期	文 献
				地床	埋設	石囲						
1号	10%	(円形)	不明	未掘					○	中世土壘の下	加曽利 E II	大井町史資料編 I
2号	65%	(円形)	不明×435×16	○	○		○	有		土坑と複合	加曽利 E IV、埋甕も E IV	町内遺跡群Ⅵ
3号	45%	(円形)	410×不明×30			○		有		北半未掘	加曽利 E II 新	町内遺跡群Ⅵ
4号	15%	不明	不明			○		不明	○	攪乱著しい	加曽利 E II 中	町内遺跡群Ⅶ
5号	45%	(円形)	565×?×33	○				有		東北部未掘	加曽利 E II 新	町内遺跡群Ⅶ
6号	95%	円形	596×542×45	○	②		②	有・建替	○	拡張と建替各2	加曽利 E I 新古相	町内遺跡群Ⅶ
7号	70%	円形	不明×498×18	○		○	○	不明		東南部床まで削平	加曽利 E II	町内遺跡群Ⅶ
8号	70%	(円形)	580×?			○	○	不明		床面攪乱	加曽利 E I	調査会報告16集
9号	50%	(不整形円形)	(490×270)			未掘		有	○	10号に切られる	(加曽利 E I 新新相)	調査会報告16集
10号	50%	不明	(300×250)×50			未掘			○	9号を切る	曾利Ⅲ式	調査会報告16集
11号	40%	(不整形円形)	(490×?)×55			未掘			○		加曽利 E II	調査会報告16集
12号	70%	(不整形円形)	(570)×550×80	○					○		加曽利 E II	調査会報告16集
13号	完掘	隅丸方形	343×370×13	○		○	○				加曽利 E I	調査会報告18集
14号	完掘	円形	404×403×20	○						2本柱のみ	阿玉台Ⅱ	調査会報告18集
15号	完掘	円形	573×499×35			②				入口に張り出し、17位を埋める	加曽利 E III	市内遺跡群3
16号	完掘	隅丸方形	338×337×25	②			○				加曽利 E II 新	市内遺跡群3
17号	完掘	隅丸長方形	684×525×70	②			○	有	○	拡張3、15住に切られる	加曽利 E I 新	市内遺跡群3
18号	完掘	隅丸長方形	608×600×90	○		△	○		○	石囲いの可能性有、19住に切られる	加曽利 E I 新	市内遺跡群3
19号	完掘	隅丸長方形	476×448×60	②		△				石囲いの可能性有、18住を切る	加曽利 E II	市内遺跡群3
20号	完掘	隅丸方形	473×483×28			○				罫り口近くに配石、伏甕	加曽利 E II 中	市内遺跡群3
21号	40%	(隅丸)	?×?×10	○					○	20・24住より古い	加曽利 E I 新	市内遺跡群3
22号	完掘	隅丸五角形	491×513×113	○					○		加曽利 E I 新	市内遺跡群3
23号	25%	不明	?×?×21	②		△				石囲いの可能性有、20 住より古、24住より新	加曽利 E II	市内遺跡群3
24号	10%	不明	?×?×55			未掘			○	20・24住より古、21住より新	加曽利 E	市内遺跡群3
25号	完掘	不明	(500×400)×5	○			○				加曽利 E II 新	市内遺跡群3

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 15号住居跡

【位置】調査区の南側平坦地、コー17に位置する。西側は17号住居跡と重複し、17号住居跡を埋めて本住居を構築している。

【形状】平面形態はいびつな円形を呈し、南側は70cm程張り出す。規模は主軸方位の北西-南東方向には樹木があり正確にはわからないが約6m、東西5.0m。確認面から床面の深さは35cmである。

【炉】炉は2基検出した。

炉1は住居中央に位置する。径75×60cmの楕円形に石を配置した石囲い炉で・中央は深さ15cm程窪み、南東側は被熱し赤化する。

炉2は炉1の南東部に接しており、径40cm・深さ5cmの範囲が円形に比熱し赤化する。南東部を石で囲う。炉2の覆土は床面のように硬く締まっており、最終的には炉1を使用していたと思われる。

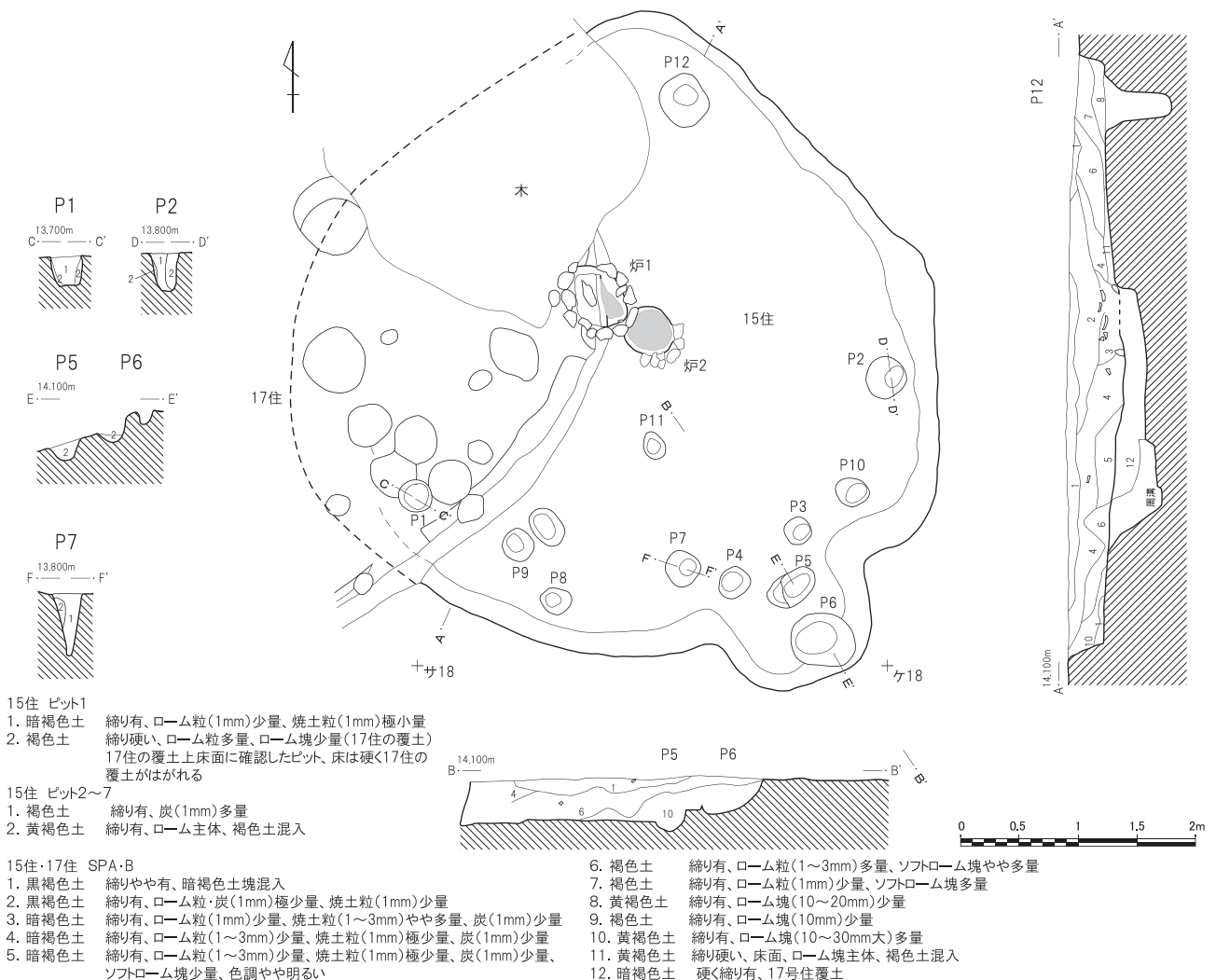
【ピット】床面上に10基、17号住居覆土内に1基検出した。P1・2・7・12が主柱穴と思われる。柱の間隔はP12-P2間が2.9m、P2-P7間とP7-P1間が2.4mである。

【床・壁】壁は緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

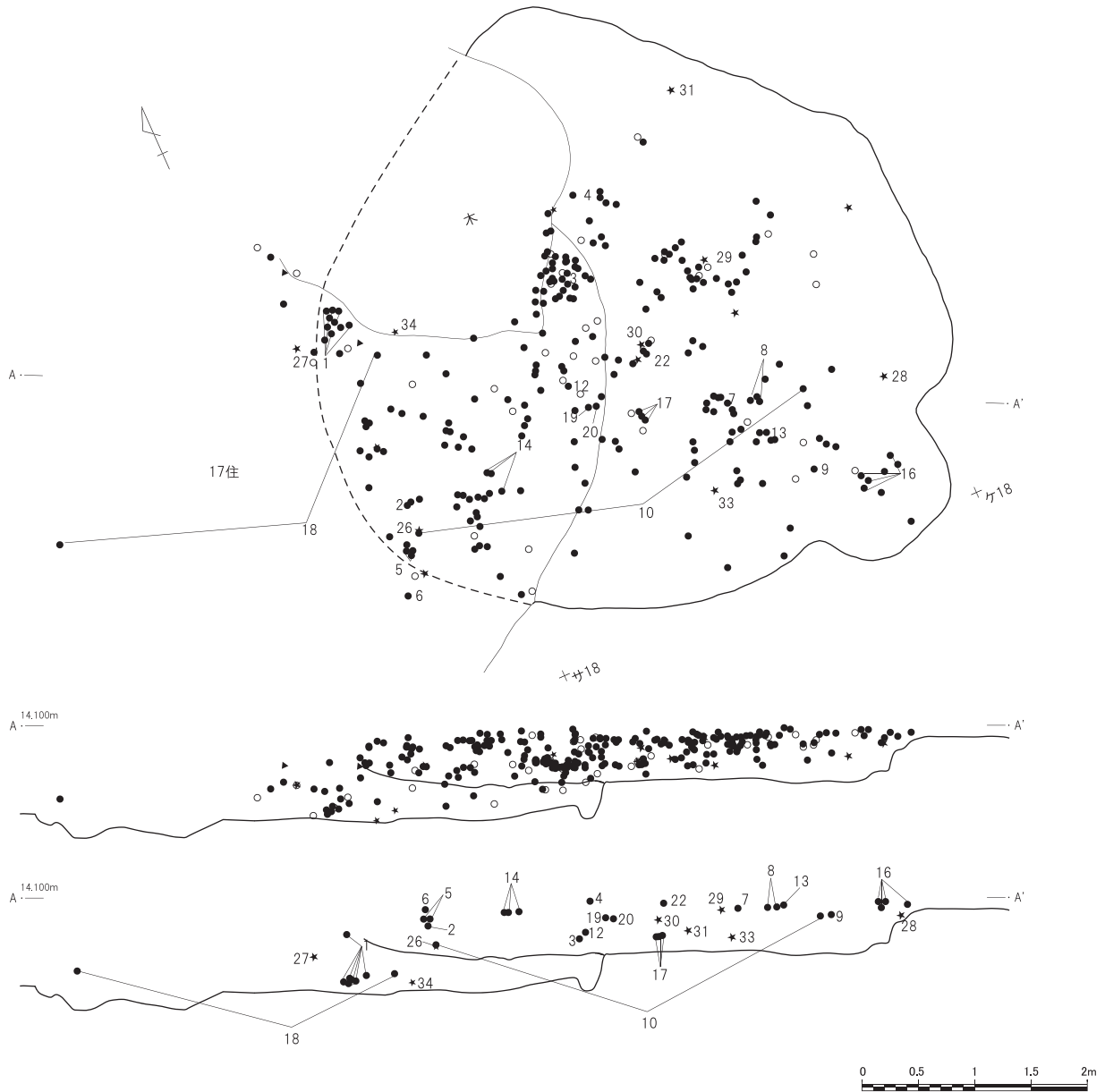
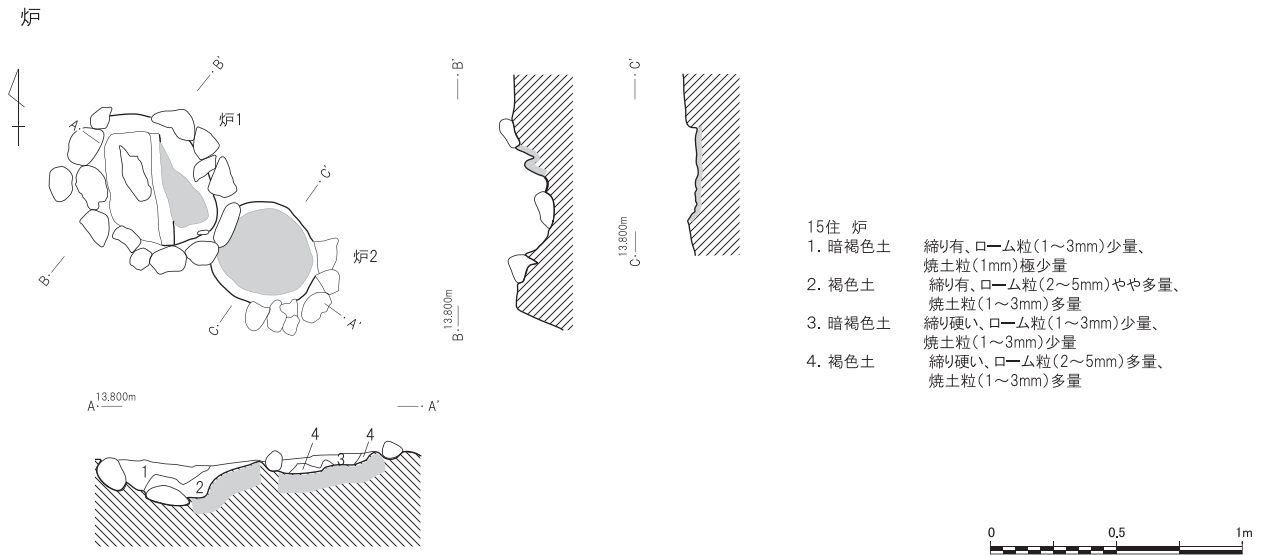
【時期】出土土器から加曾利EⅡ~Ⅲ式期。

第68表 神明後遺跡第15号住居跡ピット一覧表(単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	30×27	22×20	29	土器出土
P2	円形	36×34	20×13	34	
P3	円形	24×23	16×11	21	
P4	円形	28×26	18×15	13	
P5	楕円形	45×27	25×13	13	
P6	円形	54×45	34×26	26	
P7	円形	31×30	16×13	54	石鏃出土
P8	円形	27×23	12×12	14	
P9	円形	28×27	16×12	15	
P10	円形	29×24	20×14	13	
P11	楕円形	24×18	14×12	11	
P12	円形	46×42	21×18	55	



第127図 神明後遺跡15号住居跡 (1/60)



第128図 神明後遺跡15号住居跡炉 (1/30) 遺物出土状況図 (1/60)

【出土遺物】(第129・130図)

1は波状口縁で胴中部がくびれる深鉢である。口縁から胴中部までを完存し、底まで接合した。推定口径18cm・器高23cmである。全面に縄文を施文した後に、口縁下に2本の沈線をめぐらせ、花卉状沈線と蛇行沈線を入れる。胴下半は直下と蛇行沈線を入れる。加曾利EⅢ式併行。

2は13片が接合した深鉢で2片は17住覆土から出土した。口縁部は重弧状沈線で頸部には2本の蛇行粘土紐をめぐらせ交互刺突を加える。胴部は地文撚糸文に隆帯を貼付けて垂下文をつくる。曾利系の土器。3～9は地文縄文で口縁部文様帯と胴部文様帯から成る深鉢で、3は区画文と渦巻文で口縁部文様帯をつくり、これに続く胴部は地文縄文で直下磨消懸垂文が入る。



第129図 神明後遺跡15号住居跡出土土器 (1/4)

4は長楕円形区画と渦巻文、5は渦巻文と区画文で文様帯をつくり胴部に貼付懸垂文をもち、地文は縄文である。6は大小の円形区画文をもつ。7は丁寧につくられた小深鉢で、胴上部までの半分を残し口径14cm、現存高9cm。口縁部文様帯は長楕円形区画文で胴部は地文縄文で2本の沈線間を磨消した直下懸垂文をもつ。3と7では磨消懸垂文がよく残る。8は渦巻文と長楕円形区画で口縁文様帯をつくり、胴部は7と同巧。これらは加曾利EⅡ式新相。9は地文縄文で、口唇に交互刺突文を加え、同上部には連弧文を入れる。

10は花卉状弧状磨消をもつ。11~13は櫛描沈線を地文とする深鉢で11・12の口縁部文様帯は長方形区画と円形区画からなる。11には大きい列点、13には無文口縁がつく。11~13は加曾利EⅡ併行。

14は胴中部がくびれた深鉢で花卉状を沈線で描き垂下沈線を加える。16は大深鉢の胴中部で花卉状を囲む

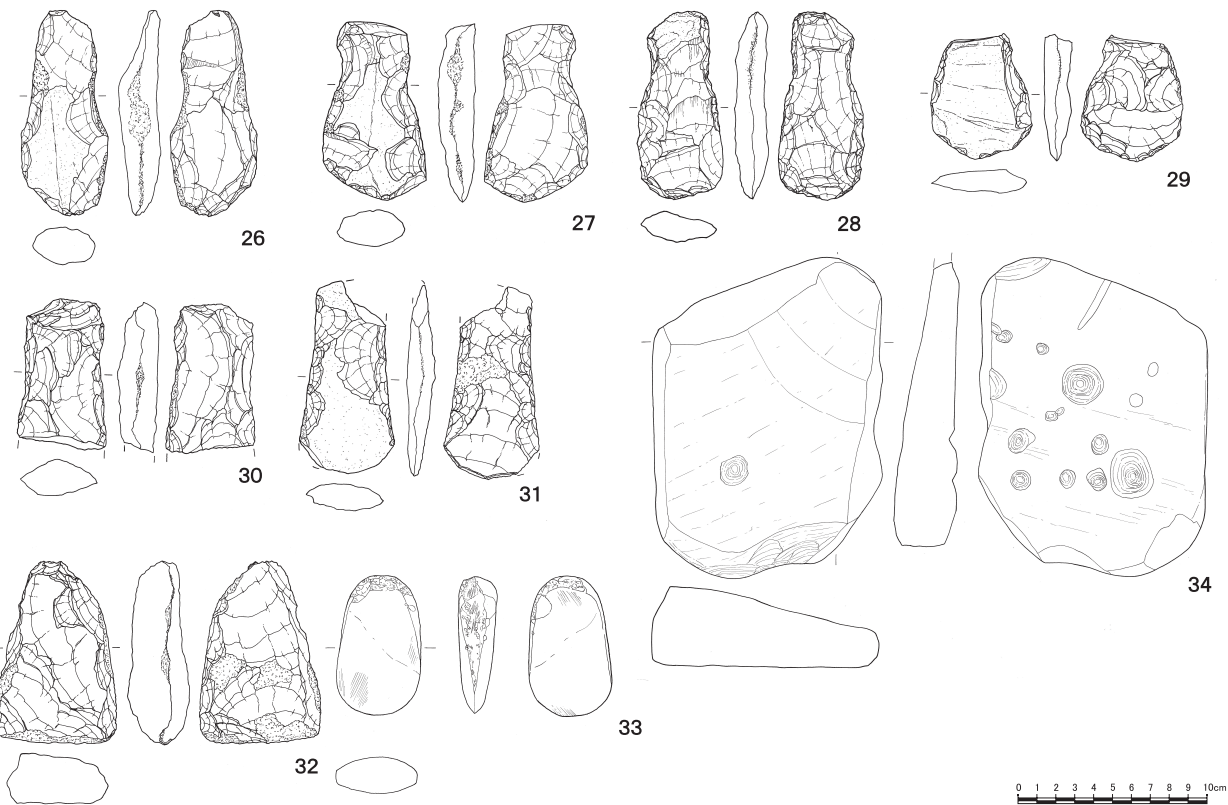
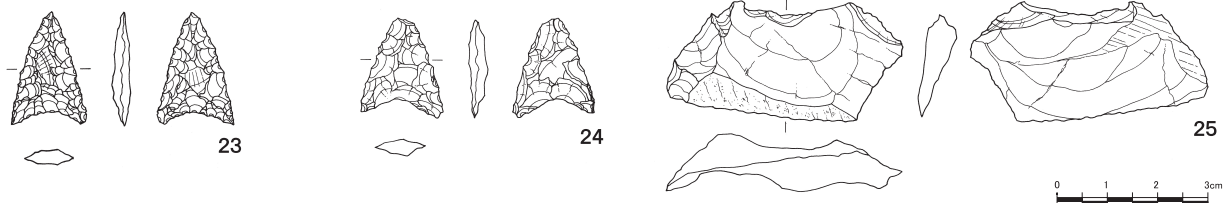
磨消の交差部。14~16は加曾利EⅢ式。17は無文口縁下に突出隆帯を作る。加曾利EⅡ併行の異系統の土器。18は地文縄文で連弧文と垂下沈線を入れる。

19は有孔鏝付土器であり、鏝の上下に孔が貫通する。表面には弧状隆帯の外に列点文を加える。裏面は黒色様磨きを加えられている。20は有孔鏝付土器の鏝部で、口縁基部に円孔が貫通する。21も有孔鏝付土器で内面に赤色塗彩がある。

22は深鉢の無文底部で、細く整美な網代痕が残る。石器は石鏝2、スクレーパー1、打製石斧9、敲石4、磨製石斧1、くぼみ石1、剥片1の計19点が出土し、うち12点を図化した。

23と24はP7出土の黒曜石製石鏝。

15住出土土器は17住と重複するために、両者の接合例が多い。15住覆土出土の土器片890を割愛したが、それらは中期後半のものがほとんどである。



第130図 神明後遺跡15号住居跡出土石器（1/4、2/3）

## (2) 16号住居跡

【位置】調査区の北東、標高12.7mから13.05mの斜面上、ク-7に位置する。

【形状】平面形態は隅丸方形を呈するが、埋甕と炉1を結ぶ線を主軸とすると、規模は主軸方位の南北方向で3.45m、東西3.35m。確認面から床面の深さは25cmである。

【炉】炉は2基検出した。

炉1は住居中央やや北に位置する。径40cm、深さ5cmの円形部分が被熱し赤化する。赤化範囲の10~15cm周囲も熱のためロームが白色化し硬化している。また、赤化範囲を中心に、楕円形の窪みが南方向と南東方向の2方向にのびる。全体の規模は125×100cmである。

炉2は炉1の北東10cm、東壁から20cmの壁際にある。全体の規模は65×58cmの楕円形である。中央部分の径43×35cm・深さ5cmの範囲が被熱し赤化する。赤化範囲の周囲も熱のためロームが白色化し硬化している。

【埋甕】南側壁際に土器が斜めに埋設されていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設されていたピットは上端径30cm、下端径15×11cm、深さ25cm。

【ピット】床面上に6基検出した。P1~P5が支柱穴と思われ、埋甕とP5を結ぶ線を中心に五角形に配置する。柱の間隔はP1-P2間が1.5m、P2-P3間1.1m、P3-P4間1.9m、P4-P5間1.8mである。

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、床面は南側が高く北側が低い。比高差は15cmある。

第69表 神明後遺跡16号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	38×31	27×22	25	土器出土
P2	円形	30×30	13×13	26	土器出土
P3	不整形	42×33	19×13	14	
P4	円形	22×18	10×9	38	
P5	円形	22×19	9×7	14	
P6	円形	32×16	19×16	40	

【時期】埋甕から加曾利EⅡ式期。

【出土遺物】(第131図)

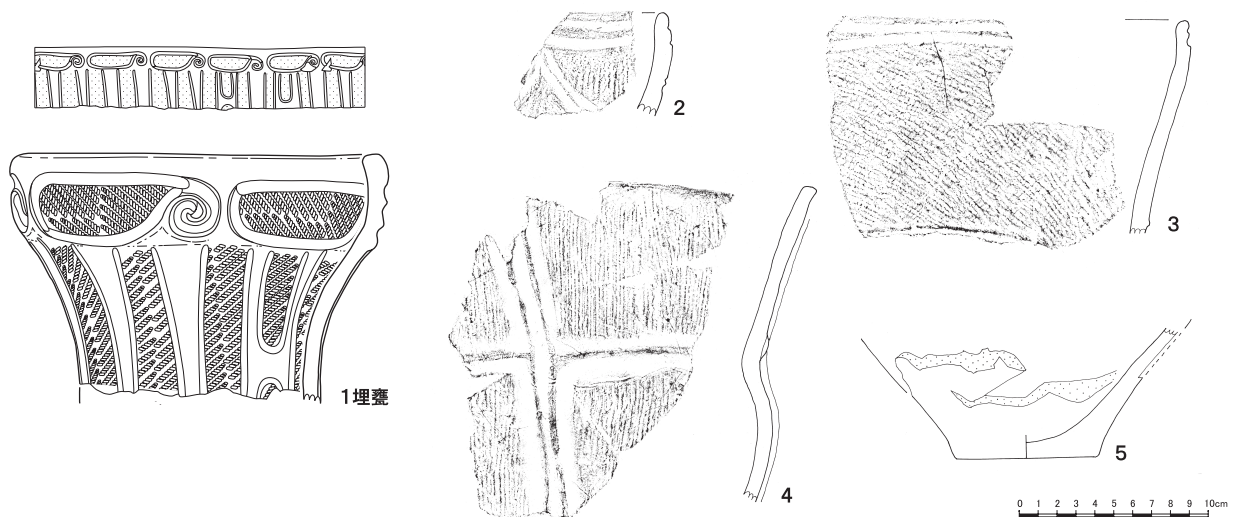
1は住居南壁近くに埋設された埋甕で、口縁から胴中部までを完存する深鉢で口径18.6cm・遺存部高13cmである。口縁部文様帯は平板な渦巻文と区画文で胴部はRL縄文を地文とし、2本の沈線間を広く磨消して直下懸垂文12単位をつくるが内3つはU字状磨消で上下折返しがある。加曾利EⅢ式に近い。

2は地文撚糸文で2本組みの連弧文を入れる。

3は素口縁深鉢で、口縁下の2本の沈線のみで、体部は単位の短いLR縄文の地文のみである。現存部高11cmである。1と同時期の深鉢。

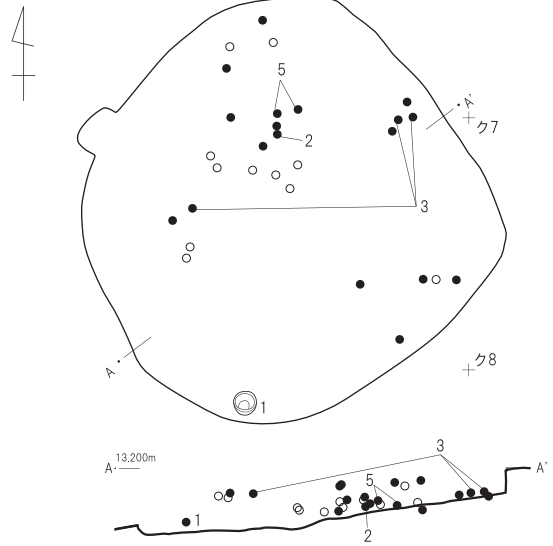
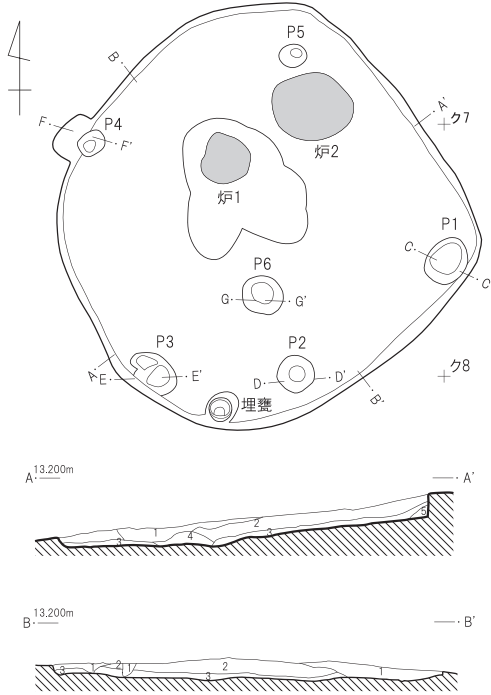
4は僅かに波状となる素口縁の深鉢で、胴中部までを遺存する。地文条線で、頸部に横位のほか、波頭部から貼付隆帯2本を垂下させる。加曾利EⅡ式併行の土器。5は浅鉢の底部であるがハジケ痕が著しい。

出土土器のうち60片を割愛したが殆んど加曾利EⅡ式とEⅢ式及び併行期のものである。黒曜石の剥片3も割愛した。



第131図 神明後遺跡16号住居跡出土土器 (1/4)

遺物出土状況

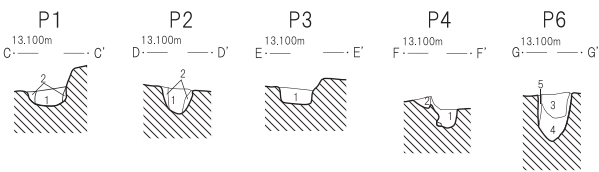


16住 SPA・B

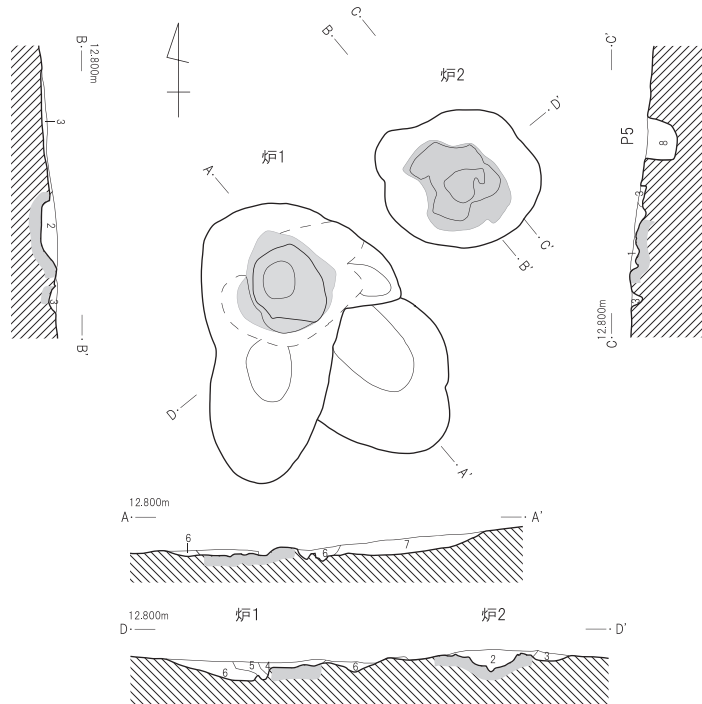
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)やや多量、ローム塊(20mm以下)少量、獣骨含む、表土
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量、焼土・炭化物(1mm以下)極少量
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、しみ状にローム土多量、焼土・炭化物(1mm以下)極少量
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒・焼土(2mm以下)やや多量、色調暗め
- 5. 黄褐色土 締り強、粘性有、地山のローム土に似るが焼土・炭化物(1mm以下)少量

16住 ビット(主柱穴)

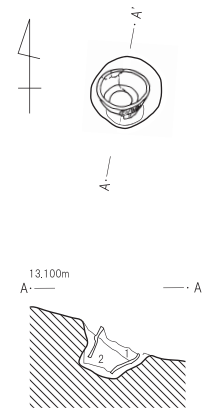
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1~2mm)やや多量、炭化物(2mm以下)わずか
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土としみ状の暗褐色土塊が半々密に堆積する P4はローム粒少量含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、炭化物(3mm以下)やや多量、焼土(1mm大)少量
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、3層に比し色調明るめ
- 5. 2層に同じ



炉



埋甕



16住 埋甕

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多量、焼土(1mm以下)わずか
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、ベースとなる暗褐色土は1層に比し色調暗め、ローム粒(2mm以下)やや多量、炭化物(1mm以下)わずか

16住 炉 1・2

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土(2mm以下)やや多量
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土(5mm以下)多量
- 3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、混入物少ないしみ状のローム塊含む。焼土(1mm以下)わずか、焼成面裏の土
- 4. 暗褐色土 締り有、粘性有、焼土(5mm以下)多量
- 5. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒・焼土(2mm以下)多量
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム塊(5~10mm)多量
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少量、ローム分多量、色調明るい地山の土とはあきらかに違う



第132図 神明後遺跡16号住居跡遺物出土状況図 (1/60) 炉・埋甕 (1/30)



## (3) 17号住居跡

【位置】調査区の南側平坦地、シー16に位置する。東側は15号住居跡と重複し、15号住居跡によって壊される。また東側も樹木によって壊される。

【形状】平面形態は隅丸長方形を呈し、若干南側の幅が広がる。規模は主軸方位の北西-南東方向で6.85m、横幅5.45m。確認面から床面の深さは70cmである。

【炉】炉は重複した状態で2基検出した。全体規模は175×100cmある。

炉1は住居中央北西寄りに位置し、炉2を埋めて構築している。上端幅90cm・深さ20cmの楕円形を呈し、中央から南西側にかけて径50cmのローム面が被熱して赤化し、20cmほど窪む。赤化部分の周囲10~20cmが溝状に10cmほど深くなっている。おそらく本来は、赤化していない帯状の溝に石を埋設した石囲い炉であったと思われる。

炉2は住居中央、炉1の南東部に重複し、炉1より古い。上端125×100cm・深さ15cmの隅丸長方形を呈し、中央部分の90×55cmのローム面が被熱し赤化する。

【埋甕】南東側壁際で若干内側向きの斜め方向に土器が埋設されていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設していたピットは上端径36cm、下端径20cm、深さ30cm。

【周溝】周溝は5本検出した。上幅は15~30cmである。溝1は最も内側で、3.5×3.5mの規模があり、床面からの深さ4~8cm前後と浅く、ローム主体の土で硬く踏み固められていた。

溝2は溝1の南西側へ50cm、主軸方向の南東側へ70cm広くなり4.0×4.0mの規模、溝3は溝2より南東側へ80cm外側に構築され、4.0×4.8mの規模である。溝1と同じくローム主体の土で硬く踏み固められていた。床面から深さ12cm、断面「U」字形。

溝4は溝3から短軸方向へ30cm、主軸方向の南東側へ50cm広くなり6.0×5.0mの規模。床面からの深さ15~25cm前後で、南側ほど深くなる。断面「コ」字形。

溝5はテラスのように床面が一段高くなった最外周の壁際に部分的に構築されている。溝4から主軸方向の北西側と北東側に30cm広くなり6.2×5.2mの規模。床面から深さ20cm、断面「コ」字形。

【ピット】床面上に35基検出した。P13・17・19・21は溝1に伴い、P1・9・12・14・22は溝2、P4・5・6・8・10は溝3に、P2・7・11・15・18・20は溝4に伴う柱穴と思われる。溝4の段階ではP2・11・14・15・20が支柱穴と思われ、柱の間隔はP2-P11間が3.0m、P11-P14間は2.5m、P14-P15間は1.9m、P15-P20が2.4mである。

【床・壁】壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は中央がやや深いもののほぼ平坦である。

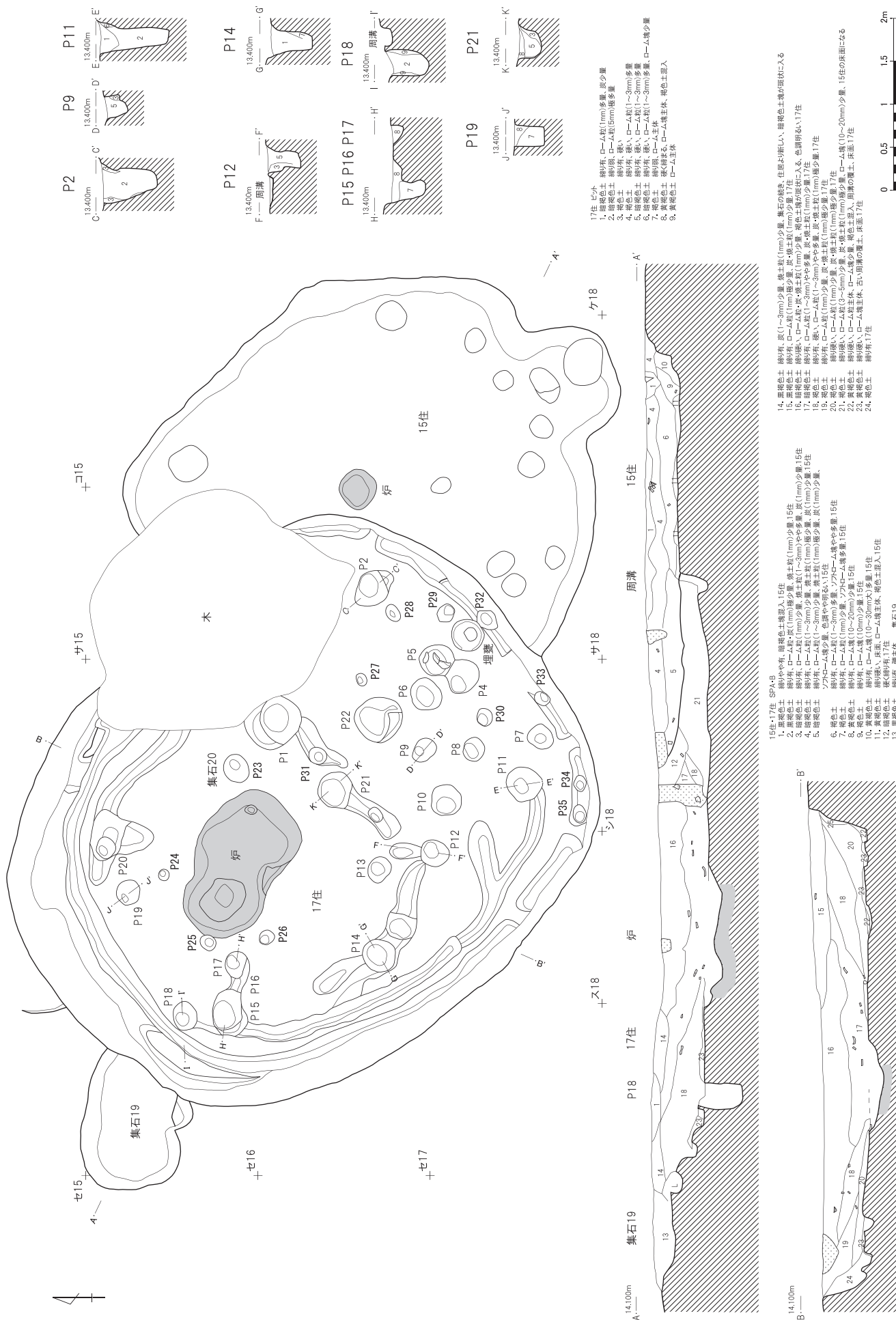
【時期】出土土器から加曾利EⅠ新~EⅡ式期。

第70表 神明後遺跡17号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

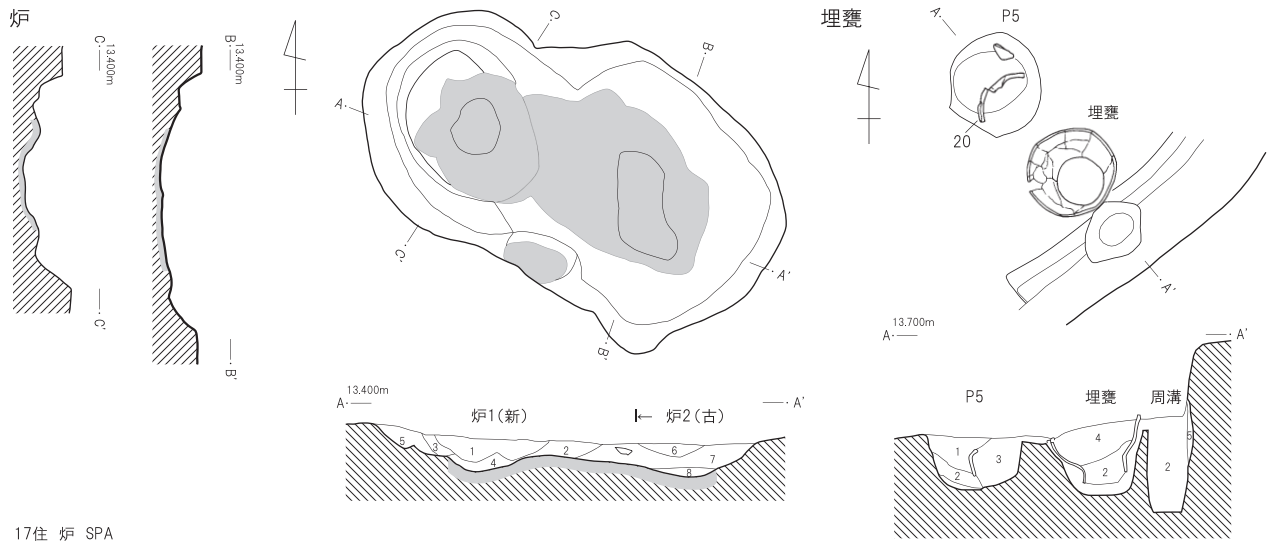
	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	67×64	32×29	66	
P2	楕円形	52×38	27×23	70	土器出土
P3	円形	22×18	14×12	20	
P4	円形	42×38	20×16	14	
P5	円形	42×36	29×24	20	打斧出土
P6	円形	39×34	25×17	13	
P7	円形	31×30	14×11	12	
P8	円形	28×26	20×12	63	
P9	楕円形	30×23	11×10	44	
P10	円形	37×36	22×19	16	
P11	円形	42×40	18×14	80	土器出土
P12	円形	34×30	18×15	36	
P13	円形	30×25	16×14	43	土器出土
P14	円形	40×38	26×20	52	
P15	楕円形	49×36	34×25	42	
P16	不整形	—×18	15×8	12	
P17	円形	31×22	16×13	14	
P18	円形	34×28	16×15	60	
P19	円形	28×28	10×6	35	
P20	不整形	87×54	13×8	56	
P21	円形	43×41	32×27	25	
P22	円形	54×50	42×40	11	土器出土
P23	円形	35×29	15×10	18	
P24	円形	12×12	8×8	16	
P25	円形	18×16	10×8	9	
P26	円形	15×15	10×10	12	
P27	楕円形	15×11	8×5	12	
P28	楕円形	20×15	10×5	7	
P29	円形	23×20	12×12	10	
P30	円形	20×18	14×10	16	
P31	円形	20×19	10×10	31	
P32	楕円形	28×22	15×12	38	
P33	楕円形	20×14	12×8	32	
P34	楕円形	18×15	12×10	14	
P35	楕円形	22×15	12×10	14	

【出土遺物】(第136~138図)

1は埋甕であり、口縁から胴中部までを完存し、口径34.6cm・現存高21cmである。口縁部・胴部共に地文はRL縄文である。口縁部文様帯は渦巻文と区画文で



第133図 神明後遺跡15号・17号住居跡(1/60)

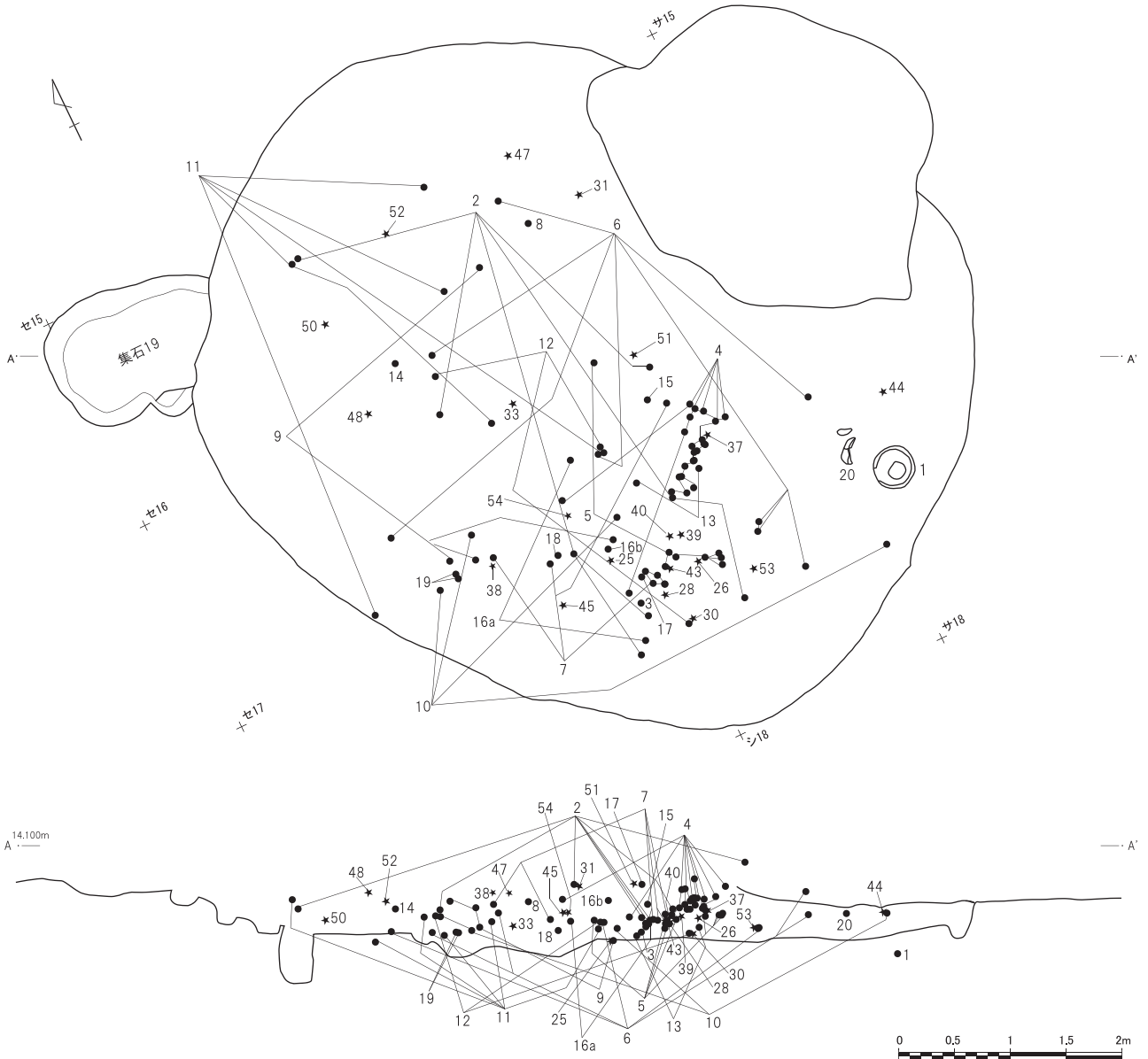


17住 炉 SPA

- 1. 黒褐色土 締り強、ローム粒(2~5mm)少量、炭(2~5mm)少量、焼土粒(2~5mm)やや多量
- 2. 暗褐色土 締り硬い、炭(2~5mm)少量、焼土粒(2~5mm)極多量
- 3. 暗褐色土 締り有、ローム粒(2~5mm)極多量、炭(1mm)少量、焼土粒(1~3mm)少量
- 4. 赤褐色土 締り弱、ローム粒(1~3mm)多量、炭(1mm)少量、焼土粒(1~3mm)極多量
- 5. 褐色土 締り有、ローム粒(3~5mm)多量、炭(1mm)極少量、焼土粒(1~3mm)極少量
- 6. 黒褐色土 締り有、ローム粒・炭・焼土粒(1mm)少量
- 7. 褐色土 締り有、ローム粒(1mm)極多量、炭(1mm)少量、焼土粒(1~3mm)極多量
- 8. 赤褐色土 締り有、炭(1mm)少量、焼土粒(2~5mm)極多量

17住 ピット5・埋め葬

- 1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~2mm)少量
- 2. 暗褐色土 締り弱、ローム粒(1~2mm)少量
- 3. 褐色土 締り硬い、ローム塊(20~30mm)多量、炭(1~3mm)やや多量
- 4. 暗褐色土 締りやや有、ローム粒(2~5mm)少量
- 5. 褐色土 締り有
- 1・2・3層は古い葬の廃棄か



第134図 神明後遺跡17号住居跡炉・埋葬 (1/30) 遺物出土状況図① (1/60)

あるが、渦文間がつなぎ文状に連結すること、渦巻の尖端がペン先状という特徴がある。頸部無文帯下に粘土紐を貼付けて蛇行状にめぐらす。胴部には2本組み隆帯を貼付けて直下懸垂文とする。赤～黄褐色を呈する。加曾利E I新式であるが曾利系の要素を含む。

2は口縁から胴中部までを遺存する深鉢で、口径25cm・現存高18cmである。幅狭の無文口縁下に隆帯をめぐらせ体部と区別する。体部の地文は管状工具による縦位の沈線列であり、隆帯を貼付けて2本組みの直下と蛇行懸垂文8単位をつくる。2本組み直下懸垂文の基部は前方に突出する。胎土には橙色粒子を多く含み、焼成良好である。加曾利E I新式に併行する曾利系土器である。

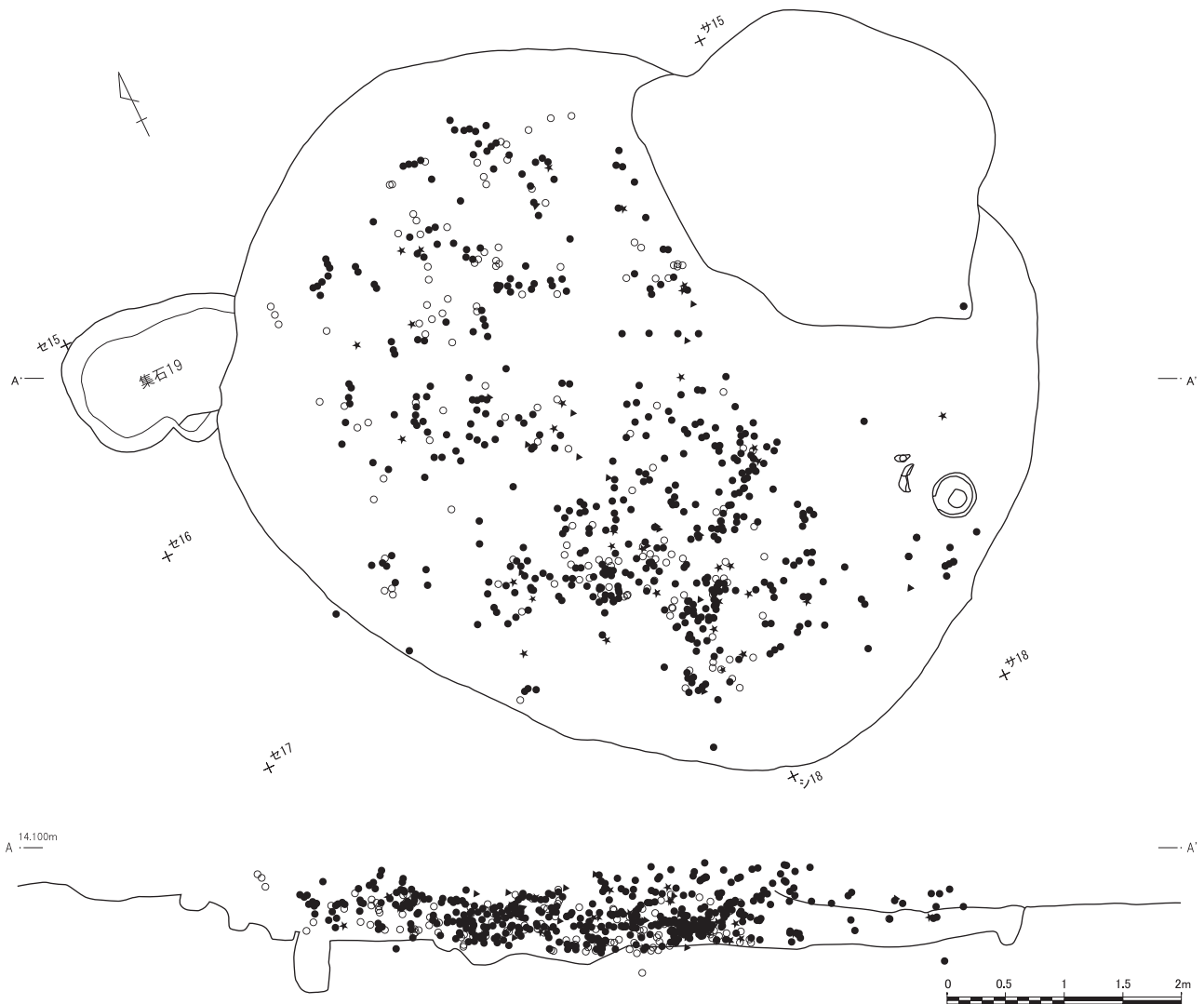
3は底板を欠くほかは口縁から底部までをほぼ完存する小深鉢で、口径17cm・器高18cmである。無文口縁の下に段差を削り、櫛状工具による条線文を地文とし、

10本の貼付垂下文をもつ。加曾利E II式併行の曾利系土器である。

4は地文条線の大型深鉢で胴上部から底部までをほぼ完存する。胴部径33cm・底径13cm・現存高31cmである。胴部には直下懸垂文と蛇行懸垂文を貼付けるが直下懸垂文には2本組みと単線のものがある。粗製の曾利Ⅲ式。

5は地文条線の深鉢で底部を欠くほかは3/4を遺存する。口径18cm・胴部径11cm・現存高19cmである。口縁は4単位の波状口縁で、2本組み沈線で渦巻文を描く。胴部には2本組み沈線を2段めぐらす。上段は端部が僅かに渦巻きになる。外面上部に煤付着。

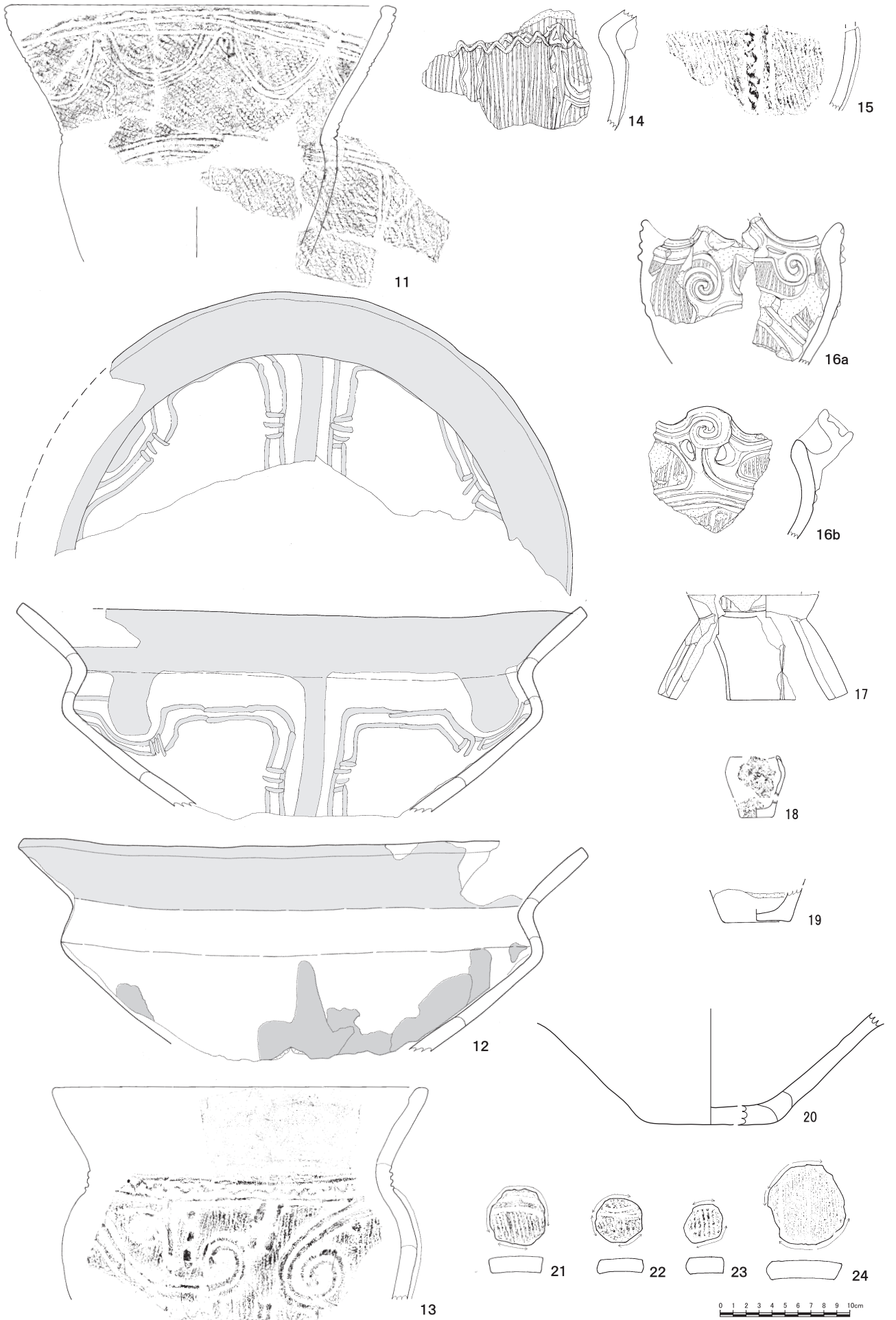
6は地文条線の深鉢で、口縁から胴中部の50%を遺存し、推定口径25cm・現存高21cmである。半裁管状工具による2本組み沈線の連弧文と水平沈線を、口縁と胴部中位の2段にめぐらす。



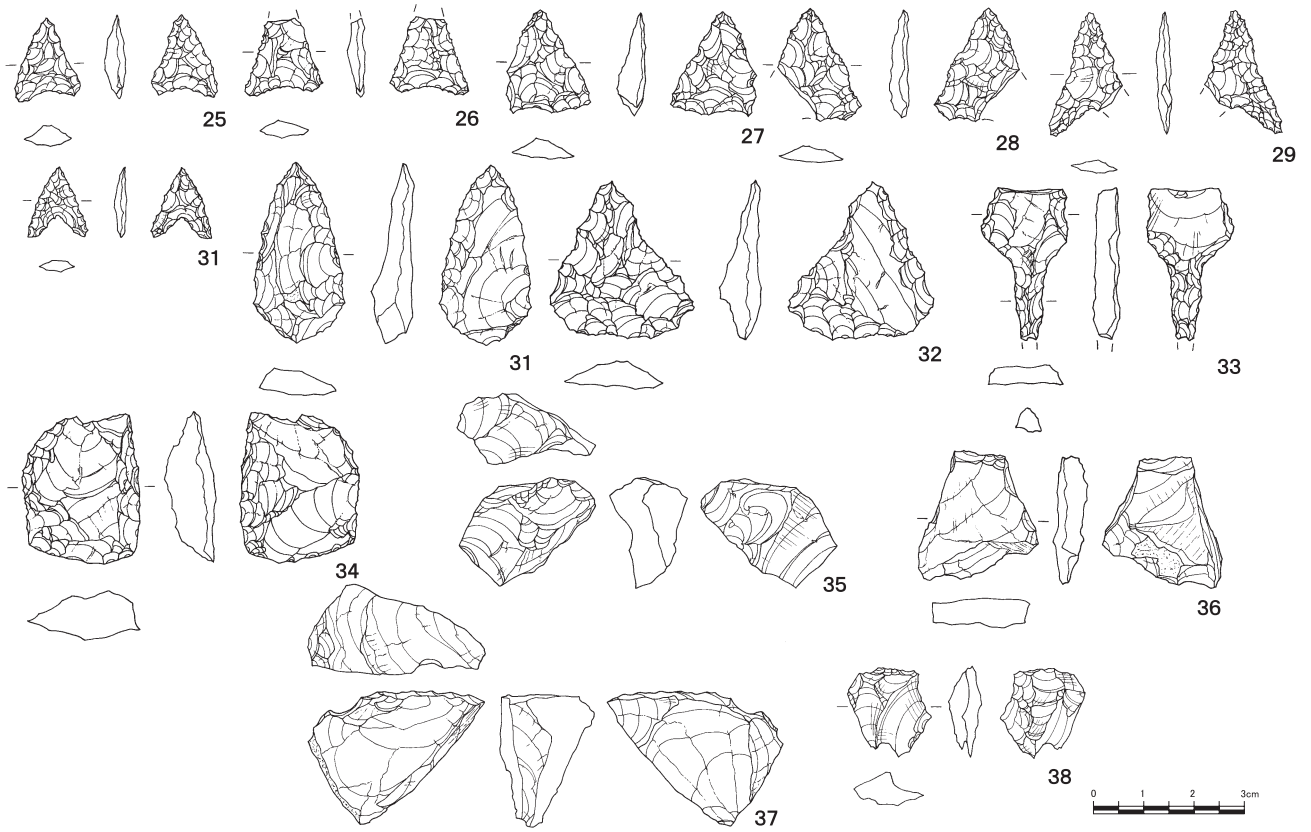
第135図 神明後遺跡17号住居跡遺物出土状況図② (1/60)



第136図 神明後遺跡17号住居跡出土土器① (1 / 4)



第137図 神明後遺跡17号住居跡出土土器② (1/4)



第138図 神明後遺跡17号住居跡出土石器 (1 / 4、2 / 3)

7は素口縁の深鉢であり口縁から胴下部までを遺存し口径25cm・現存高25cmである。地文は全面条線であり、口縁には連弧文が描かれ、胴部には2本組みの直下と蛇行懸垂文が沈線でラフに描かれる。加曾利EⅡ式に併行する曾利系土器である。

8はミニチュア深鉢で口縁から胴中部の50%を遺存し、口径10cm・現存高12cmである。地文条線の上に、胴上半には2本組みの連弧文、胴下半には直下懸垂文があり、胎土には白色細砂粒・橙色粒子を含むが整形は入念。

9は口縁と胴下部を欠くが胴中部を完存し、胴中部径16cm・現存高15cmである。半裁竹管状工具による縦位の沈線列を地文とし、頸部と胴下部に数本の沈線をめぐらすのみ。胎土に石英と微砂を多く含み暗褐色を呈する。

10は素口縁の深鉢であり口縁から胴下部までの1/3を遺存し推定口径26cm・現存高12cmである。地文は縦位RL縄文。胴部境に隆帯をめぐらせ懸垂隆帯を貼り付け、隆帯間を沈線であれば骨状に描く。

11は地文LRL縄文の深鉢で、口縁から胴中部の40%を遺存し、推定口径30cm・現存高21cmである。口縁直下に2本組み沈線の水平沈線と連弧文を、胴部中位に水平沈線と懸垂文を描く。一部の連弧から蛇行沈線が垂下する。

12は口縁から体下半部までの約40%を残す無文の大型深鉢で、口径40cm・現存高28cmである。外反する口縁部の下に内傾する口縁無文帯・体部と続く。整形は入念で、口縁の内外共に塗彩がある。本器の特徴は、器の内面全面にみられる塗彩文様である。赤と黒の彩色で2本組みの直曲線を底から口縁に伸ばし、器の屈曲部で左右に伸ばし、共に円形の外側を囲む。左右対称の図であり、4単位描かれた可能性が高い。赤と黒の彩色図形であるが、類例も知られぬ新資料である。浅鉢の形は加曾利E期のものである。6片を接合したが他の破片は不明。

13は素口縁の深鉢で口縁から胴下部までの約20%を遺存し推定口径29cm・現存高18cmである。地文は撚糸。頸部に交互刺突の蛇行隆帯、胴部には2本組み隆帯で唐草文（渦巻文）が描かれる。胎土に角閃石粒を含む。加曾利EⅡ式に併行する曾利系土器である。

14は粗い櫛描条線を地文とする深鉢で、頸部に2本の蛇行隆帯をめぐらせ、胴部には貼付隆帯でクランク文と蛇行文をつくる。加曾利E式併行の曾利式。

15は地文撚糸の深鉢で、交互刺突の蛇行懸垂隆帯と懸垂隆帯を貼り付ける。

16aと16bは同一固体と思われる地文撚糸の深鉢で、口縁は渦巻き文の中空把手を配し、胴部にも渦巻き文を隆帯で貼り付ける。口縁外面に炭化物付着、内面にはハジケが認められる。

17は土器を乗せる器台で、脚下底の一部は中央で、弧状沈線で囲う。

18は無文のミニチュア土器で波状口縁。推定口径4cm・底径2.5cm・高4.8cm。19深鉢の、20は浅鉢の底部破片で、20はP5出土。

21～24は側面調整の著しい土製円盤で、地文は異なり21と22は地文撚糸文、23は沈線列、24は条線である。いずれも加曾利E式のもの。

17住出土土器は15住と重複するために、両者の接合例が多い。17住覆土出土の土器片3000を割愛したが、それらは中期後半のものがほとんどである。

石器は石鏃7、石槍2、ドリル1、楔形石器3、石核2、石匙1、打製石斧10、敲石7、磨製石斧1、磨り石3、石刃1、くぼみ石1、剥片1の計39点が出土し、うち30点を図化した。

#### (4) 18号住居跡

【位置】調査区の中央サー12、平坦地から斜面地にかけて立地する。西側は19号住居跡と重複し、19号住居跡によって壊される。

【形状】平面形態は胴張りの隅丸方形を呈する。規模は主軸方位の南北方向で4.5m以上、横幅4.0m。確認面から床面の深さは90cmである。

【炉】炉は住居中央北西寄りに位置する。上端幅142×75cm・深さ15cmの楕円形を呈し、中央部分のローム面が被熱して赤化するが、赤化部分の中の110×60cmの範囲は10～20cm幅で溝状に5cmほど深くなり、赤化していない。溝に石を埋設した石囲い炉であった可能性がある。

【埋甕】南東側壁際で若干外側向きの斜め方向に土器が埋設されていた。底近くには10cmほどの平たい自然



- 18住・19住SP  
 1. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少量、灰・焼土粒(1mm)やや多量  
 2. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、灰(1mm)やや多量、焼土粒(1~3mm)多量、礫、土器含む  
 3. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、灰・焼土粒(1mm)少量  
 4. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量、灰・焼土粒(1mm)極少量  
 5. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)多量、灰・焼土粒(1mm)極少量  
 6. 褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1mm)少量  
 7. 暗褐色土 締り有、硬い、ローム粒(1~5mm)少量  
 8. 褐色土 締り有、硬い、ローム塊少量  
 9. 黄褐色土 締り硬い、床面、褐色土ローム塊の混合土  
 10. 黒色土 締り有  
 11. 黒褐色土 締りやや有、クロコケ土に12層の塊が斑状に混入、土器多量  
 12. 暗褐色土 (上層の土器)  
 締り有、ローム粒(1~3mm)やや多量、灰・焼土粒(1mm)やや多量、土器多量(12層の下層部分)  
 13. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量  
 14. 褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)やや多量、16層の塊が斑状に混入  
 15. 褐色土 締り硬い、ローム粒(1~3mm)多量、ローム塊少量  
 16. 褐色土 締り硬い、ローム粒(1~3mm)多量、焼土粒(1~3mm)少量  
 17. 褐色土 締り硬い、ローム粒(1~3mm)少量  
 18. 黄褐色土 締り硬い、ローム粒(1~3mm)少量、ローム塊少量、壁の崩れたもの  
 19. 褐色土 締り有、ローム粒(2~5mm)少量  
 20. 黄褐色土 締り硬い、ローム塊主体、床面



第139図 神明後遺跡18号・19号住居跡 (1/60)

礫が置かれていた。土器は胴下半を打ち欠いた深鉢である。埋設していたピットは上端径45cm、下端径22cm、深さ24cm。

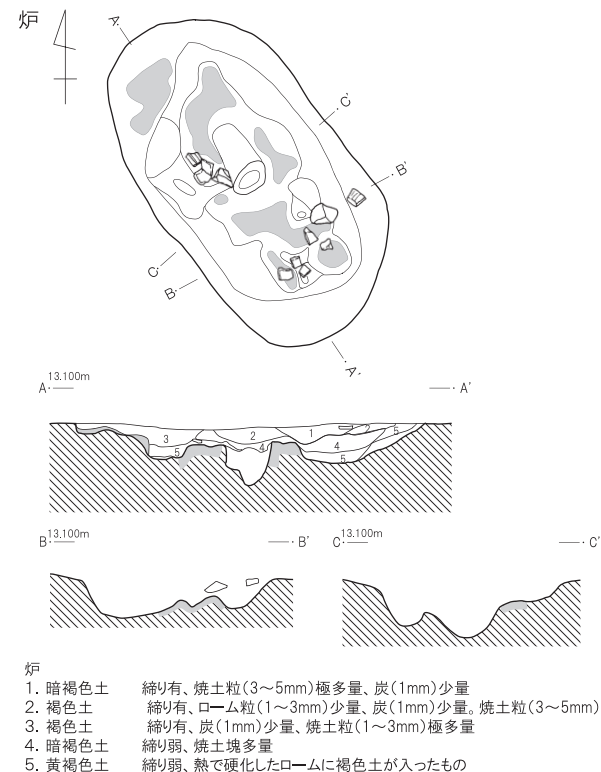
【周溝】周溝は1本検出した。上幅は25~35cm、下幅10~25cm、深さ25~30cm、断面「U」字形である。

【ピット】床面上に14基検出した。P1・3・6・7・8の5本が支柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P3間とP6-P7間が2.2m、P3-P6間は3.7m、P7-P8間とP8-P1間が1.7mである。P1とP2は掘り換えがありP2が古い。

第71表 神明後遺跡18号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	54×50	30×22	63	P2より新
P2	-	44×-	-×-	63	P1より古
P3	円形	61×50	36×21	97	P4より新 土器・石器出土
P4	円形	54×42	48×26	37	P3より古 土器出土
P5	円形	45×40	14×13	72	土器出土
P6	円形	67×61	17×16	81	土器出土
P7	円形	47×41	16×12	56	
P8	不整形	74×46	30×21	61	
P9	楕円形	42×34	19×16	19	
P10	楕円形	50×35	24×15	79	
P11	円形	27×24	15×12	13	
P12	円形	28×26	11×10	13	
P13	不整形	24×19	12×8	11	
P14	不整形	28×26	18×16	11	

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、斜面の高い部分で90cm、低い部分で30cmの掘り込みがある。床面は平坦



である。

【覆土】床面から10~40cmほどすり鉢状に埋没した時点で大量の土器が出土している。

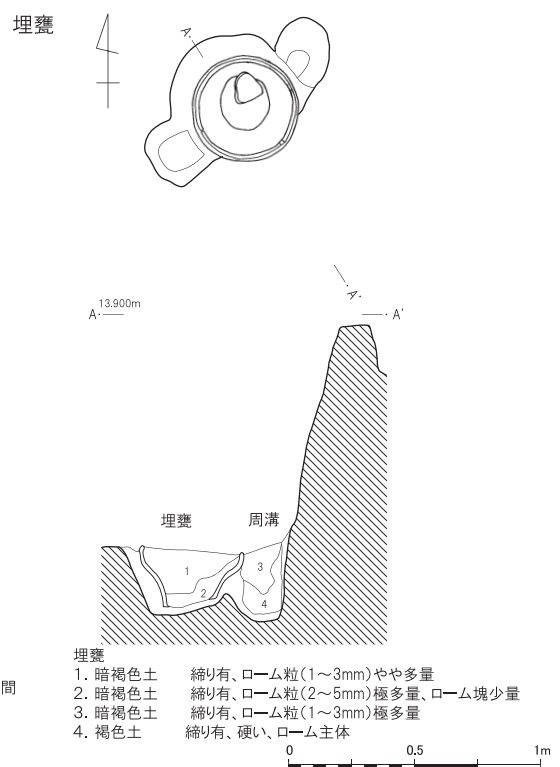
【時期】埋甕土器から加曾利E I新式。

【出土遺物】(第142~145図)

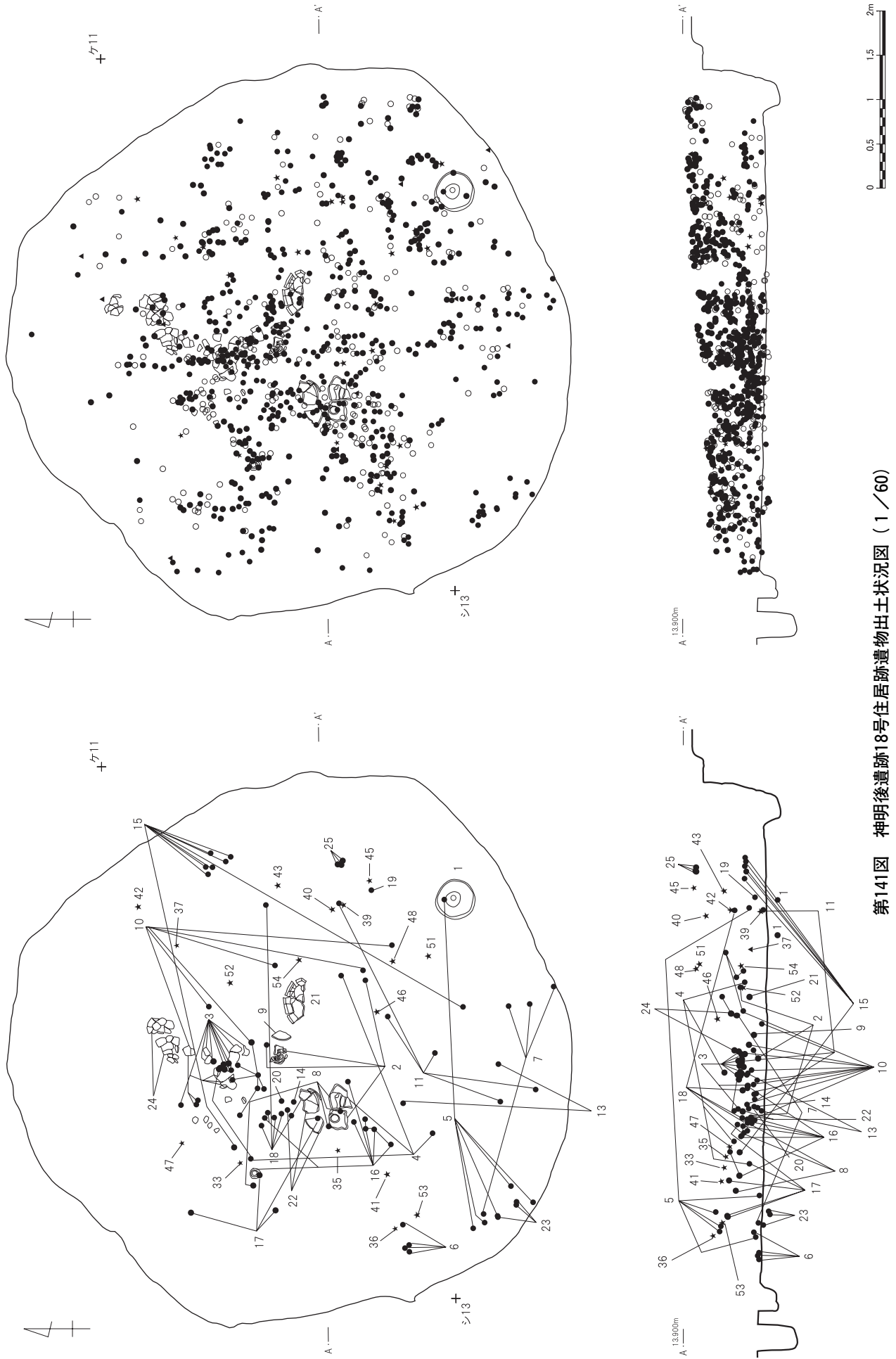
1は住居の床面南壁溝寄りに埋設された埋甕で、胴最上部以下を欠失し、口径39.4cm・遺存部高21cmである。口縁文様帯は区画文と渦巻文の2段構成で平板な特徴をもち、地文は小さいRL縄文である。幅の広い頸部無文帯下に胴部との区画沈線3本をめぐらす、以下を欠失する。胎土に橙色粒子を含み焼成良好で暗褐色を呈する。加曾利E I新式。

2は中空の波頭把手4をもつ深鉢の完形品で、口径21cm・器高27cmである。口縁部文様帯は、地文の縦位の沈線列の上に、隆帯で区画文と渦巻文の4単位を作るが、区画文の端部が渦巻いて中空の把手となる。幅の狭い頸部無文帯下の胴部は、地文RL縄文の上に、3本組垂下沈線と2本組み蛇行沈線を4単位加える。

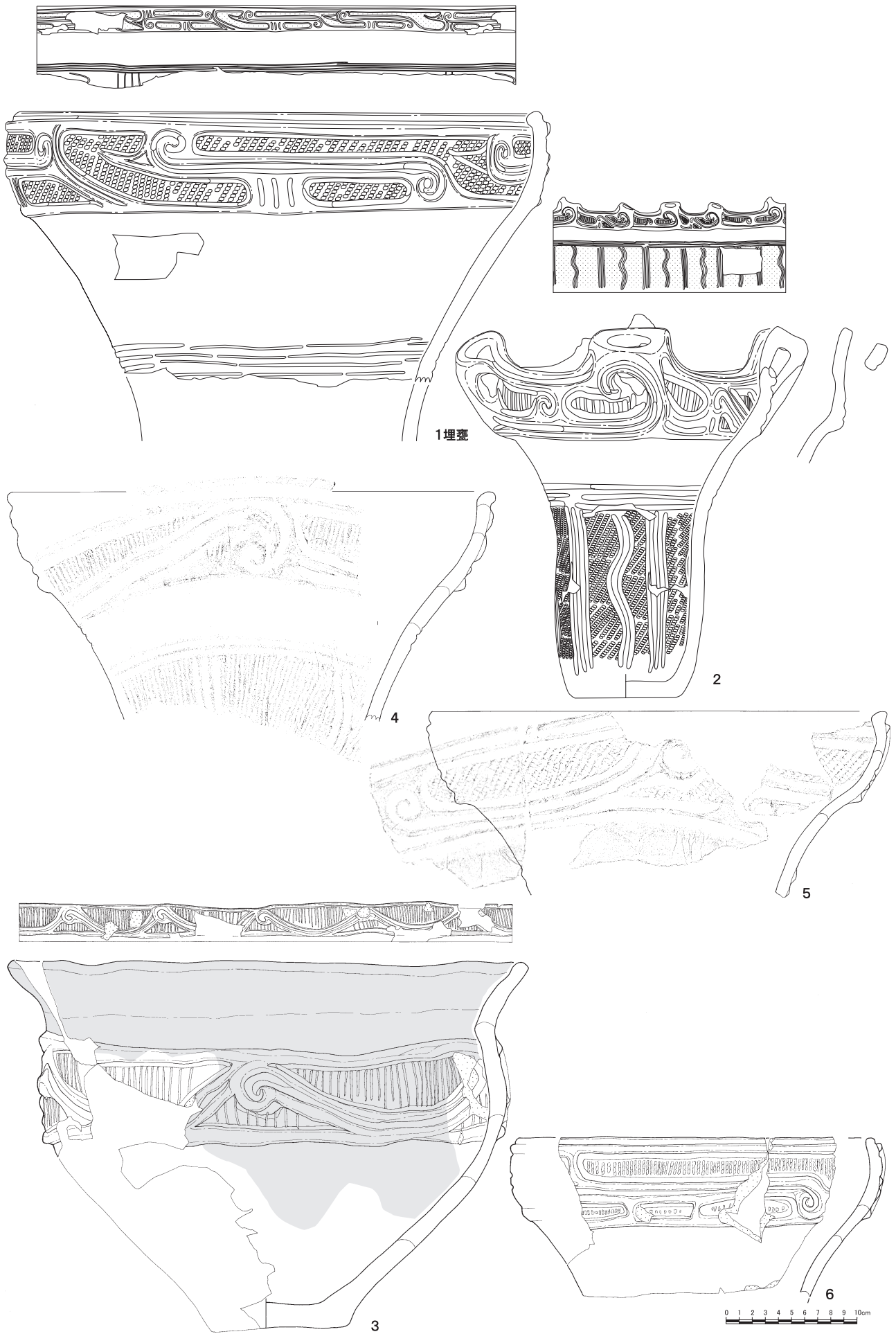
3は口縁から底までほぼ完形に復原しうる大形浅鉢で、口径38.2cm・底径11.5cm・器高28.5cmである。やや外反する無文口縁下に幅広い文様帯がある。縦位の沈線列を地文とし、隆帯で区画文と渦巻文6単位をつくる。体部は無文で整形入念である。焼成は良好で、口縁は赤色・他は黄~赤褐色で口縁部の内外に赤色塗



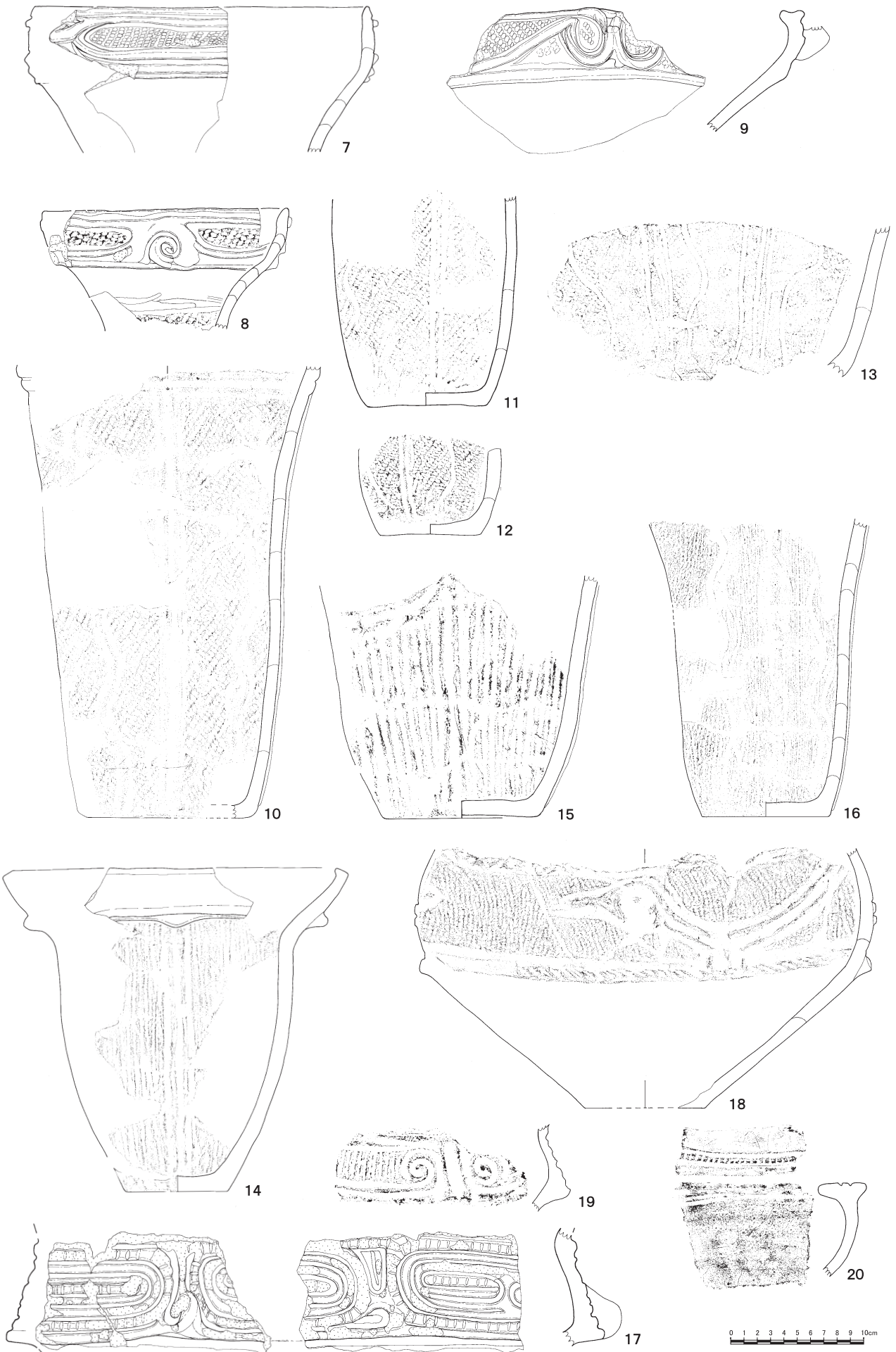
第140図 神明後遺跡18号住居跡炉・埋甕 (1/30)



第141図 神明後遺跡18号住居跡遺物出土状況図 (1/60)



第142図 神明後遺跡18号住居跡出土土器① (1 / 4)



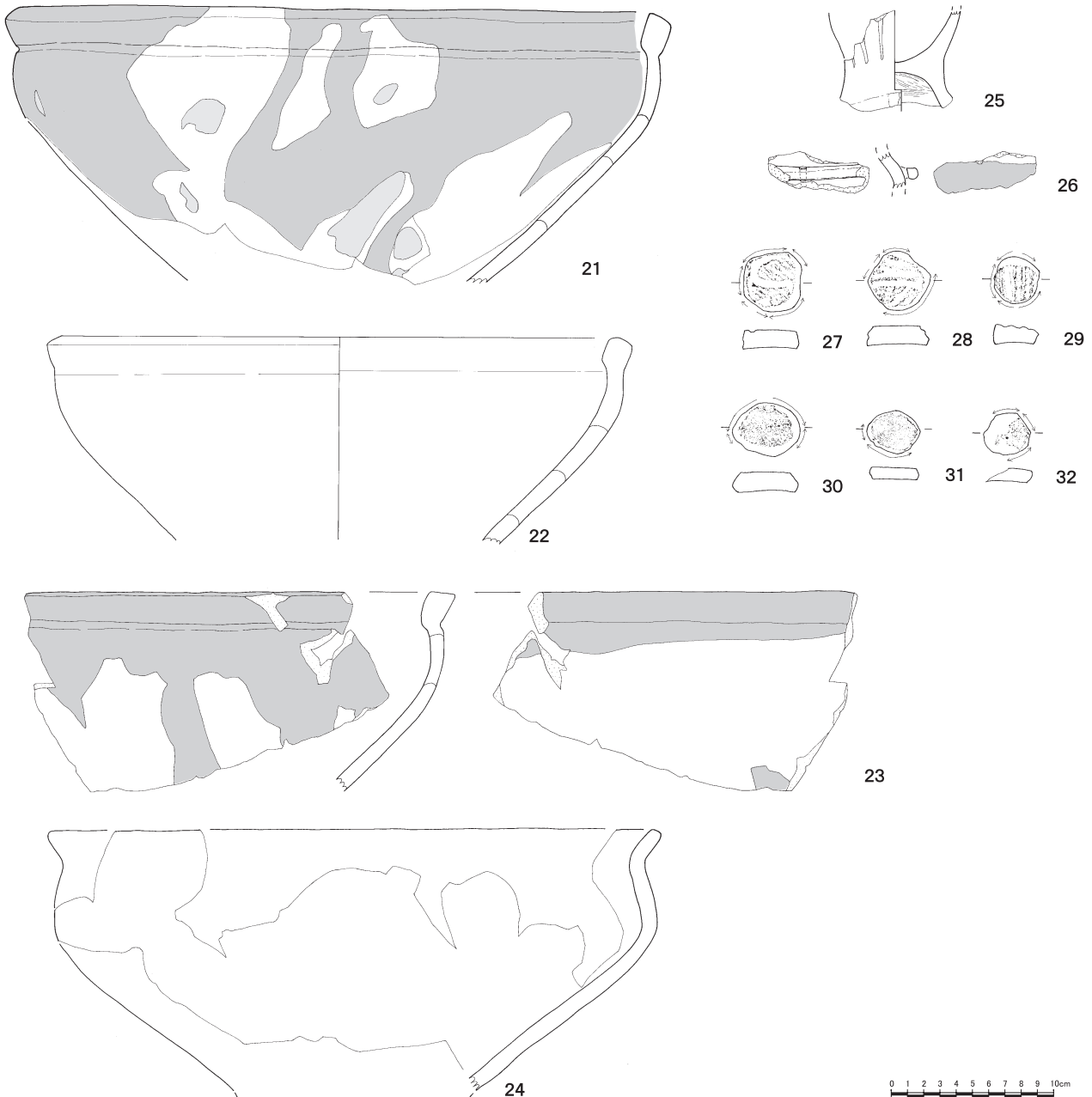
第143図 神明後遺跡18号住居跡出土土器② (1/4)

彩が認められる。加曾利 E I 式大型浅鉢である。

4～11は口縁部文様帯・頸部文様帯・胴部文様態からなる深鉢で、4～6は2本組み隆帯で長楕円形区画と渦巻文で口縁部文様帯をつくる大形深鉢で、4の地文は深い撚糸文を地文とし、胴部には2本組直下と蛇行懸垂文6単位で口径36cmである。5は地文縄文で4に近い文様構成をとるが渦巻文が突出し口径34cm。6は雑な撚糸文を地文とする中形深鉢。7は地文縄文で渦巻部が突出する。8は地文縄文の小深鉢で、口縁文様帯は沈線で区画し、胴部は地文のみ。4と5は典型的な加曾利 E I 新式中相。6～8は加曾利 E I 新式新相。

9は口縁部や文様帯の渦巻部が変形し地文縄文が残

る。10は胴中部から下部までの80%を遺存する。地文は RL 縄文で貼付隆帯による懸垂文は8単位。11は密な RL 縄文を地文とし、2本組み沈線の直下懸垂文と沈線による蛇行懸垂文6単位をもち底径9cm。12は11と同巧の底径7.5cmの深鉢。13は地文縄文で組成は11と同様であるが整形・施文共にラフな大深鉢。14は無文口縁の中形深鉢でラフな撚糸文を地文として沈線による懸垂文をもつ。15は太い沈線を地文とし貼付隆帯による垂下文を加える底径12cmの深鉢。16は胴中部から底までを残す底径9.6cmの深鉢であるが、地文と懸垂文共に特徴がある。地文の大部分は、櫛描き条線であるが1単位分のみは地文が撚糸文であり、直下懸垂文は貼付であるが、蛇行懸垂文は沈線で描かれる。8

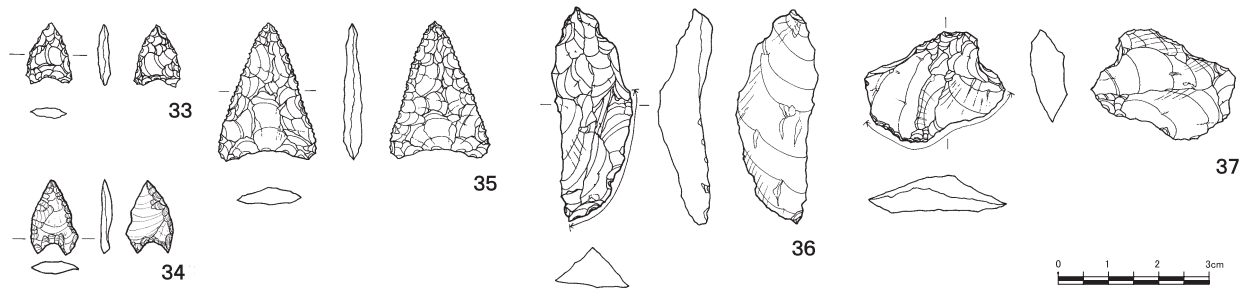


第144図 神明後遺跡18号住居跡出土土器③ (1 / 4)

～10は加曾利 E I 新式中相で、11～13は加曾利 E I 新式新相又は加曾利 E II 式古相。14～16は11～13と併行する曾利系の土器である。

17～24は浅鉢である。17は大形浅鉢の文様帯部分の30%が遺存する。沈線列を刻目付隆帯で区画し楕円形区画間の上部は渦巻状に突出する。18は口縁部文様帯をもつ大浅鉢で、地文縄文の上に隆帯を貼付けて区画文とペン先状隆帯をもつ。文様帯と口縁部の境には千鳥状交互刺突文を、体部との境の区画隆帯上には刻目

を入れる。施文・整形ともに入念で、焼成良好で赤褐色を呈する。19は浅鉢の口縁部文様帯と体部のごく1部を残すが文様帯は長方形区画をつくり、区画内端部を渦巻かせ、他は縦位の沈線列であり、整形良好で赤褐色を呈する。20は平たい口縁上面に、沈線間に刻目を入れ、器の内外上面には赤色塗彩が残る。21は復原口径39cmの浅鉢で無文浅鉢である。整形・磨きが著しいという特徴をもち、外面上部に広く赤色塗彩が認められる。22は無文で整形良好な浅鉢で、口縁から底近



第145図 神明後遺跡18号住居跡出土石器 (1 / 4、2 / 3)

くまでの60%を遺存し、幅狭の口縁部の内外に赤色塗彩の痕跡が残る。復原口径は36cmである。23は口縁が外反する浅鉢で、口縁から体部下半までを遺存し復原口径42cm。特徴的なのは整形が極めて良好で横位のヘラ磨きが著しいことと、体部が6～7mmと薄いことである。内面最上部に赤色塗彩残るほか、外面の口縁頂から体部にかけて不定形の赤色塗彩が、ほぼ全面的に垂下する。24は口縁が外反し、体上部が最大径となる無文の浅鉢で口径32cm。ラフにつくられ、胎土に砂粒が多い。

25は台付深鉢型土器の台の基部で台部が花粉科植物で調整されている。

26は有孔鏝付土器の鏝部の細片で、孔は鏝基部を上下に貫通し、鏝裏面には赤色塗彩がある。

27～32は土器片を利用した土製円板で側面調整が著しく、利用土器片に差異があるがすべて加曽利E式。

石器は石鏃3、スクレーパー2、打製石斧21、敲石12、剥片2の計40点が出土し、うち22点を図化した。

3,600片が出土したが、98%は加曽利E I式である。

(5) 19号住居跡

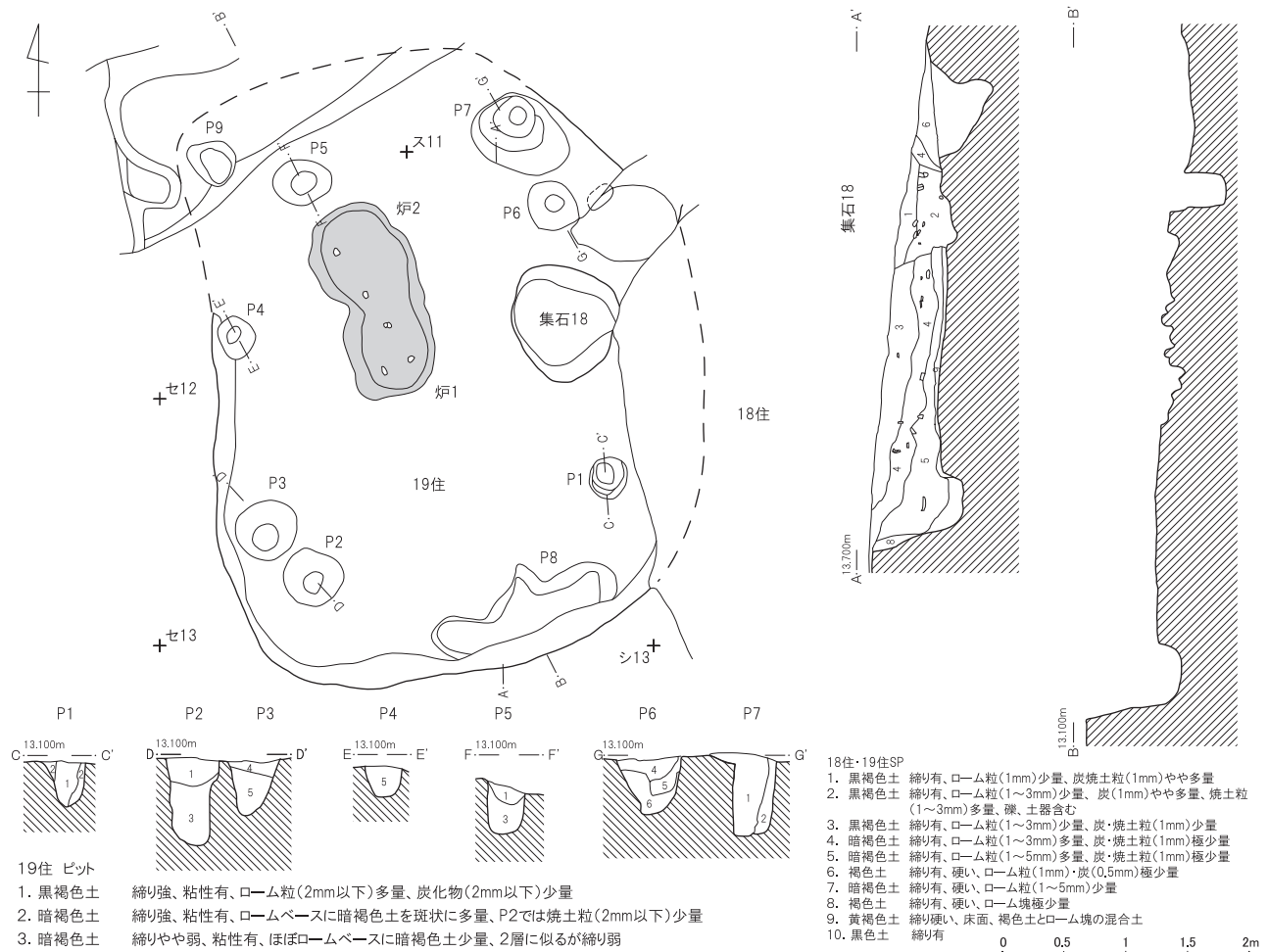
【位置】調査区の中央近いスー12、平坦地から斜面地にかけて立地する。東側は18号住居跡と重複し、18号住居跡より新しい。また、住居覆土中に集石18が構築され、北側は溝2により削平される。

【形状】平面形態は隅丸長方形を呈すると思われる。規模は主軸方位の北西-南東方向で6.05m、横幅5.70m。確認面から床面の深さは90cmである。

【炉】炉は重複した状態で2基検出した。全体規模は160×82cmある。

炉1は住居中央に位置する。上端幅72cm・深さ10cmの隅丸方形を呈し、中央部分の35×30cmのローム面が被熱で赤化する。赤化部分の周囲10～20cmが溝状に10cmほど深くなっている。

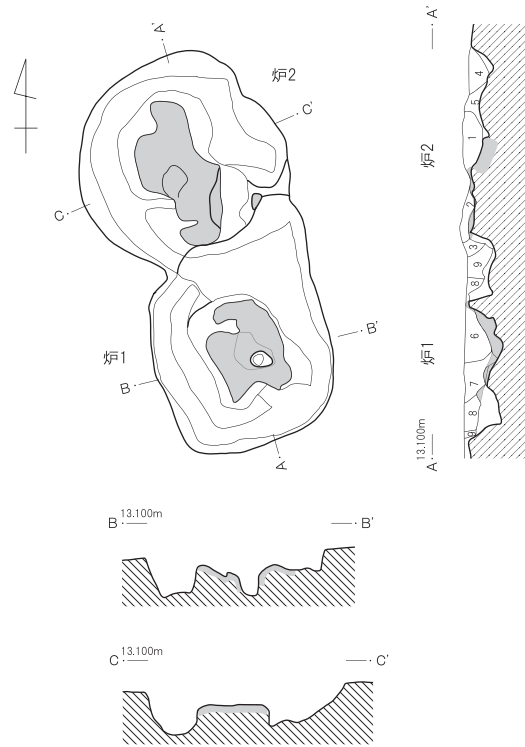
炉2は住居中央やや北寄り、炉1の北側に重複する。上端幅82cm・深さ10cmの円形を呈し、中央部分の60×35cmのローム面が被熱で赤化する。赤化部分の周囲10～20cmが溝状に10cmほど深くなっている。炉1・2ともおそらく本来は、赤化していない帯状の溝に石を



第146図 神明後遺跡19号住居跡 (1/60)

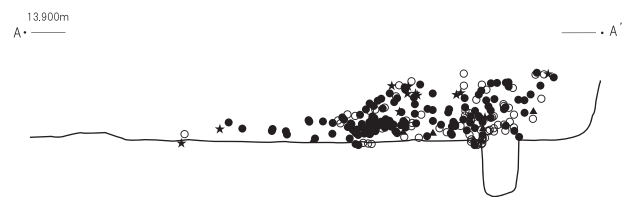
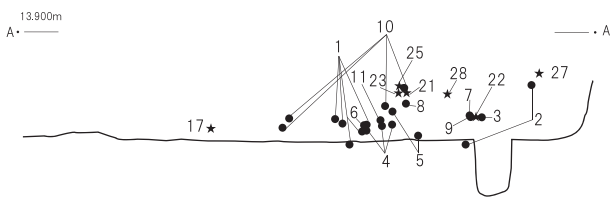
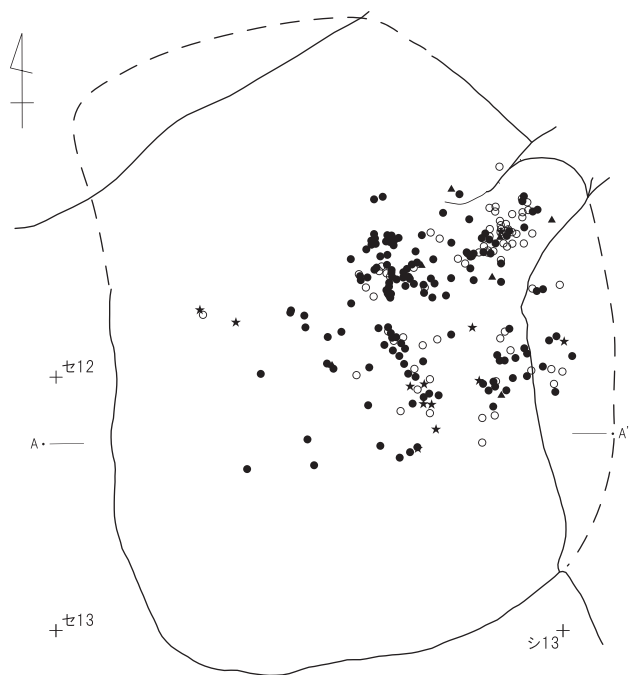
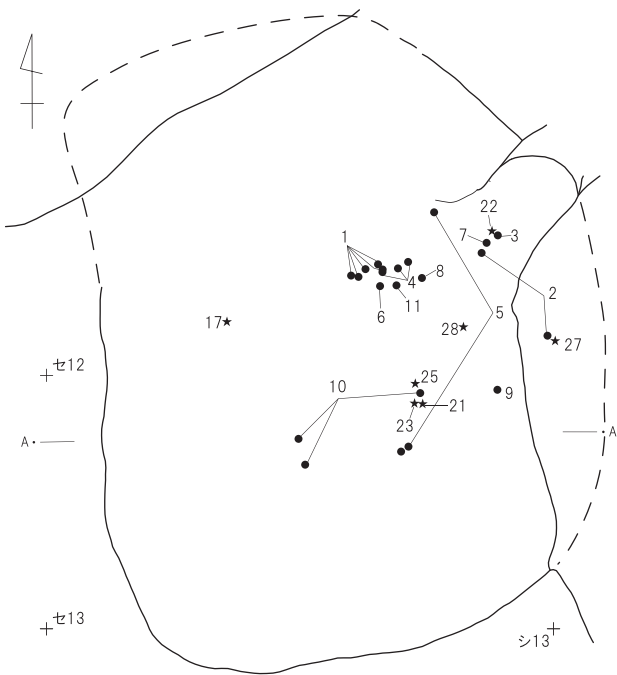


炉



炉 1・2

1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、(15mm)少(15mm)少焼土塊(15mm)少量、焼土(2mm以下)やや多量、全体に黄色味がある
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、焼土塊(最大40mm大)少量、焼土粒(5mm以下)やや多量
3. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、(10mm大)少焼土塊(10mm大)少量、焼土(2mm以下)と比熱した黄褐色ローム粒多量
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土(2mm以下)少量、ローム粒(3mm以下)多量
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、比熱して硬化したローム塊主体、すきまを暗褐色土がうめる
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土塊(5~10mm)多量
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土粒(3mm以下)多量、ローム粒(3mm以下)少量、しみ状に黒色土少量
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土粒(1~5mm)少量、ローム粒(2~3mm)多量、しみ状に黒色土少量
9. 暗褐色土 締り強、粘性有、比熱して硬化したローム塊主体、すきまを暗褐色土がうめる



第147図 神明後遺跡19号住居跡炉・埋甕 (1/30) 遺物出土状況図 (1/60)

埋設した石囲い炉であったと思われる。

【ピット】床面上に8基検出した。P1・2・5・7・9が新しいピットでP3・4・6はローム混じりの土で埋められており古い。P1・2・7・9の4本が支柱穴と思われる。柱の間隔はP1-P2間とP9-P7間が2.5m、P7-P1間は3.0m、P2-P9間が3.5mである。

第72表 神明後遺跡19号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	34×32	20×14	49	土器出土
P2	円形	48×48	18×14	58	土器出土
P3	円形	51×46	22×20	50	土器出土
P4	円形	36×30	15×10	27	土器出土
P5	楕円形	48×37	21×18	33	
P6	円形	46×40	16×14	59	土器出土
P7	楕円形	80×60	15×14	65	土製円盤出土
P8	不整形	155×32	140×20	19	
P9	楕円形	40×35	28×20	29	

【床・壁】壁は垂直に立ち上がり、斜面の高い部分で

50cmある。床面は平坦である。

【時期】出土土器から加曾利EⅡ～EⅢ式。

【出土遺物】(第148・149図)

1は口縁から胴下部までの60%を残す小深鉢で、口縁と体部はひとつの文様帯である。櫛状工具による条線を地文とし、貼付隆帯で蛇行懸垂文と直下懸垂文をラフに入れる。2次被熱によるハジケ現象が著しい。

2は口縁から胴上部までの40%を残す深鉢で、体部は管状工具による縦位の沈線列で、口縁はゆるい波状突出部を中心に重弧文をつくり、その中心部に細い貼付隆帯による蛇行文を垂下させる。覆土上層出土。

3は縦位の沈線による重弧文をもち、その境には口唇上から細い隆帯をリアルな蛇状に貼付ける。

4は地文撚糸文の中深鉢で、口縁直下に沈線を2本



第148図 神明後遺跡19号住居跡出土土器 (1/4)

